

2026

STAMP EXHIBITION  
STAMPEX JAPAN



STAMPEX JAPAN 2026

28TH-30TH MARCH  
NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION

公式ガイドブック

郵政博物館  
POSTAL MUSEUM JAPAN

特定非営利活動法人  
郵趣振興協会  
Society for  
Promoting Philately

## この展覧会はなんでしょうか？

この展覧会は、国際郵趣連盟（FIP）の定める審査規則に従い、FIP公認審査員らが審査する全国切手展、かつ出品者への個別指導の場です。

「切手収集」をご存知の方は少なくないと思いますが、『プレゼンテーションを楽しむことが可能な収集趣味』であることをご存知の方は多くないと思います。

プレゼンテーションの1つの方法は、A4判の台紙に、収集した切手や郵便物を並べ、適切な文章を記載し、展示に耐えうるコレクションを作る事で、ある程度収集の進んだコレクターの中では実践している人も多い方法です。

個人で楽しむ分にはコレクション作りは自由ですが、このコレクション作りに競技の概念を持ち込んだのが競争切手展です。ヨーロッパ発祥で100年以上の歴史があり、この間に多くのコレクションが競争切手展の場で、FIP公認審査員により審査されてきました。

競争切手展は、陸上競技の様な絶対価値の測定ではなく、フィギュアスケートの様な、審査規則に従い、審査員が審査を行う審査競技（100点満点）です。

日本人が国際切手展に頻繁に参加するようになったのは1980年代以降です。欧米諸国に比べると歴史が浅い為、ルール違反の作品やルール上大幅な減点を免れない作品もありました。しかしながら、FIP公認審査員の日本人が少なかった為、それ以外の収集家が見ようみまねで審査するしかない全国切手展も少なくありませんでした。この為、国内で良い賞を獲得した作品の中には、世界に進出した瞬間に、大幅に減点されてしまう作品が後を絶たない状態でした。

スタンプボックスジャパンは、この様な悔しい思いをする競争展出品者を少しでも減らす為に2019年夏に企画された全国切手展です。原則としてFIP公認審査員（伝統郵趣部門）のみで審査委員会を結成し、各審査員には、FIP規則の更なる理解と最新の運用の動向をご理解いただく様お願いしております。

また、出品者には、会期二日目の会場におけるクリティーク（審査員による個別指導）への参加を強く推奨し、作品改善に役立てていただいています。

この結果、過去の本展出品者の多くが、その後開催された国際切手展で、改善された作品を展示できる様になり、期待通りのスコアを獲得することができました。

この様に、本展覧会は、「出品者の為」を第一に考えて開催される全国切手展です。もっとも、高得点を得られるコレクションは、美観の点も含めて優れており、参観しても楽しめる作品ばかりです。本ガイドの説明も合わせてお楽しみください。

**審査結果が最も国際展基準に近い全国切手展＋個別指導の場**



STAMP EXHIBITION  
**STAMPEX JAPAN**

STAMPEX JAPAN 2026  
28TH - 30TH MARCH  
NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION  
OFFICIAL GUIDEBOOK

Publisher: Stampedia, inc.  
President & Editor in Chief : YOSHIDA Takashi  
Date of issue: Mar. 10th 2026  
Number of Issue : 1,500

© Copyright by Stampedia, inc.  
4-7-803 Kojimachi, Chiyoda, Tokyo, 102-0083  
Design : Takashi Yoshida, Tokyo  
Printing : Printpac, Kyoto

## 目次

目次等	P. 4
スケジュール	P. 5
郵政博物館 見取り図 / ディーラーブース情報	P. 6
展示作品一覧	P. 7
審査員紹介	P. 8
ジャパン・フィラテリスト・サミット 2026 (表彰式を兼ねる)	P.10
本展覧会の作品募集要綱	P.12
展示作品紹介 (19作品)	P.18
全国切手展「スタンペックスジャパン」の歴史	P.94
本展覧会にご寄付をくださった方々	P.97
PHILATAIPEI 2026 へのお誘い	P.98
広告 (50音順)	
スタンペディアオークション株式会社	P. 17
日本郵便切手商協同組合	P.102
全日本切手まつり実行委員会	P.100 - 101
特定非営利活動法人 郵趣振興協会	P.103

主催：郵政博物館

    特定非営利活動法人 郵趣振興協会

協賛：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

後援：日本郵便株式会社

協力：日本郵便切手商協同組合、切手市場、一般社団法人 全日本郵趣連合、公益財団法人 日本郵趣協会

美術：岩崎 朋之

郵政博物館 (公益財団法人 通信文化協会)

    特任研究員 藤本 栄助

    学芸員 富永 紀子

特定非営利活動法人 郵趣振興協会

    理事長 吉田 敬

審査員会

    審査委員長 佐藤 浩一

    審査員 陳 友安 吉田 敬

    アプレントイス 木戸 裕介

    審査事務 菊地 恵実

実行委員会

    実行委員長 横山 裕三

    ブース担当 守川 環

    実行委員 鎌倉 達敏 菊地 恵実 木戸 裕介 丹羽 昭夫 藤本 博嗣 水谷 行秀

    宮崎 幸二 (50音順)

## スケジュール

### 3月28日(土)

- 10:00 開場
- 10:30 ディーラーブース開場（初日以外は10時に営業開始）
- 17:30 閉場（最終入場受付は17:00）
- 18:00 ジャパン・フィラテリスト・サミット2026（兼スタンペックスジャパン2026表彰式）開場
- 18:30 同上 開宴（事前申込制：3/22 締切、詳細 P.10-11 参照）

### 3月29日(日)

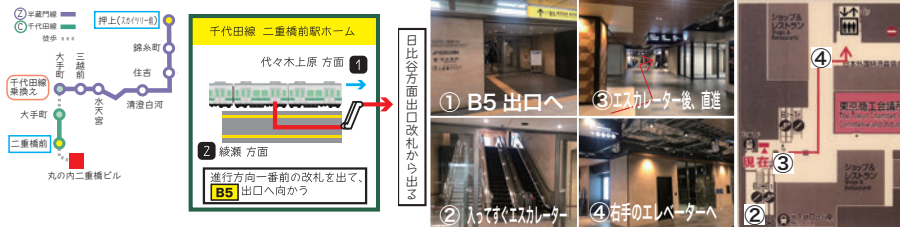
- 10:00 開場
- 10:10 クリティーク
  - \* 審査員により出品者へ作品改善の指導を行います。
  - 出品者以外の方も、クリティークを傍聴していただいても構いません。
  - ただし、クリティーク中の審査員・出品者に話しかけることは禁止します。
- 17:30 閉場（最終入場受付は17:00）

### 3月30日(月)

- 10:00 開場
- 17:30 閉場（最終入場受付は17:00）

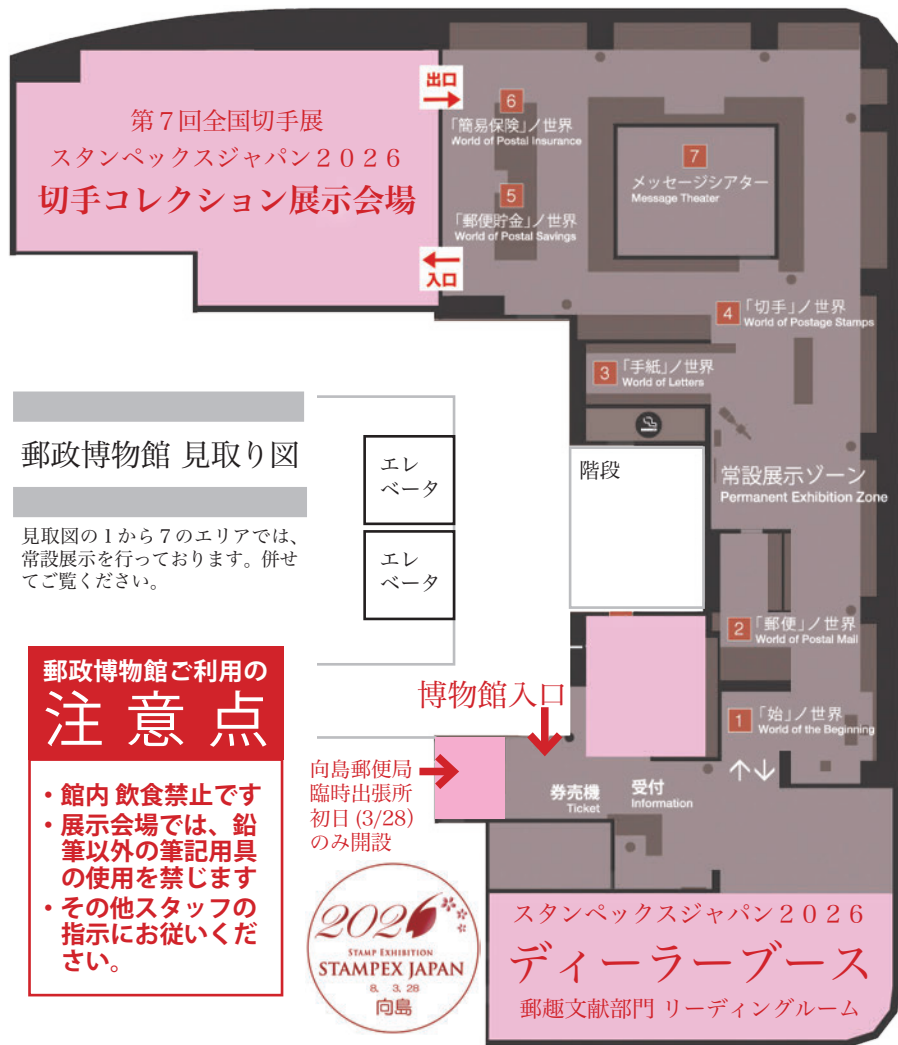
## 関連行事会場への移動方法（詳細 P.10-11）

日本外国特派員協会 (FCCJ)/ パーティールーム  
住所：東京都千代田区丸の内3-2-3 丸の内二重橋ビル5階



## ジャパン・フィラテリスト・サミット2026 兼 スタンペックスジャパン2026 授賞式

- ❖ 2026年3月28日(土) Sat, March 28
  - ❖ 18:00 開場 18:30 開宴
  - ❖ 日本外国特派員協会(FCCJ) パーティールーム
  - ❖ 特別協賛：スタンペディアオークション株式会社
- 服装：男性はネクタイの着用をお願い致します



## 郵政博物館 見取り図

見取り図の1から7のエリアでは、常設展示を行っております。併せてご覧ください。

## 郵政博物館ご利用の 注意点

- ・館内 飲食禁止です
- ・展示会場では、鉛筆以外の筆記用具の使用を禁じます
- ・その他スタッフの指示にお従いください。

## ディーラーブース開場時刻、並びに出店ディーラーのご案内

開場時刻：初日(3/28)：午前10時30分 初日以外：午前10時00分  
開場時刻までは混乱防止の為ディーラーブースエリアに入場できません。

**日本切手社**

(3月28日・29日に出店)

**切手のガレージショップ**

(3月28日・29日に出店)

**ゼネラルスタンプ**

(3月29日・30日に出店)

**kittesiasia**

(3月28日・29日に出店)

スタンペックスジャパン2026 展示作品一覧

12 ページより「出品者本人による作品概説」「タイトルページ」「代表的ページ」「出品者プロフィール」を順番に掲載します。

No	部門	Fr.	出品作品名称	出品者名	過去の賞歴
1	伝統郵趣	8	手彫切手 1871-1876	黒田 卓	国際展 G
2	伝統郵趣	8	Japan Definitives 1883-1892, KOBAN	山田 廉一	国際展 LV
3	伝統郵趣	8	Japan Tazawa Old die Definitive Series 1913-1925	丹羽 昭夫	国際展 G
4	伝統郵趣	5	日本普通切手 1913-1938	菊池 達哉	国内展 V
5	伝統郵趣	8	昭和切手 1937-1946	伊藤 純英	国際展 G
6	伝統郵趣	5	インドネシア独立戦争期 1945-1949	榎原 晃二	国内展 V
7	伝統郵趣	5	スウェーデン "Standing Lion Issue 1920-34"	斎藤 環	(初出品)
8	伝統郵趣	5	メキシコ 1856 年 ファーストイシュー	竹上 幸浩	国際展 G
9	伝統郵趣	5	ハワイ暫定政府加刷切手	山崎 文雄	(初出品)
10	郵便史	5	極東地域のフランス郵便局 1855-1880	若桑 正一	国際展 LV
11	郵便史	5	オランダ領東インド 1941 年 11 月～1942 年 2 月の郵便	増山 三郎	国際展 V
12	郵便史	5	中国国家郵政郵便史 1897-1912	藤本 博嗣	国際展 LV
13	ステーションナリー	8	日本の記念特殊ステーションナリー 1936-1969	須谷 伸宏	国際展 LV
14	ステーションナリー	8	海軍担当地区のポスタルステーションナリー	守川 環	国際展 G
L-1	郵趣文献		全日本切手展史	小藤田 紘	(初出品)
L-2	郵趣文献		宮城県内郵便局の初期消印(明治5年～明治10年) 一鈴木紀男氏のコレクションから一	小関 幸生	国内展 LV
L-3	郵趣文献		小判切手とその時代 最近の情報	小判振舞処	国内展 LV
L-4	郵趣文献		韓国切手専門カタログ	韓国郵趣連合	国際展 LV
L-5	郵趣文献		コレクター T 氏 - 旅と切手の物語 -	滝川 忠	(初出品)

\* 過去の賞歴は公式な賞歴の内、最高となる賞を掲載しています。

郵趣文献部門の展示および展示作品の販売について

郵趣文献部門は、競争切手展の大事な一部門です。しかしながら、欧米開催と比較すると、アジアで開催される競争切手展では、国内展・国際展を問わず、その取り扱いあまりよくない為、文献部門の出品者からは不満の声が寄せられることがあります。

欧米では、郵趣文献部門の参観者の為に読書スペース(リーディングルーム)を設ける展覧会も増えてきました。本展覧会は「国際展郵趣文献部門の審査経験」が豊富な審査員による審査を受けられる日本初の国内競争展で、リーディングルームも設けております。

なお 2025 年には、リーディングルームの横で、出品者による販売希望文献を購入できる取り組みを行いました。本年につきましては、ご希望がございませんでしたので、販売を行いませんので、お知らせします。

## 審査員 Jury



審査委員長 佐藤 浩一  
Mr. SATO Koichi, RDP  
FIP Jury  
Jury President



審査員 陳友安  
Mr. Chen Yu-An, RDP  
FIP Jury



審査員 吉田 敬  
Mr. YOSHIDA Takashi  
FIAP Jury



アプレントイス 木戸 裕介  
Mr. KIDO Yusuke  
Apprentice Jury

### 佐藤 浩一, RDP (さとう こういち)

昭和 31 年 (1956) 宮城県生まれ、神奈川県在住

1964 年の東京オリンピック記念切手を機に収集を開始し、学生時代よりイギリス、タスマニア、アルゼンチン、ハイデラバードを収集。1997 年に FIP 登録審査員となり、現在は伝統収集、郵便史、文献部門の審査員資格を有す。

#### 受賞歴

Tasmania – Imperforated Chalon Heads  
Grand Prix d'Exposition – AUSTRALIA 1999  
Grand Prix d'Honneur – MELBOURNE 2013  
Hyderabad  
Gold Medals – Paris 1999 & Praga 2018  
Argentina Sitting Liberty Issues  
Gold Medal – Bangkok 2018

### Chen Yu-An, RDP (チェン・ユーアン)

英国 Roll of Distinguished Philatelist (RDP) に 2024 年にサイン

台湾郵趣連盟 元会長、2016 年より名誉会長

2017 年より FIAP 副会長

2024 年より FIP グランプリクラブ副会長

FIP 登録審査員 (伝統、郵便史、印紙、ステーションナリー、オープン、文献、モダン)

\* 伝統、郵便史、印紙クラスについてはチームリーダー資格を保有

Awards: WWII Surcharges of the Chinese Republic

FIP, Grand Prix National - PHILATAIPEI 2016

FIAP, Grand Prix d'Honneur - Bangkok 2016

Chinese Imperial Postal Cards and Letter sheets

FIAP, Grand Prix International – Malaysia 2014

## 吉田 敬（よしだ たかし）

昭和42年（1967）東京都練馬区生まれ、東京都在住

1977年6月から1988年頃まで、戦後日本（切手・ステーションナリー・マルコフィリー）を熱心に収集するもその後20年間ほど切手の購入をほぼ中断。2007年8月に偶然切手収集を思い出し、世界ゼネラル収集を開始。収集再開時点で念頭になかった競争展参加は、PHILANIPPON2011への参加を契機に四半世紀ぶりに開始し、それ以降10年間、競争展の魅力を楽しんでいる。

### 受賞歴

Classic Switzerland	LG	HELVETIA 2022, Dubai 2026
Kingdom of Prussia	LG	WSS ISRAEL 2018, WSC INDONESIA 2022, Thailand 2023
Japan 1855 to G.P.U.	G	Europhilex Birmingham 2025
富士鹿・風景切手	G	PHILANIPPON 2021 (FIAP)
Philatelic Journal	G	Brasilia 2016
南方占領地	SB	JUNEX 81 (国内ジュニア展)

## アプレンティス審査員

### 木戸 裕介（きど ゆうすけ）

1992年8月31日生 33歳 神奈川県藤沢市出身 郵趣振興協会 正会員

2004年に切手収集開始。収集対象は伝統郵趣ゼネラルとしての日本、琉球、韓国、北朝鮮、満州、南方占領地（主にビルマ）、中国占領地、スイス風景、フランス種まき、エストニア、チェコスロバキア等々。郵便史として在朝鮮日本局、朝鮮戦争軍事郵便等を収集。

### 受賞歴

Republic of Korea War Time Provisional Definitive Issue	LV	Philakorea2025
South Korea 1945-47	LV	Bangkok 2025
Ryukyu Dollar Currency Provisional Issue	V	HELVETIA2022

## 審査事務

### 菊地 恵実（きくち えみ）

福島県出身、東京都在住、郵趣振興協会 理事・正会員

雑貨感覚で気ままに気に入った切手を収集していたが、2015年から専門収集を開始。現在は第1次昭和切手やマライの正刷はがき、アルゼンチン等を収集（伝統）。

### 受賞歴

Japan Definitives 1937-1940	LG	Thailand 2023
	LG	Philakorea 2025
1943 Malay 4C Postal Card	85 pts.	STOCKHOLMIA 2019

# ジャパン・フィラテリスト・サミット2026

## 兼 スタンペックスジャパン2026授賞式

❖ 2026年3月28日(土) Sat, March 28

❖ 18:00 開場 18:30 開宴

❖ 日本外国特派員協会(FCCJ) パーティールーム

❖ 特別協賛：スタンペディアオークション株式会社

服装：男性はネクタイの着用をお願い致します

「ジャパン・フィラテリスト・サミット」は、フィラテリストが一堂に介して、ゆっくり食事をしながら親交を深めることができる、欧米並みの着席パーティーが、年に一度くらいあっても良いのではないかと、というアイデアを下に、2017年より年一度開催されてまいりました。

コロナ禍で3年間の中断を余儀なくされましたが、2023年に再開されてからは、全国切手展「スタンペックス ジャパン」の授賞式も兼ねて、毎年3月に開催されるようになりました。

本宴は、トップフィラテリストが参加するパーティーとしては国内最大規模で、50名を超えるご参加をいただいております。着席のフレンチのコース料理を提供し、参加者が交流しやすい雰囲気のパーティーです。

会場は「フォーリンプレスクラブ」とも呼ばれ、度々記者会見の開かれる「日本外国特派員協会」の宴会場で、一般の方がなかなか足を踏み入れない場所です。是非、この機会にご参加ください。初めての方のご参加も大歓迎いたします。

本パーティーへのご参加を希望される方は、3月22日までにお申込のほど、お願い申し上げます。ご夫婦・パートナーの方とのご参加も歓迎いたします。

### 参加申込方法

本宴への参加には入場券(有料、8,000円)が必要です。以下の方法でお求めください。入場券(下図)は、申込完了の方に3/1より順次発送致します。

- (1) 「スタンペディア日本版」本年度会員) マイスタンペディアから申込  
「ご注文はこちら!」タブを押してお申し込みください。1分で終わります。
- (2) 郵便等で申込

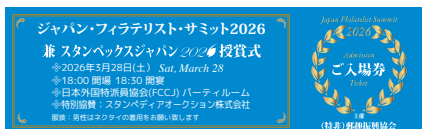
郵便：102-0083 海事ビル内局留 スタンペディア

電子メール：info@kitte.com FAX：03-6700-1585

会費：8,000円

食事：フランス料理(コース、着席)

席数に限りがありますので、ご参加をご希望の場合は、お早めにお申込ください。



ジャパン・フィラテリスト・サミット2025（2025年3月開催）のご紹介



司会：三宅民夫さん  
(元 NHK アナウンサー)

伊藤純英さんへの手嶋康賞授与  
(プレゼンター手嶋康様)



参加者集合写真。ご夫婦・パートナーの方のご参加を歓迎いたします。

出品者への適切なフィードバックを通じて、コレクションの発展に寄与する

## 第7回全国切手展「スタンペックスジャパン2026」作品募集要綱

(特非)郵趣振興協会 / (公財)通信文化協会(郵政博物館)

競争切手展は、欧州のフィラテリーから生まれ、世界の様々な国籍・人種のフィラテリストが参加する国際郵趣連盟(以下、F I P)の規範作りの下、永年に渡り進化し続けてきたフィラテリーの文化であり、審査競技です。

全国切手展「スタンペックスジャパン2026(以下、本展覧会)」は、この審査競技を適切に運用する競争切手展で、審査員の人選はじめ、我が国で開催される競争切手展の中で、F I Pの審査基準に最も準拠する度合いが高く、審査結果が世界的に通用する競争切手展です。また、出品者への適切なフィードバックを通じてコレクションの発展に寄与することを目指すことも、本展覧会の特徴の一つです。

つきましては、以下の記載内容により、皆様からの競争出品を募集いたしますので、ふるってご応募ください。

### 1. 実施

会期:2026年3月28日(土)~3月30日(月)(3日間)

会場:郵政博物館

(東京都墨田区・東京スカイツリータウン内)

規模:90フレーム

主催:(特非)郵趣振興協会 / (公財)通信文化協会(郵政博物館)

### 2. 審査体制

審査は、F I Pの定める国際切手展の審査基準(以下F I Pルール<sup>\*)</sup>)に準拠して行い、各出品作品に得点を与えます。これを実現する為に、主催者は、世界的に通用するF I Pルールの理解と運用に優れた人物を審査委員長として招聘することに注力する事とします。また、審査委員長が決定した後は、審査業務ならびに審査員の選任は後述する審査委員会に一任し、審査業務に関する、審査委員会の独立を妨げないものとします。

審査委員長は、第4項の部門の審査資格を持つF I P登録審査員を中心に、審査員の人選を行い、審査委員会を組織します。審査の方式、賞の決定については、現在の世界での競争切手展の潮流に従ったものとなる前提で、審査委員長がその運用を決定します。

なお、現在世界で開催されている国際切手展に対する切手コレクションの出品資格の1つは、『F I Pルールに準拠して開催される全国切手展で75点以上を獲得すること』です。本展覧会で75点以上を獲得した作品は、それに該当することとなり、国際切手展への出品資格を獲得します。

\*1 本展においては、以下の規則になります。

GREV, SREVs & Guidelines (伝統郵趣、郵便史、ステーションナリー、郵趣文献、ワンフレーム)

### 3. 授賞の概要

ワンフレーム部門を除き、審査得点に応じて、それぞれ、大金(90点以上)、金(85点以上)、大金銀(80点以上)、金銀(75点以上)、大銀(70点以上)、銀(65点以上)、銀銅(60点以上)、銅(55点以上)の各賞を授与します。ワンフレーム部門への出品作品には審査得点のみを授与します。

大金賞受賞作品の内の一作品にグランプリを授与することがある他、特別賞を授与することがあります。

出品申込書→



### 4. 出品部門

- 伝統郵趣部門
- 郵便史部門
- ステーションナリー部門
- 郵趣文献部門
- ワンフレーム部門

\*ワンフレーム部門は1)伝統郵趣、2)郵便史、3)ステーションナリーに限る

### 5. フレームの割当数と出品料およびリーフサイズ

- ・伝統郵趣部門、郵便史部門、ステーションナリー部門のフレームの割当数:5または8フレームです。
- ・出品料は以下の通りとします。

部門	出品料	
	(5フレーム)	(8フレーム)
伝統郵趣 郵便史 ステーションナリー	15,000円 *郵趣振興協会 会員は8,500円	24,000円 *郵趣振興協会 会員は13,600円
郵趣文献	5,000円 *郵趣振興協会会員は4,000円	
ワンフレーム	5,000円 *郵趣振興協会会員は4,000円	

- ・第7項で後述する展示作品の決定後、出品料支払の詳細を連絡します。支払期限は2月1日です。
- ・リーフサイズは自由ですが、切手コレクション展示パネルの1フレームの大きさは横98cm×縦123cmですので、その範囲におさまるように作品を作成してください。

## 6. 出品規約と出品申込

出品申込に際しては、所定の出品申込書に必要事項を記載の上、タイトルリーフを含む3リーフ<sup>2</sup>をカラーコピーもしくはメール添付画像と共に、本展覧会の出品申込書の送付先にお送りください。

なお出品申込書に記載の通り、出品申込書の提出を以て、本作品募集要項の記載内容に従うことを承諾したものと見なします。

出品申込時に提出したタイトルリーフは、その後のリーフ制作の工程で変更があっても構いません。

<sup>2</sup> 文献部門の場合は、タイトルリーフの代わりに、表紙を含む3頁のカラーコピーをお送りください。

### 出品申込書の送付先（各種お問合せ先）

- ・電子メール info@kitte.com
- ・ファクス 03-6700-1585
- ・郵便 102-0083 海事ビル内郵便局留置  
郵便振興協会

### 出品申込の受付期間

2025年10月1日（水）～2025年12月21日（日）

## 7. 展示作品の選定および選定結果の通知

本展覧会の規模は90フレームと小さい為、出品申込された作品を、全て展示することが困難な場合も想定されます。この為、審査委員会では、出品申込の受付期間終了後に、出品申込時に提出された書類等を下し、展示作品の選定を行います。

展示作品の選定結果は、2026年1月1日に当協会のホームページで発表しますが、それに先立ち、全ての出品申込者に郵便等で結果をご連絡します。

なお選定の結果展示頂けない作品に対する理由開示は一切行いません。また、出品申込が受理された後の展示キャンセルは原則として受け付けません。

## 8. 展示作品の搬入と展示作業および展示作品のセキュリティ（文献部門以外の部門）

・第7項で展示が認められた出品申込者（文献部門を除く）には、本展覧会専用の出品物提出用の封筒（以下、出品封筒）を送付します。出品物は、この封筒に入れて提出してください。

- ・出品物は取り外し可能な保護カバーをつけ、各リーフの表面右下に展示順の番号を記してください。
- ・作品の搬入は、郵送と郵政博物館への持参で受け付けます。詳細は出品封筒の送付時にご案内申し上げますが、現時点では、以下の通り予定しております。

### 郵送による作品の送付（予定）

2026年3月20日（金）12-14時を配達指定期日時とし日本郵便のゆうパックにてお送りください

### 持参による作品の搬入（予定）

2026年3月21日（土）11:30-13:00の間にご持参ください

### 送付先・持参先

131-8139 墨田区押上1-1-2  
東京スカイツリータウン・ソラマチ9階  
郵政博物館 スタンベックス係

- ・会期中の作品のセキュリティについて相応の対策を講じますが、作品の輸送時、保管時、会期中の展示・撤去の際のマテリアルの紛失・汚損などについては責任を負いません。出品物の保険については出品者個人の責任と負担において付保するものとします。
- ・物理的に切手コレクション展示パネルに格納できない作品（厚すぎるリーフ含めて）やF I Pルール上禁止されている黒色ないしは濃色のリーフが含まれている作品は、その一部もしくは全部の展示を中止します。なお、これ以外にも主催者は理由を開示することなく、出品作品の展示を拒否する等の権限を有しますが、展示されなかった場合も出品料は返却されません。
- ・メ切を過ぎて到着した作品は審査の対象外となります。作品未着の場合、出品料は返金されません。

## 9. 外国からの出品に対する特例

- ・外国に居住する出品者からの出品に関しては、第8項にも関わらず、以下を選択できるものとする。
- ・2026年3月21日までに全ページをスキャンし、PDFファイルとして送付することを条件に、作品搬入日時を2026年3月27日（金）10時から12時もしくはその前日に行うことを認める。詳細は英文規約に表す。

## 10. 展示作品の搬入（文献部門）

- ・第7項で展示が認められた文献部門の出品申込者には、出品作品の提出に関する案内をお送りします
- ・文献部門の作品提出は原則として郵送のみを受け付け、提出期限は2026年1月31日を予定しています。

### 11. 作品の返却

作品は、3月31日夕方までに返却を開始します。会場引取を予め希望した方以外は、実行委員会指定の梱包で着払いセキュリティゆうパックにて出品者指定の郵送先に返送します。搬入時の出品用封筒以外の個人的な梱包等は、主催者の判断により廃棄することがあります。

### 12. 審査結果の発表と授賞式

展示作品は、審査委員会が会期前に審査を行った上で、開場までに賞を各作品の第1フレーム左上に表示致します。

枝点を含めた審査結果は、同会場で配布すると共に、ホームページで発表します。

授賞式は、切手展初日(3月28日)の夜に開催予定のジャパンフィラテリストサミット2026(着席会食、有償)において、実施する予定です。

### 13. クリティーク

クリティークは『審査員との対話』と和訳されることもあります。出品者が本展覧会に競争出品した作品に関し、直接、審査員から個別に今後の改善点等について助言を受ける機会です。

『出品者への適切なフィードバックを通じ、コレクションの発展に寄与する』ことを目指す本展覧会では、このクリティークを最も重要な行事の一つと考えています。

クリティークは会期2日目の開場時刻10分後より開始予定です。会場へお越しただけでない出品者に対しては、ビデオ会議サービスを通じたクリティークも提供予定です。全ての出品者に、必ずご参加いただきたいと考えています。

クリティークでは『世界で開催されるFIP登録審査員により審査される国際切手展で上位の賞を獲得できる為に、どのような点を改善すれば良いか』について、審査委員会より、国際展の潮流を踏まえてお話しさせていただきます。

この点を踏まえた上での質問・相談に対しては審査員は、原則として、時間を限定せずに対応いたしますので、疑問点などは予め準備して臨むことをおすすめいたします。

クリティークは、出品者以外の参観も許可しますが審査員が認める場合を除き私語を禁止します。また、主催者以外によるクリティークの動画撮影は禁止します。

### 14. 出品者の個人情報の取扱、作品の撮影・掲載

出品者の個人情報は、法令により開示を求められた場合を除き、出品者の同意なしに業務委託先以外の第3者に開示・提供することはありません。ただし、出品目録ならびに受賞リスト等には、審査結果に加えて、氏名・住所(都道府県名まで)を掲載しますので、ご了承ください。

世界の競争切手展において、フラッシュを使用しない作品の撮影は、参観者に許されており、本展覧会もその運用を踏襲します。また、出品受付時にご提出いただいたタイトルリーフを含むページのコピーは、展覧会のPRを目的として、本展覧会の目録等に掲載すると共に、ホームページを通じて、主催者以外の方がダウンロードしご利用いただけるようにします。

会期中には、ご来場いただけない方を対象に、ホームページ、オンライン会議サービスや動画配信サービスを利用した、作品紹介を行います。この用途に供す為、展示作品は全ページを撮影・スキャンします。

### 15. 開催を中止した場合の対応

主催者は、作品募集開始時点で想定できない感染症の流行等の事由により、本展覧会の一部ないし全部について、中止の決定を行うことがあります。展覧会の開催を中止した場合の出品料の取り扱いは下記の通りとします。

(1) FIP登録審査員による審査並びに書面等によるクリティークまでを主催者が提供でき、出品者がそれを希望する場合: 20%返金。

(2) FIP登録審査員による審査並びに書面等によるクリティークまでを主催者が提供できない場合、もしくは出品者がそれを希望しない場合: 100%返金。

---

## STAMPEX JAPAN 2026 National Philatelic Exhibition Individual Regulations (IREX) Abstract for overseas exhibitor

Society for the Promotion of Philately / Japan Postal Museum  
28-30 March 2026 – JAPAN POSTAL MUSEUM

The purpose of this Individual Regulations (IREX) for STAMPEX JAPAN 2026 is to inform the exhibitors about the practice specific to this exhibition. All exhibitors should read this regulations before sending applications for STAMPEX JAPAN 2026. This is an abstract for overseas exhibitors and the Japanese text shall prevail in the event of any discrepancies in the text arising from translation.

1. The STAMPEX JAPAN 2026 Exhibition organizers
- 1.1. The STAMPEX JAPAN 2026 National Philatelic Exhibition is organized by Society for the Promotion of Philately and Japan Postal Museum.
- 1.2. STAMPEX JAPAN 2026 will take place at Japan Postal Museum between 28-30 March 2026.
2. Regulations
- 2.1. The exhibition is governed by the following regulations:
  - FIP Regulations for exhibitions (GREX)
  - General Regulations of the FIP for the evaluation of competitive exhibits at FIP exhibitions (GREV)
  - Special Regulations and Guidelines for the evaluation of competitive exhibits (SREV) – one SREV per class
  - This Individual Regulations (IREX)
3. Award
 

With the exception of the One-Frame category, awards will be given according to judging scores: Large Gold (90 - ), Gold (85 - 89), Large Vermeil (80 - 84), Vermeil (75 - 79), Large Silver (70 - 74), Silver (65 - 69 ), Silver bronze (60 - 64) and Bronze (55 - 59), respectively. Entries in the One Frame category will only be awarded judging points. A Grand Prix may be awarded to one of the Large Gold awarded exhibit, and several special prizes will also be given to some exhibits.
4. Classification of exhibits
- 4.1. The competitive exhibits are classified in the following Classes:
  - Traditional Philately
  - Postal History
  - Postal Stationery
  - Philatelic Literature
  - One-frame

\* One-frame class is limited to 1) traditional philately, 2) postal history and 3) postal stationery.
5. FRAME ALLOCATION, and FRAME FEES
- 5.1. Exhibits are allocated 5 or 8 frames for three classes of Traditional Philately, Postal History and Postal Stationery..
- 5.2. In One-frame class, exhibits are allocated one frame.
- 5.3. The participation fee in the Competitive Classes is 3,000 Yen per frame (currently \$20 at exchange rate in Sep 2025). Single frame exhibits are 5,000 Yen.
- 5.4. The participation fee for Philatelic Literature class is 5,000 YEN
- 5.5. When the application is accepted, all the exhibitors must pay the participation fee to the Exhibition organizers no later than Feb. 1st, 2026.
- 5.6. We recommend PayPal for sending fees from overseas exhibitors, and PayPal fee must be paid by the exhibitor.
- 5.7. A frame can hold 16 sheets in four rows of four (4 x 4) contained in transparent protectors, not exceeding 29.5 cm tall by 23 cm wide.
6. CONDITIONS OF ENTRY
- 6.1. When applying your exhibit to this exhibition, fill in the prescribed application form and send it together with a colour scanned image of three leaves including the title page.  
By submitting the application form, as indicated on the application form, you agree to abide by the contents of the call for entries.
- 6.2. The entry form must be duly completed in English or in Japanese.
- 6.3. A separate entry form is required for each exhibit.
- 6.4. Completed entry forms must be received by the Organizing Committee no later than 21 December 2025 through the following email address. ***info@kitte.com***
- 6.5. The Organizing Committee will reply a notification of receipt of the application to the exhibitor. If an exhibitor doesn't receive this notification within a week, it must go to spam folder and not received by the Organizing Committee.
7. NOTIFICATION OF ACCEPTANCE
- 7.1. Due to the small size of the exhibition (90 frames), it may be difficult to accept all the exhibits submitted. For this reason, the Organizing Committee will select exhibits to be accepted after the entry period, based on the documents submitted at the time of application.
- 7.2. The accepted exhibits will be announced on the official website on January 1st, 2026, prior to which all applicants will be informed individually. No reason will be given for non-accepted works, and withdrawal of an exhibit will not be accepted once an application has been accepted.
8. EXHIBIT PRESENTATION
- 8.1. The write-up of the exhibit (except class L - Literature) must be in English or in Japanese.
- 8.2. All exhibits must be mounted on white or light-coloured pages and each sheet must be placed in a transparent

- protective cover. No exhibit mounted on black or dark- coloured pages will be accepted.
- 8.3. The sheets must be numbered consecutively, on the front at a corner, to aid the correct mounting of the exhibit. (Lower right preferred)
9. DELIVERY OF EXHIBITS
- 9.1. Overseas Exhibitor must send a PDF files containing all the pages to the Organizing Committee no later than Mar. 21st, 2026.
- 9.2. The official reception period of physical exhibit for overseas exhibitors at Japan Postal Museum is between 10:00 and 12:00, Mar. 27th, 2026, however, we are flexible if an exhibit is delivered by 12:00 Mar. 27th, 2026.
- 9.3. The Organizing Committee does not have any plan for Customs Clearance documentation.
- 9.4. In the event that an exhibit is delivered late or fails to be delivered, or in the event the page size or language does not comply with the provisions of Articles 8.1 or 5.7, the exhibit will not be judged, and the participation fee will not be refunded.
10. PHILATELIC LITERATURE EXHIBITS
- 10.1. Exhibitors in Philatelic Literature Class must send two copies of each title or volume, which will not be returned. The literature will first be placed at the disposal of the Jury and will later be on display in a philatelic reading area throughout the duration of the Exhibition. After the exhibition all literature will be at the disposal of the Organizing Committee, and one of each will be donated to Japan Postal Museum.
- 10.2. The Organising Committee requires Philatelic Literature exhibits to be received no later than 31 January 2026 in order that preliminary judging may take place.
- 10.3. The address to which Philatelic Literature exhibits must be sent follows:  
Stampedia, inc. Parkhouse Kojimachi Place #803, 4-7 Kojimachi, Chiyoda, Tokyo, 1020083, JAPAN  
Customs declarations should state the book is a sample of zero value.
11. INSURANCE AND SECURITY
- 11.1. Exhibitors are responsible for securing appropriate insurance for their exhibits for the entire time that the exhibits are out of their hands. The Organising Committee is not responsible for such insurance, and all expenses in securing insurance are the responsibility of the exhibitor. The Organising Committee will not be liable for any loss of or damage to any exhibit, in whole or in part, whatever the cause.
12. DISMOUNTING OF EXHIBITS
- 12.1. Overseas exhibitors will be able to hand in their exhibits directly at Japan Postal Museum on 17:30 Mar. 30th, 2026 without prior arrangement.
13. JUDGING OF EXHIBITS AND AWARDS
- 13.1. Exhibits will be judged and awarded prizes by the jury appointed by the Organizing Committee consisting of accredited FIP and FIAP judges in accordance with the principles in the GREV and SREVs.
- 13.2. The Jury will allocate awards and special prizes in accordance with elements of Article 8 of the GREX.
- 13.3. Awarding ceremony will be held at Japan Philatelist Summit 2026 (seated dinner, paid for), which will be held between 18:30 and 20:30, Mar. 28th, 2026.
- 13.4. Jury feedback session will start at Japan Postal Museum at 10:10, Mar. 29th, 2026 either in Japanese or in English.
14. LIABILITY
- 14.1. The Organising Committee, the Jury, the voluntary personnel, and employees accept no liability for any loss or injury suffered by exhibitors or members of the public arising directly or indirectly from any cause whatsoever related to the exhibition.
- 14.2. The laws of Japan shall govern interpretation of these regulations, and any legal cases arising shall be settled within the jurisdiction of the courts of Japan.
- 14.3. This is an abstract for overseas exhibitor, and in the event of any discrepancies in the text arising from translation, the Japanese language text shall prevail.
15. CONTACT ADDRESSES
- 15.1. The Organising Committee  
Official Website: <https://kitte.com/stampex2026>  
The Secretary, Stampex Japan 2026 is Mr YOKOYAMA Hiromi  
Email: [info@kitte.com](mailto:info@kitte.com)
- 15.2. Non-Profit Organization, Society for the Promotion of Philately  
President, Mr. YOSHIDA Takashi  
Email: [yoshida@kitte.com](mailto:yoshida@kitte.com)

# スタンペディアオークション

[AD]

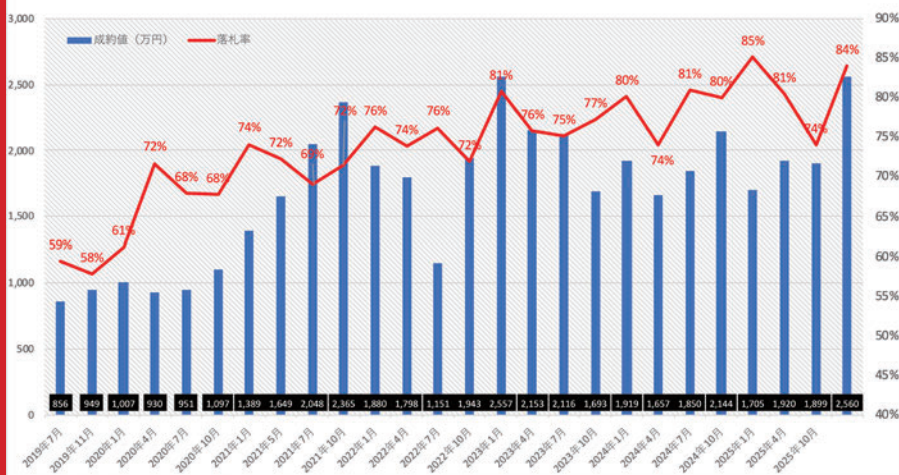
## 第37回セール

フロア 2026年4月11日(土) 12:30

会場 東京都台東区柳橋1-2-10 東京文具共和会館1階



第36回セール(2026年1月開催)にて、久々に成約値のギネスを更新しました(2,560万円)。手彫、南方、外国、文献に強いオークションハウスです。



セール回	フロアセール	下見会	会場
第37回	2026年4月11日	4/4	東京文具共和会館
第38回	2026年10月3日	9/5	東京文具共和会館

スタンペディアオークション株式会社  
 〒102-0083 千代田区麹町4-7 パークハウス麹町プレイス803  
 FAX: 03-6800-5384 auction@stampedia.net  
<http://auction.stampedia.net>

# スタンペックスジャパン2026

*Japan Etched Stamps 1871-1876*

## 手彫切手 1871-1876

作品番号 No. 1

伝統郵趣部門 (8 フレーム)

出品者：黒田 卓

本作品は、1871（明治4）年に発行が始まった手彫切手の伝統郵趣コレクションです。

20年余にわたって基本的に一人で手彫切手専門カタログはじめ関連の専門書籍・研究論文を参考にしながら、メインナンバーに沿ってコツコツと収集してきたものです。

そうして集めてきた切手・カバー類をリーフに整理し、一つの作品として自分の目で全体を俯瞰してみたいという思いで、今から考えるとこう見ずにもいきなり8フレーム構成でスタンペックスジャパン2023に出品しました。手持ちの収集品の多くを動員して一覧することが目的だったので、使用済み切手を並べたリーフが多すぎる、シートやブロックなど目立つアイテムが数少ない、書き込みの説明が冗長に過ぎるなどなど、クリティークにおいて数々のコメントや助言を受けました。好きで集めてきたものがある意味並べただけのもので、審査員や参観者を意識したエグジビットでなかったため、当然の批判といえました。それでもスタンペックスジャパンという場の良いところで、こんな出品者に金賞を与え方向性を示唆してくださり、さらなる向上の意欲をかき立てていただきました。

昨年のスタンペックスジャパン2025ではグランプリを受賞し、それを励みに初めて国際展(FIP展)に挑戦し、5フレームで金賞をいただくという、数年前には想像すらしていなかった結果を手にすることができました。

今回出品するおもな目的は、今後を見据え8フレームに作品を作り直し、さらに今年国際展にチャレンジしてみようということです。とはいえ、手彫切手の作品で、初回の8フレームとは異なり、3フレーム増量し、かつそれなりに水準の高いものに仕上げるのは艱難辛苦の道といえます。したがって、初回に展示していたカバーや使用済みページも復活させつつも、できるだけブロック、アーカイブ、質の高いカバー類を入れるように努めました。作品を通して、製造面に力点を置きつつ、年代を追って黎明期郵便事業の変化が可視的に分かるよう、使用面にも留意するようにしています。例えば、竜半銭1版4枚貼カバー、和紙10銭黄緑貼カバー（5通以下の残存数）、改色30銭単貼書留外信力カバーなどを新規に加えました。竜文、竜銭パートがまだまだ足りないことや桜切手でも一級のカバーを付加することなど、まだまだ改善の余地は多く残っています。ご批評・ご助言よろしく申し上げます。

## Japan Etched Stamps 1871-1876

### Purpose of the Exhibit

All of the Etched Stamps were produced by an unparalleled way of hand etching each position separately on copper plates of 40 stamps, which means even the stamps from the same plate are slightly different one another and abound in a wide variety of errors and design flaws (missing parts illustrated in red and lightly engraved ones in blue in the exhibit).

The exhibitor tries to classify and integrate **forty-nine kinds** of those stamps (excluding 20 Sen Dull Reddish Violet on Native Paper) into this collection largely on the basis of the **chronological order** proposed by the most authoritative specialized catalogue. With regard to the **production aspect**, much attention is paid to collecting unused stamps from the plates without and with syllabics as completely as possible (out of 278 plates at least), sometimes blocks & multiples, and taking up shade, paper material, perforation, specimen, pin-hole and error varieties with some study on crop marks on the corner selvages [Interlude:P.65]. From the viewpoint of the **usage aspect**, the exhibit attempts to emphasize the covers of **postal historical significance** such as registration, express delivery, cash-enclosed, overseas mails.

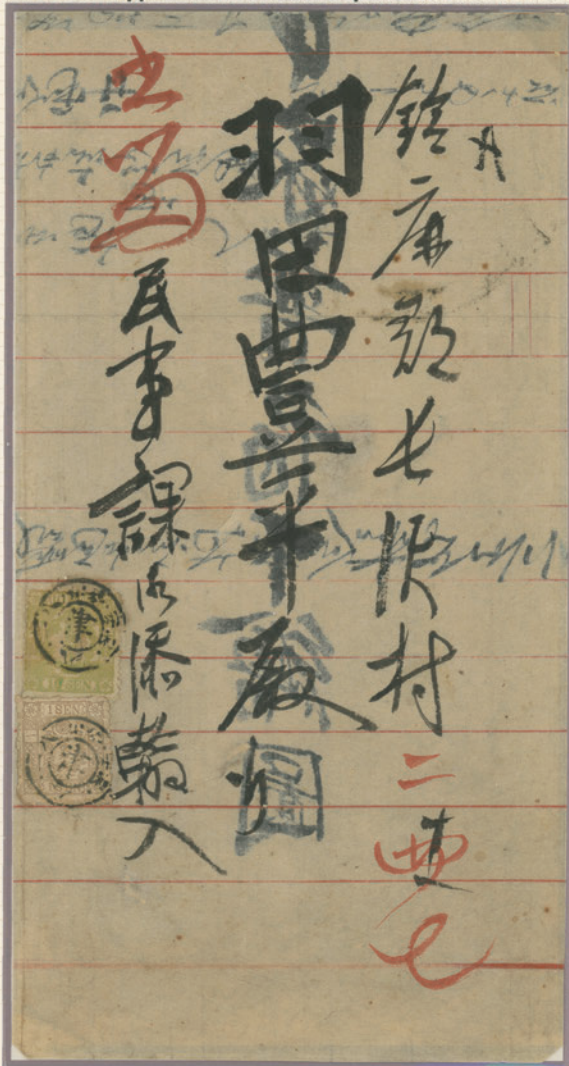
### Plan and Noteworthy Items

- I. **1871-72 Dragon Issue** [P. 2-21] consists of 1) Mon Unit and 2) Sen Unit. One of the highlights is a **100 Mon/ Plate 1 cover sent on the first day of enforcement of the Meiji 6 Postal Regulation** proclaiming the nationwide uniform rate regardless of distance, shown in contrast with a 100 Mon first-year cover [P. 6]. Two covers, namely **200 Mon/ Plate 1 (1871) and Plate 2 (1872)** are displayed side by side with an analysis of distance & rate [P. 9]. A **500 Mon franking cover** also might be of interest in terms of the late usage [P. 12]. Among Sen Unit stamps with a lot of paper and perforation varieties, a page related to 1 Sen Blue/Plates 1 & 3 exhibits three outstanding copies of **Plate 1 Extremely Thick Wove Paper Unused, Plate 3 Laid Paper Unused and Plate 3 Brittle Thick Wove Used** [P.17].
- II. **1872-1873 Cherry Blossom Issue on Native Paper** [P. 22-56] is divided into two groups depending on stamp production actors: 1) Matsuda Printing and 2) Government Printing [cited as MP & GP hereafter]. Remarkable items of this section are as follows: **Unused copies from Plates 2,7 & 14 of 1 Sen Blue/GP** [P. 24], **the only known combination cover** franked with a 2 Sen Vermillion /MP [P. 31], **a registered cover franked with a 10 Sen Apple Green/GP**[P. 43] **and two assemblages of unused 4 Sen Carmine-Rose and 2 Sen Yellow copies from all the known plates** [P. 47, 52].
- III. **1874 Cherry Blossom Issue/Transitional Phase** [P. 57-64] is divided into two groups: 1) Native Paper with Syllabics and 2) Foreign Paper without Syllabic. Notable items among the former group are the **sole cover franked with a 6 Sen Violet Brown with Syllabic 'Chi'** tied by local Fancy Mark, and 20 Sen Reddish Violet with Syll. '**Ro**' & '**Ha**' unused copies [P. 60, 62]. As for the latter, a **4 Sen Carmine-Rose without Syll. franking cover** is highly remarkable [P. 64].
- IV. **1874 Cherry Blossom Issue on Foreign Paper** [P. 66-93] is comprised of 8 denomination stamps. Here are noticeable items such as an **assortment of 2 Sen Yellow unused copies with all the Syllabics** [P. 74-75], a double-weight cover franked with 4 Sen Red with Syll. '**I**' [P. 82], **the cover regarded as a forerunner of 'Fourth Class Mail'** franked with 10 Sen Green with Syll. '**Ro**' [P. 87], 20 Sen Violet with Syll. '**Ho**' to England [P. 90] and **30 Sen Gray with Syll. 'I' overseas covers to USA** (as for the latter as many as a dozen covers reported to exist) [P. 93].
- V. **1875 Bird Issue** [P. 94-98] contains pictorial 12, 15 & 45 Sen stamps, issued at the same time as the inauguration of the Postal Agreement between US and Japan. **The only known mixed-franking cover** with a British 1 Penny & two copies of 12 Sen Syll. '**I**' and the well-known error '**Hand-written Ten (Kaki-ju)**' on 15 Sen Syll. '**Ro**', together with an early usage cover franked with single 15 Sen Syll. '**I**' are the items that might attract notice [P. 95, 97 respectively].
- VI. **1875 Cherry Blossom Issue on Foreign Paper/Revised Color** [P. 99-120] includes two groups: 1) With Syll. and 2) Without Syll. Highlights in this section are as follows: a cover jointly franked with 1 Sen Brown with Syll. & without Syll. [P. 102], a **cash-enclosed cover** franked with a 6 Sen Orange copy '**Re**' [P. 111] and a **registered cover to Germany** franked with a 20 Sen Rose Syll. '**Chi**' [P.118].
- VII. **1875-1876 Cherry Blossom Issue on Foreign Paper/Revised Design** [P. 121-128] consists of three stamps. An illustration of transitional stages of 1 Sen Brown with Ribbon/ 3 Positions of Plate 2 [P. 122], and a **variety of perforation & an assortment of Fancy Markings** of 2 Sen Yellow with Ribbon [P. 123-124] are eye-catching items in this section.

### Literature (in Japanese)

Study Group of Hand Engraved Stamps, *The Specialized Catalogue Japanese Hand Engraved Stamps*, 7<sup>th</sup> ed., Tokyo, 2007.  
Japan Philatelic Society, *Japanese Stamp Specialized Catalogue: Etched Stamps*, Tokyo, 2023 (partly in English).

1872 10 Sen Apple Green on Native Paper/Government Printing



Registered Double-weight Cover from Tsu, Ise Prov. to Nagasawa Village, Suzuka District, the same Prov.

Manuscript Date: 17 August 1876 [Meiji 9], franked with a 10 Sen and a 1 Sen Light Brown with Ribbon/Rev. Color, cancelled by Double-circle KG Tsu

Double-weight postage 2×2 Sen, Registration Fee 6 Sen and extra-charge for villages without P.O. 1 Sen, thus 11 Sen in total

Only as many as 5 covers recorded so far

pos. 34

pl. 2  
pos. 34



Re-touched  
Type B

## 出品者プロフィール



*Mr. KURODA Takashi*

### 黒田 卓 氏

1955年京都市生まれ、現在仙台市在住。郵趣振興協会 賛助会員。

世紀転換期に、30数年振りに切手収集を再開、最初のご多分に漏れず日本切手のポストーク収集に努めていましたが、そのうち手彫収集に専念するようになりました。手彫だと入手できても一カ月に数枚の切手、整理も楽し長く続けられると考えたからです。

でも浅はかでした。この道は進めば進むほど奥が深く、限られた資金からはより限界が見えてきます。しかしやれるところで身の丈にあった形でやってみようと思い直し、定年退職を一つのきっかけにリーフに再整理し、切手展に出品することを続けてきました。

出品・受賞歴 いずれも作品タイトルは、Japan Etched Stamps 1871-1876 (邦題：手彫切手 1871-1876)

○国内展

Stampex Japan 2023	8 フレーム	金賞＋審査員特別賞
JAPEX 2023	5 フレーム	金賞＋手嶋康賞
Stampex Japan 2024	5 フレーム	大金賞＋手嶋康賞
全日展 2024	5 フレーム	金賞＋全日本郵趣連合賞
Stampex Japan 2025	5 フレーム	大金賞＋グランプリ

○国際展

PHILAKOREA2025	5 フレーム	金賞
----------------	--------	----

# スタンペックスジャパン2026

*Japan Definitives 1883-1892, KOBAN*

## Japan Definitives 1883-1892, KOBAN

作品番号 No. 2

伝統郵趣部門 (8 フレーム)

出品者：山田 廉一

本作品は、1883年(明治16)以降に改色または新額面として発行された小判切手、いわゆる「UPU小判」と「新小判切手」を伝統郵趣作品として構成したものです。作品の冒頭では、各切手の初期使用例を示し、あわせて発行を告知した官報や見本切手を展示しています。その後、額面ごとに製造面の分類と使用例を展開しています。製造面の分類は、用紙・版・色調・目打を基本とし、そこに出品者独自の研究成果を加えています。

本作品の大きな見どころのひとつが、初期使用例です。1883年(明治16)発行の小判切手(UPU小判)については、3額面すべてで最初期使用カバーを展示しています。発行日である1月1日は休日のため郵便局が閉局しており、1銭および2銭の1月2日使用が初日使用となります。これらはいずれも現存1点のみ知られています。5銭については、1月初の外国船で運ばれた1月13日横浜使用のカバーを展示しており、実質的な初日使用といえるものです。この1月13日使用は3点が知られています。1888年(明治21)発行の小判切手は8額面ありますが、同年8月末まで使用された国内二重丸印による使用例が最初期使用となります。これらは、これまでに5額面6枚が知られており、そのうち5額面5枚を本作品に収めています。また、本シリーズ最後の発行となる1892年発行小判(新小判3銭)についても、発行22日目の最初期使用カバーを含めています。

製造面における見どころとして、確認例が1点のみの目打を8点含んでいる点が挙げられます。中でも、UPU小判2銭の目打12½未使用は最も希少な存在です。1883年以降に発行された小判切手の基本目打の中で、UPU小判1銭および2銭に見られる目打11と目打12½は特に入手困難ですが、2銭の目打12½未使用は現存1枚のみで、本作品中でも最高峰のマテリアルといえます。このほか、以下のような確認例1点のみの複合目打を7点展示しています。

- ・1銭：目打13×10½(カバー)、目打12×13(未使用)
- ・2銭：目打10×12(木綿紙・未使用)、目打11L×10
- ・5銭、10銭、15銭：目打12×13(未使用)

使用面では、多彩で希少な使用例を見どころとしています。具体的には、1銭の蘇州発外信書留、2銭目打11の8枚貼書状および目打12½の8枚貼書状、5銭の大型ボタ印による国内書留書状(3通)、10銭のプリンディシ経由12銭料金書状、20銭の国内特別送達書状、25銭の外信到着証明書状および国内特別送達書状、1円の価格表記郵便、5厘の外信到着証明書状などを展示しています。

## JAPAN Definitives 1883 - 1892. KOBAN

### Scope

Koban stamps, which were the first to be produced in Japan using Western printing methods, have a wide variety of production aspects unparalleled anywhere in the world due to trial and error in their production methods. The scope of this exhibit focuses on the production aspects of the Koban stamps that the exhibitor has been leading in uncovering in recent decades [1-5], and aims to show Koban stamps in general using traditional philately style. This exhibit includes many important and/or unique materials of Koban Issue. Most of the earliest usages of Koban stamps issued from 1883 to 1892, and most of reported unique perforations are shown in this exhibit.

### Highlights

**Early Usages:** Early usages are one of the highlights of this exhibit. Among thirteen values of Koban stamps issued from 1883 to 1892, the earliest used covers are authorized for seven values, whereas the known early used covers of other values were used after several months or one year after their issue and such usages cannot be recognized as the earliest usage. Among these seven earliest covers, five earliest covers of 1 sen, 2 sen, 3 sen, 4 sen, 5 sen are shown in this exhibit. Regarding single stamps, five values, six 1888 issued Koban stamps cancelled with domestic double circle datestamp, which was used until August 1888, are recognized as the earliest usages. Five of these six known stamps are shown in this exhibit.

**Papers:** Cotton papers of 1 sen, 2 sen, and 5 sen are scarce. Among cotton papers, short grained cotton papers of 5 sen are known for five copies. One of the five copies is shown in this exhibit.

**Perforations:** Perforations of 1 sen, 2 sen, and 5 sen are classified into ten perforations. Among these ten perforations, p. 11 and p. 12½ are the most scarce. Especially, only one copy is known for unused 2 sen with p. 12½ in this exhibit, which is the only known example of basic perforation among the Koban stamps issued from 1883 to 1892. This is the most important stamp among the Koban stamps. The perforation of the Koban stamps is line perforation and compound perforations are also quite scarce. The unused Koban stamps with compound perforations after 1888 are especially scarce. Among these unused compound perforations, only one example of p. 12×13 of 1 sen, p. 12×13 of 5 sen, p. 12×13 of 10 sen and p. 12×13 of 15 sen are respectively known. All of these four only one known stamps are shown in this exhibit.

**Panes:** Five unused panes and four used panes are known for the Koban series issue from 1883 to 1892. Among them, two unused panes and one used pane are shown in this exhibit.

Category	Important and/or Unique Stamps or Covers
Early Usages	The Earliest Covers: 1sen, 2sen, 5sen (p. 2-3), 3sen (p. 6), 4sen (p. 5) The Earliest Used Stamps (Five of Six known): 4sen, 8sen, 10sen, 25sen, and 1yen (p. 4)
Papers	Short Grained Cotton Paper of 5sen (p.49). One of five known copies.
Perforations	All the following stamps are <u>only one known</u> : <ul style="list-style-type: none"> <li>• 1sen: p. 13×10½ (cover, p.24), 12×13 (unused, p.25)</li> <li>• 2sen: p. 10×12 (cotton paper, unused, p.29), p.12½ (unused, p.33), p.11L×10 (unused, p.35)</li> <li>• 5sen: p. 12×13 (used &amp; unused, p.58)</li> <li>• p.12×13 (unused) of 10sen (p.81) and 15sen (p.89)</li> </ul>
Panes	1sen (unused, p.26), 20sen (used, p.96), 5rin (unused, p.119)
Covers	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 1sen: International Registered Letter from Soochow (p.27)</li> <li>• 2sen: Eight p.11 bearing letter (p.36), Eight p.12½ bearing letter (p.36)</li> <li>• 5sen: Three Domestic Registered Letters cancelled with Bota Cancellation (p. 52, p. 55)</li> <li>• 10sen: International Letter via Brindisi (p.79)</li> <li>• 20sen: Domestic Special Delivery (p.98)</li> <li>• 50sen: International Registered Letter cancelled with Small Registered date stamp (p.101)</li> <li>• 25sen: International "Advice of Delivery" Letter (p.104), Domestic Special Delivery (p.108)</li> <li>• 1yen: Domestic Registered Value Declared Letter (p.112)</li> <li>• 5rin: International "Advice of Delivery" Letter (p.115)</li> </ul>

### References

- [1] Color Guide of Japanese Stamps – UPU & New Koban, R. Yamada et. al., JPS (1998)
- [2] U-Koban & New Koban Handbook of the Classification by the Shades, R. Yamada et. al., JPS (1999)
- [3] UPU Koban – A Practical Guide of Japanese Stamp Specialized Catalogue -, R. Yamada, JPP (2011)
- [4] New Koban – A Practical Guide of Japanese Stamp Specialized Catalogue -, R. Yamada, JPP (2009)
- [5] Japanese Stamp Specialized Catalogue 1876 - 1908, R. Yamada, et. al., JPS (2020)

Issuance of Koban

The Earliest Usages of 1888 Issued Koban

Inland Double Circle Datestamps

Five of Six known Copies

Eight values of Koban Stamps were issued in first half of 1888. On the other hand, inland double circle datestamp had been used until Aug. 31, 1888. The 1888 issued Koban stamps cancelled with the inland double circle datestamps thus are so called the earliest usages, of which only six copies (five values) have been known so far. Among the six copies, five stamps are shown here.

4 Sen Olive-bistre  
Issued on Mar. 10, 1888  
The Earliest Usage



Double Circle Datestamp, KB2 Type  
Miyachi, Suoh, Aug. 25 (1888)

10 Sen Dark Orange  
Issued on Mar. 10, 1888  
The Earliest Usage



Double Circle Datestamp, KB2 Type  
Jioh, Settsu, Aug. 24 (1888)

8 Sen Bluish Violet  
Issued on Mar. 10, 1888  
The Earliest Usage



Double Circle Datestamp, KB2 Type  
Kanaya, Tohtohmi, 〇. 〇8 (1888)

25 Sen Pale Green  
Issued on Apr. 28, 1888  
The Earliest Usage



Double Circle Datestamp, KB2 Type  
Ohmuta, Chikugo, Aug. 15 (1888)

1 Yen Red  
Issued on Apr. 28, 1888  
The Second Earliest Usage



Double Circle Datestamp, KB2 Type  
Kaibara, Tamba Aug. 28 (1888)

(c)

# 出品者プロフィール



*Mr. YAMADA Ren-ichi*

## 山田 廉一 氏

小学生の頃、当時小学生の間で流行していた切手収集を始めました。中学生になると田辺猛氏の『小判切手の集め方』を読み、小判切手の世界に強く惹かれました。当時は百円玉を握りしめての収集で、実際に集めるよりも、知識を蓄えることが中心の時期でした。大学生になってから、ようやくまとまった小判切手を入手できるようになりました。この頃から郵趣雑誌への投稿も行うようになりました。就職後は、小判切手の研究に本格的に取り組むようになり、収集と研究を並行して深めていきました。

収集対象は当初、日本切手に限っていましたが、2001～2002年の米国カリフォルニア在住を機にハワイ切手を、2018～2020年の英国ケンブリッジ在住をきっかけに英国切手の収集も始め、現在に至っています。

現在、郵趣協会理事長、国際日本郵趣協会（ISJP）理事、国際郵趣鑑定連盟鑑定士、切手の博物館登録鑑定士、郵趣振興協会 正会員。

### 国内展受賞歴

UPU・新小判切手 JAPEX 2005 チャンピオンクラス LG  
Hawaii 1964-1899 全日展 2014 V  
Great Britain Definitives 1911-34 全日展 2023 G、グランプリ

### 国際展受賞歴

Great Britain Definitives 1911-34 EuroPhilex Brimingham 2025 LV  
Japan Definitives 1883-1892, Koban Phila KOREA 2025 LV

### 主な著書

『ビジュアル日専』（既刊5冊）日本郵趣協会 2020 - 2024年

# スタンペックスジャパン2026

## Japan Tazawa Old die Definitive Series 1913-1925

# Japan Tazawa Old die Definitive Series 1913-1925

作品番号 No. 3

伝統郵趣部門 (8 フレーム)

出品者：丹羽 昭夫

本作品は、旧版 (19mm×22.5mm) で印刷された田沢切手の伝統郵趣の作品です。スタンペックスジャパン2024のクリティークで指摘された問題点、① First Issue である大正白紙切手を入れる事。②旧毛6銭、30銭のL12が無い、が2年間でクリア出来たので、作品を再構成したものです (旧毛6銭の入手にはかなり無理をしました)。

分類は2023年に刊行された「ビジュアル日専・田沢切手編」に基づいています。大正白紙シリーズと旧大正毛紙シリーズを分けずに田沢旧版切手として印刷時期で分類しています。具体的には、最初期印刷は白紙と最初期毛紙で野線は中子持野 (3銭は無双野も有り)、初期印刷は初期毛紙で野線は震災前かすみ野、中期印刷は中期毛紙で野線は震災前かすみ野、後期印刷は後期毛紙で野線の無い白耳、以上は政府銘版です。最後期印刷は最後期毛紙で野線は震災後かすみ野、銘版は内閣銘版です。

作品構成として、第1、2フレームにインパクトのあるマテリアルを展示しています。第1フレーム最上段のP2は最難関の大白1円のリーフ (見本の銘版最大ブロック、確認2点の未使用田型、未使用銘版ペア)、P.3-4は通信公報と旧毛の1次発行切手の初日押印のカットの揃い (恐らく現存1点)。この通信公報には大正3年5月20日に今現在窓口で販売されている普通切手の用紙が白紙から透かしの入った毛紙に変更になると記されています。よって旧大正毛紙切手は新切手として発行されていない事が分かります。その故に当時の殆どの収集家は新切手として認識していなかったと思われる、現在に至るまでFDCは発見されていません。従ってこの初日押印のカットの揃いは旧毛の発行当初の色調と紙質を知る上で貴重な資料です。そして、第2フレームは稀少マテリアルが沢山ある3銭のみで構成しています。最上段は田沢切手収集の「花」である「無双野」の4リーフ。大白の未使用銘版ペア、コーナー耳付最大ブロック、旧毛の銘版最大ブロック、未使用田型 (最大)、L12のカバー、最大数貼 (3枚ストリップ) カバーなど。他のリーフには大白3銭の切手帳ペーン (確認数点)。

又、他の額面の注目すべきマテリアルは、大白1½銭L12銘版未使用ペア (確認1点)、旧毛1½銭L12かすみ野未使用ペア、旧毛5銭C12×12½中子持野銘版未使用ペア、旧毛6銭L12 (確認3点)、旧毛10銭L12未使用田型 (確認1点)、大白20銭銘版8枚未使用ブロック (最大、確認1点)、大白25銭L12未使用単片 (確認1点)、旧毛25銭横透かし (確認2点)、旧毛30銭L12未使用単片 (確認3点) 及び使用済ペア (最大、確認2点)、旧毛50銭C12×12½使用済6枚ブロック (最大) 及びL11田型 (最大、確認2点)、などです。

## Japan Tazawa Old Die Definitive Series 1913-1925

**Scope**

This exhibit is a study of Tazawa definitive series stamps printed in the old die issued between 1913-1925.

The paper used for the initial issue of the Tazawa old die definitive stamps was white paper, but the following year it was changed to watermarked granite paper. And as stamp production volumes increased, marginal lines were added starting with this series to prevent wear around the edges of the printing plates. Three types of marginal lines were used on the old die stamps. New die used only one type of marginal lines. Furthermore, immediately after the reconstruction of the Printing Bureau following the Great Kanto Earthquake, stamps without marginal lines were issued.

The diversity created by the intricate combination of these marginal lines, three basic perforations, and two imprints offers a unique appeal in stamp collection not found in other standard stamp series. From a used perspective, the changes are fascinating: alterations to delivery routes due to World War I, use in overseas territories (China, The south Manchuria railway zone, Taiwan, Korea, Sakhalin, The south sea mandate territories), two revisions to UPU rates, the introduction of machine postmark, and launch of air mail services.

**Plan of the Exhibit & Remarkable items**

Manufacturing periods are mainly specified by paper, shade, marginal rules and perforation.

This exhibit contains many largest blocks, largest franking covers and errors.

The major difference between this exhibit and the previous one is that it contains a First issue "White paper stamps" and L12 of granite paper 6sen and 30sen. This is because I made improvements based on the points raised in the previous critique.

The topics are exhibit on the first tier of the first frame. And then, starting on P.5, stamps are generally exhibited in ascending order of denomination from the lowest. However, since the 3sen has a large number of important materials, it is occupies the entire second frame.

P.2: Rarely used white paper 1yen stamp appears to have been printed only once, based on the number of stamps issued. **Largest Imprint block** (block of 12), **Largest unused block of 4** (2 examples), **Unused complete imprint pair** (4 examples).

P.3-4: Publicity of the Ministry of Telecommunication (3 examples). It is noted here that new stamps with a different paper will be issued on May 20, 1914. However, philatelists at the time did not recognize granite paper stamps as new issues, and to this day, no FDC covers have been discovered by philatelists. Therefore, cut-outs of this exhibit are important (only one example).

【5rin】P.6: White paper largest (×11) franking cover. 【1sen】P.12: Granite paper largest block of shifted perforation. P.13-14: Classification of varieties of Vertical broken lines after GKE (Original study). 【3sen】P.17-20: Its flashy appearance and rarity marginal rule "**Solid thick bar**" is most important material. P.17: White paper perfect imprint (C12×12½ and C13×13½), **Largest block** (block of 20) P.20: Granite paper perfect imprint **largest block** (block of 20), **Largest unused block of 4 (only one)**, **Largest** (strip of 3) **franking cover** (2 examples). P.22: Granite paper L12 parallel triple lines largest imprint block (block of 16). P.24: Combination of L12 and vertical broken lines. P.28: **White paper booklet pane** (3 examples).

【1½sen】P.33-34: White paper largest block (block of 50). P.37-38: Granite paper sheet printed on the 1<sup>st</sup> secondary die before GKE. P.43: Combination cover with foreign stamps. P.44: Granite paper booklet pane C12×12½ (5 examples). 【2sen】P.49-50: White paper largest block (block of 50). P.51-52: Granite paper 2<sup>nd</sup> largest unused block (block of 30), Classification of varieties of Parallel triple lines (Original study). P.53: L12 and Vertical broken lines franking cover (3 examples). 【4sen】P.63-64: Granite paper largest (×12) franking cover. 【5sen】P.70-71: Granite paper largest (×29) franking cover. 【6sen】P.74: **L12** (3 examples). P.75-76: Sheet printed on the 2<sup>nd</sup> secondary die after GKE (only one example). P.80: Double weight air mail from Korea to USA in 1931, via Japan. 【8sen】P.81: Marginal L12. P.83-84: Largest (×8) franking cover.

【10sen】P.86: White paper imprint pair. P.89: White paper booklet pane. P.90: Granite paper latest printing largest block of 16. P.91: International letter from the south sea mandate territories. 【20sen】P.97-98: **White paper largest imprint block of 8 (only one example)**, White paper largest (×3) franking cover. 【25sen】P.109-110: **White paper unused L12 (only one example)**, Granite paper L12 largest block of 8 (3 examples), White paper largest (×2) franking cover. P.107-108: Granite paper sheet printed on the 1<sup>st</sup> secondary die before GKE. P.109: Granite paper **watermark sideways** (2 examples). 【30sen】P.113: **L12 unused** (3 examples), Paper hold error. P.116: Air mail to USA in 1925. 【50sen】P.119-120: C12×12½ largest block (block of 6), **L11 largest block (block of 4)** (2 examples), Largest (×12) franking cover. P.121-122: Double weight air mail to USA in 1928.

**REFERENCES**

"Japanese Stamp Specialized Catalogue (1913-1937)" (Japan Philatelic Society Foundation, 2023)

Japan Tazawa Old die  
Definitive Series 1913-1925

10 sen

White paper: Issued on Oct. 31, 1913  
Granite paper: Issued on May 20, 1914

Main usage: domestic registered letter

Printed on the 1<sup>st</sup> secondary die, Pane format: 100 subjects of 10×10

Ruled lines on Selvage: Parallel triple lines

Earliest printing / Steel blue

White paper  
L 12



Largest unused block (block of 4)

Earliest granite paper  
L 12



Largest unused block (block of 4)  
Only one example is known

White paper  
C 12×12½



Imprint type 3  
2 examples are known

White paper  
C 13×13½



Imprint type 3  
3 examples are known

Earliest granite paper  
C 13×13½



Imprint type 3  
5 examples are known

White paper

L 12



C 12×12½



Earliest granite paper

C, 13×13½



Earliest granite paper

L 12



C 12×12½



9	10
19	20



The constant flaw of the secondary die "Petal with a dot" is found in positions 14, 19, 34, 39, 54, 59, 74, 79, 94 and 99 of a sheet printed in an early stage.

# 出品者プロフィール



*Mr. NIWA Akio*

## 丹羽 昭夫 氏

昭和 37 年 1 月東京神楽坂生まれ。郵趣振興協会 賛助会員

小学校 5 年生位の際に、当時沖縄切手ブームの影響で切手収集を始める。中学時代に普通切手を集めだし、次第に田沢切手と動植物国宝切手を使用済で収集する様になった。

2009 年に JAPEX に「田沢旧大正毛紙切手」を初出品し、今日まで毎年同じ題名で、全日展と JAPEX に出品を続けている。

### 国内展受賞歴

全日展 2019：題名「田沢旧大正毛紙切手」 大金  
JAPEX 2020：題名「田沢旧大正毛紙切手」 大金（グランプリ）

### 国際展受賞歴

CHINA 2019 (FIAP)：title “Japan Definitive Issues 1914-1925” G  
SINGPEX 2019 (FIP)：title “Japan Definitive Issues 1914-1925” G  
JAKARTA 2024 (FIAP)：title “Japan Tazawa Definitive Series 1914-1925” G

### 現在の収集範囲

田沢切手（大正白紙、旧大正毛紙）  
初期の外国航空便  
第 2 次動植物国宝切手（円位）～ 郵政民営化になる迄  
ふるさと切手（郵政民営化になる迄）

# スタンペックスジャパン2026

*Japan Definitive 1913-1938 Tazawa*

## 日本普通切手 1913-1938

作品番号 No. 4

伝統郵趣部門 (5 フレーム)

出品者：菊池 達哉

所謂 田沢切手 17 額面と新高額切手 2 額面の 19 額面を、額面順に収集した伝統郵趣作品です。26 年間に多様な形態変化をとげた本シリーズを可能な限り単純な分類に従って収集し、各論的追及の優先順位は高くせず、総論的理解を 5 フレーム作品で得るとするならば、その必要十分で適切な表現はいかにあるべきかを主題として作品制作を行っています。

伝統的な、大正白紙、旧大正毛紙、新大正毛紙、昭和白紙という domestic な基本分類は、初見の方、外国人の方にも理解していただき易い表現とする試みとして、発行開始時期によって 1913、1914、1926、1937 シリーズと呼称しています。

製造面では、紙質、印面サイズ、銘版、罫線、目打ちによって基本分類しています。使用面では、各額面の単貼と多数貼カバーをバランスよく収集することを目標としていますが、国内一度、外信三度の料金変更、航空郵便の開始等による多様な使用例のなかから適切なアイテムを選択し全額面を網羅して収集することは、楽しくも困難な作業となります。

導入部の充実は最大の課題の一つであり、理想的なアイテムである 1914 シリーズに存在するとされる UPU spacemen のコレクション入りが大きな願望ですが、未だ入手の機会にも遭遇できていません。

「田沢の入り口を必要十分に押さえる」。見果てぬ夢を追って、亀の歩みでも改善していけると良いのが。

# 日本普通切手 1913—1938

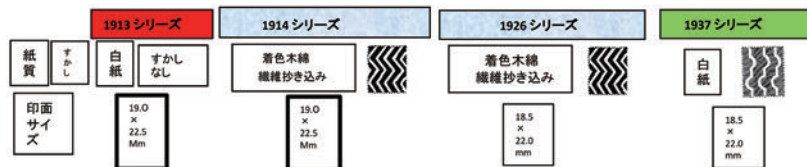
本作品は1913から38年まで、大日本帝国において新天皇即位を契機として発行を開始された、切手デザイナーの名前を冠して「田沢切手」と収集家によって伝統的に呼称されてきた17額面の普通切手に、関東大震災を契機として1924年から前天皇時代のデザインから変更された高額切手2額面を加えた19額面を、同時代の全額面を網羅する普通切手のメインストリームとして、額面順に収集した伝統郵便作品です。

## 作品制作の目的

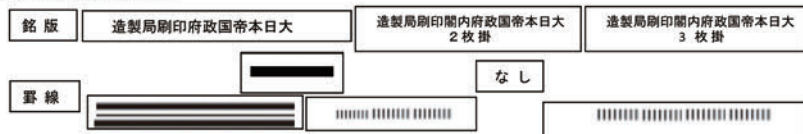
26年間に多様な形態変化を遂げた同シリーズを可及的に単純な分類に従って網羅的に収集すること。各論的追及の優先順位を高くせず、5フレーム作品において可能な、同シリーズへの必要かつ十分な総論的理解のあり方を追及すること。

## 作品の構成

19額面を額面順に収集する。製造面から、発行時期により変化した各額面の形態を、紙質、印面サイズによって1913、1914、1926、1937の4シリーズに大分類し、発行順に収集する。



各シリーズの銭単位16額面では、銘版3種類、罫線4種類、目打ちでは単線12、楕形12×12 1/2、13×13 1/2、全型13×13 1/2の基本的4種類に例外的目打ち単線11、コイル切手の全型13を含めた6種類の組み合わせによって生じるバラエティーを可及的に体系的に分類して収集する。



1円では銘版3種類、罫線2種類、目打ちでは単線11、12、12 1/2、13×13 1/2、13 1/2、楕形13×13 1/2、全型13×13 1/2、7種類の組み合わせによって生じるバラエティーを同様に収集する。

5円、10円の高額切手では銘版2種類、目打ちでは単線12、単線13×13 1/2、単線13、単線13 1/2の4種類の組み合わせによって生じるバラエティーを同様に収集する。

切手帳では1913、1914シリーズの切手帳の表紙、ペーン、1926シリーズの完本を収集する。

使用面では、基本料金国内1回、外信3回の料金変更、また航空郵便の開始等の新料金に伴う多様な使用例の変遷を、限られたリーフ数の中であるが、可及的に収集する。

## 主な展示品

3銭	1914シリーズ	目打単線12 6枚ブロック露置 未使用
3銭	1926シリーズ	大正15年2月21日 出現最初期データカバー
10銭	1914シリーズ	中子持ち置 シート
25銭	1913シリーズ	目打単線12縦ペア
50銭	1914シリーズ	目打単線11貼外信小包使用オンピース

## 参考文献

「田沢切手」	西野茂雄 編集	日本郵趣出版	1978年
「田沢切手精集」	安宅清・西本正賢・天野安治	日本郵趣協会 西日本地方本部	1989年
「大正切手」	山口 充 監修	日本郵趣協会	2014年

# みほん

1913シリーズ

大正2(1913)年8月31日 発行



大正2(1913)年10月31日



1914シリーズ

大正8(1913)年8月16日



1924シリーズ

大正13(1924)年12月1日

1914シリーズ

大正14(1925)年9月15日



1926シリーズ

昭和4(1929)年9月1日

1926シリーズ

昭和6(1931)年1月21日



# 出品者プロフィール



*Mr. KIKUCHI Tatsuya*

## 菊池 達哉 氏

1958(昭和33)年生まれ。67歳。郵趣振興協会 正会員

切手収集は父の影響で小学生時代に開始。父は昭和和紙が現行切手であった旧制弘前工業学校時代に収集開始。祖父は奥羽通信講習所出身、旧逓信省下級官吏。

16歳、全日展に「田沢切手」で入選。以後長い中断期間を経て52歳時に収集再開。大正和紙単線12の中で唯一未収であった25銭を、50歳を超えて入手出来た時、高揚感の中で高校時代の自分に戻っていました。

### 収集領域

1. 伝統郵趣「日本普通切手 1913 - 1938 田沢切手」
2. 郵便印郵趣「越後国・佐渡国の初期郵便消印」
3. オープン「フィンランド共和国」

### 受賞歴

2021年 日本国際切手展

「Republic of Finland - its independence and the struggle」73点

2023年 JAPEX

「佐渡国・越後国の記号入番号消印」80点

2025年 JAPEX

「越後国新潟局、高田局のボタ印」79点 ベストワンフレーム賞

## スタンペックスジャパン2026

JAPAN:SHOWA Series 1937-46

## 昭和切手 1937-1946

作品番号 No. 5

伝統郵趣部門 (8 フレーム)

出品者: 伊藤 純英

昭和の初めは大正切手の延長で10年ほど過ぎたが、当時の世界的切手の図案改正傾向—装飾図案から具象図案への流れを受け、新切手の改正機運が高まってきた。国家的事業として多方面から選抜された人材による図案審議会を立ち上げ、数度の協議を経て昭和12年(1937年)5月11日に最初の切手2銭乃木大将が発行された。これは葉書料金であった。次いで8月1日に封書料金の東郷元帥切手、というように昭和15年2月1日富士桜図案切手発行まで19種類の切手が発行された。同図案の切手帳2種とコイル切手4種も含めた戦前発行のシリーズを第1次昭和切手という。意匠となった図案は「世界に冠たる日本」を体現する、自然風景・神社・仏閣・人物・装飾図案である。大日本帝国の版図が最大だった時期で、国力が戦前最大の時期を表現した素晴らしい出来栄である。ぜひ作品で「みほん」加刷等で見事な初期印刷を見てほしい。

昭和16年12月8日米英との戦争に突入。中国戦線も含めて、「大東亜戦争」と閣議決定。欧米の植民地支配からの解放を目指した戦争であった。17年4月1日封書料金等の改正。同日5銭東郷元帥切手発行。まだ連戦連勝の気分に浮かれた時期であった。しかし同年6月ミッドウェイ海戦の大敗で暗転。次第に国民生活に陰りが見え始め、19年4月1日に封書料金7銭・葉書料金3銭に改訂する頃には、用紙・印刷ともその製造能力の低下は否めない状況になってきた。20年4月1日封書料金10銭・葉書料金5銭に改訂された頃には目打なし、糊なしの切手も出現するほどの製造能力低下であった。8月15日終戦の詔勅。9月2日ミズーリ号での降伏文書調印。占領下日本の時代に入る。この戦時中に発行された22種類(目打・糊区別)の切手を第2次昭和切手と称する。この時期は南方占領地に持ち込まれて使用されたので大日本帝国史上最大の勢力圏を形成した。タイトルリーブの地図がそれである。この地図は欧米の認識で作成されたものなので、満洲・蒙古・中国占領地も含んでいる。

20年東京大空襲により印刷局消失。残った紙幣寮で少数製造できるのみになったので、民間会社のオフセット(平版印刷)による製造を計画。実際には終戦後の10月頃出現。戦時中に計画、戦後に占領下日本で使用されたオフセット印刷の切手10種を第3次昭和切手と称する。以上のように、第1次～3次は使用された歴史的背景も製造面も異なる。

今回は昨年のクリティークでのご指導を受け、1フレームにアーカイブ(+特別シート)展示後は、1～3次切手ごとに、第2フレーム以下額面順に配置した。『昭和切手専門カタログ』のベースになった、この作品でしか見られないアイテムが多数、赤枠に注目して見てほしい。

# JAPAN: Showa Series, 1937-46

After the front series of the Tazawa stamp appeared, 20 years passed until a new stamp issue was planned. Note that although revision of postage occurred on April 1st 1937 (Showa 12), which became the 4 sen sealed letter and 2 sen postcard, the First Showa stamp was published later on May 10th.

A feature of this series is that it has a concrete design with a different field and a new watermark came to be used.

On the manufacturing side, the differences between the printing technology of the beautiful stamp and the poor stamp of the pre-war days are interesting. This was the time when Japan had the maximum territorial gain in the war and places that could accept the postmark. During World War II the postmark was brought to the occupied territory and used with the stamps supplied there, and stamps published on the spot. It can be said that this stamp series tells us about the rise and fall of the Japanese Empire, from the time when it reached its peak to the shift in time during the war when goods were insufficient.



- I The First Showa Stamp (1937 - 1940 Issue)  
The stamp group of the issue before World War II. The 19 main number stamps, and booklet and coil stamps
- II The Second Showa Stamp (1942 - 1945 Issue)  
The stamp group of the issued in World War II.
- III The Third Showa Stamp (1945 - 1946 Issue)  
This issue was mainly planned during war. This stamp group was issued after the war.

## Contents

Classification	Engraved	Typographed	Lithographed	Gum	Perf.
First Showa Stamp	○	○	×	○	○
Second Showa Stamp	○	○	×	△	△
Third Showa Stamp	×	×	○	×	×

First Showa Stamp	(1)Archives (2)5 rin-7 sen (3)8 sen-1 yen(4)5 yen-10 yen booklet pane & coil stamps
Second Showa Stamp	(5)1 sen-7 sen (6)10 sen-20 sen (7)27 sen-40 sen
Third Showa Stamp	(7)3 Sen-10 sen (8)10 sen blue- 10 yen ※(1)~(8)Frame number

### FEATURES:

Collections containing the most number of items with only one known item

- In this series
- 1 The rarest item (P. 113-114-117-118)
  - 2 The rarest error stamp (P.10,P.37)
  - 3 The rarest cover (P.118)

A collection containing four items above

## Reference books

Title	Author	Publisher	Year
The study of Showa Series	ARAI Toshimoto	Hosunkai JAPAN	1974
Gallery of JAPANRSE STAMPS Vol.7 SHOWA Era	JPS	Japan Philatelic Publications Inc.	1981
Showa Series and the method of Collection	NARITA Hiromu	Japan Philatelic Publications Inc.	1985
Collection of the Third Showa Stamp Series	OCMLJRA Kousaku	Japan Philatelic Publications Inc.	2000
Practical Showa Series collection CD-ROM	ITOH Sumihide	Kyushu Philatelic League JAPAN	2003
Practical Showa Series collection	ITOH Sumihide	Nagasaki Branch of JPS JAPAN	2006
JAPAN Specialized Catalogue 2011	JPS	Japan Philatelic Publications Inc.	2011
Showa Stamp Specialized Catalogue 2015	YAMAZAKI Yoshiyuki	Narumi Co.	2015

## JAPAN: Showa Series, 1937-46

First Showa Series  
Flat plate printing

### 2 Sen Gen. Maresuke Nogi

issued: February 1938

Imperforated error with gum  
Only one known as block of 4 with registered mark

	41	42
+	51	52



昭和切手の中で、「乃木2銭」は特別人気がある。色・糊・目打など、その変化は多岐に亘り、集め始めると中々止められない。その中でも、昭和切手最大のエラーと呼び声高いのが、「乃木2銭朱色糊付無目打」であり、「乃木2銭」蒐集のエベレストである。（タカハシスタンプ商会HP日本切手ノート）

Only one known as imprint of  
Light vermillion P.12  
block of 10



「國」と「印」字間狭い

朱色単線12目打狭幅銘版は、上の10枚ブロック以外には見玉博昭コレクション旧蔵の3枚連のみ確認。乃木2銭蒐集最高峰の見玉コレクションでさえ、ついに3枚連以外の銘版付の入手は叶わなかったことから、稀少性がいかに高くなる。この2点以外では東京の郵政博物館収蔵の100枚シートも狭幅銘版だと確認されている。

## 出品者プロフィール



*Mr. ITOH Sumihide*

### 伊藤 純英 氏

昭和 32 年 (1957 年) 長崎県生まれ、島原市在住。公益財団法人日本郵趣協会九州・沖縄地方本部理事。長崎郵趣会会長 (日本郵趣協会長崎支部長)。郵趣振興協会 賛助会員。

1970 年万博参観時ソ連館での 1,000 種貼込帳の購入を契機に、蒐集開始。1977 年中央大学法学部入学、大学公認の切手研究会を立ち上げ、3 年次には大学郵趣連盟 (常任理事校 4 校、加盟 20 校) の会長を務めた。卒業後、在京の出版社勤務、近畿支社配属。日本郵楽会会員、日本郵趣協会関西専門例会世話人、関西郵趣連盟昭和切手例会世話人。大阪時代 5 年で帰郷、長崎県立高校国語科教諭 40 年近く。在任中長崎県教育庁と中国国家重点大学 / 東北師範大学派遣、日本語専門教師として 2 期半計 5 年勤務。長崎県派遣教師初の優秀外国人教員表彰を受ける。現在も長崎県非常勤講師として勤務。

全日展、JAPEX 出品多数。両切手展昭和切手金賞受賞は唯一。また記念切手が発行された日本開催の国際切手展 5 回連続出品は日本切手関連で唯一。国際展に 40 年以上前から昭和切手出品。地位向上に寄与した自負を持つ。PHILATOKYO81 (S)、PHILANIPPON91 (S)、PHILANIPPON2001 (V)、PHILANIPPON2011 (LV&V)、PHILANIPPON2021 (G&V)。他に FIP 展 THAILAND2018 (G)。

昭和切手蒐集 50 年間で主要珍品 / キーアイテムを一点ずつ獲得し、余人が決して再現できないリーフが多数 (赤枠付アイテム参照)。昭和切手の万束 60 個以上所有。昭和切手では既に 1 次昭和作品が FIP 展 LG、1 次・2 次作品 FIAP 展 LG に達しているが、フルスケールの 1 次～3 次作品で FIP 展 LG 獲得が当面の目標。

# スタンペックスジャパン2026

*Indonesian War of Independence, 1945–1949*

## インドネシア独立戦争期 1945-1949

作品番号 No. 6

伝統郵趣部門 (5 フレーム)

出品者：榎原 晃二

この作品では、第二次世界大戦終結後の混乱の中で誕生したインドネシア共和国が、1949年12月のオランダによる独立の承認までの期間、国家の存在を証明し、国家運営を支える通信手段とした切手と郵便制度の変遷を、時系列と地域別（ジャワ、スマトラ）に展開しました。

1945年8月17日、インドネシア共和国は独立を宣言しましたが、その直後から再植民地化をめざした旧宗主国オランダとの独立戦争が始まり、共和国は国際的な承認を得ないまま、軍事的・行政的に極めて不安定な状況での国家運営を余儀なくされました。社会は混乱し、郵便制度も戦況やオランダとの統治エリアの変動に強く影響を受けました。

この時期のインドネシア共和国における切手は、非常に複雑で難解といわれています。独立宣言後もしくは、オランダ領東インド時代に発行された切手や占領期の日本による蘭印切手への加刷切手、日本独自の正刷切手が、そのまま使用されました。その後、共和国はそれらの既存切手に「共和国」を示す加刷を施し、さらに自らの正刷切手を発行しました。場合によっては、その共和国切手に再度加刷が加えられました。このような多層的な体系を形成している収集対象は、世界的にも特異なものようです。

製造面においても、この時期の切手は、用紙、刷色、印刷品質、加刷字体や配置に顕著な変化が見られますが、これは資材不足、印刷設備の制約、地方分権的な運用といった歴史的な条件を反映したものです。地域差について、ジャワでは行政機構と印刷基盤、郵便制度も比較的維持されましたが、一方、スマトラでは戦況・統治が細分化され、地方ごとに即席の加刷も行われました。切手の種類は非常に多くなりましたが、実際に郵便として使用された期間は短く、スマトラの実通郵便物は極めて稀少なものとなりました。

## Indonesian War of Independence, 1945–1949

### Purpose of the Exhibit

This exhibit presents the evolution of postage stamps issued and used by the Republic of Indonesia as instruments of sovereignty and administration during the War of Independence, following the proclamation of independence on 17 August 1945 amid the chaos after the end of World War II.

### Scope

The exhibit spans the period from the proclamation of Indonesian independence on 17 August 1945 to its recognition by the Netherlands in December 1949, and focuses on postage stamps issued or used in territories under Republican control, reflecting the constraints of wartime shortages and disruption.

### Plan and Remarkable Items

The exhibit is arranged chronologically and geographically, focusing on the regions of Java and Sumatra. It covers the use of Netherlands Indies and Japanese Occupation stamps with and without Republican (RI) overprints, together with stamps issued by the Republican postal administration.

Production aspects—such as proofs, perforations, colors, printing irregularities resulting from material shortages, and typographic varieties of overprints—are shown in conjunction with postal use illustrated by a wide range of wartime covers. Through this structure, the exhibit demonstrates both the development and practical use of postage stamps during the Indonesian War of Independence.

#### Java

Classification of Stamp Issues	page	Remarkable Items
Netherlands Indies and Japanese Occupation stamps without Republican (RI) overprints	2-4	Registered postcard, Multi-franked postcard
Netherlands Indies and Japanese Occupation stamps with Republican (RI) overprints	5-16	Plate flaw, Typewritten "XXXXX" bar overprint
Regularly printed Republican stamps	17-40	Proofs, including die proofs and trial color proofs, Double print, Express postcard

#### Sumatra

Classification of Stamp Issues	page	Remarkable Items
Netherlands Indies and Japanese Occupation stamps without Republican (RI) overprints	41-42	Cover franked with Japanese Occupation stamps without RI overprints
Netherlands Indies and Japanese Occupation stamps with Republican (RI) overprints	43-60	Cover franked with four 10c RI Ball Overprint stamps, Mixed-franking cover with RI-overprinted Japanese and Netherlands Indies stamps, Largest known single-franking cover franked with twenty-five 10c Netherlands Indies stamps bearing Japanese Occupation overprints and subsequent RI overprints
Regularly printed Republican stamps	61-80	Overprint denomination errors, Inverted overprints on regularly printed stamps

In wartime Sumatra, fragmented administrative and military control limited postal usage largely to local areas, resulting in fewer recorded examples than in Java.

### Literature

- Catalogue of the Postage Stamps of the Republic of Indonesia, 17 August 1945 – 27 December 1949. Dai Nippon Philatelic Society; Leo B. Vosse.
- Katalog Prangko Indonesia 2018. Indonesia Stamp Dealers Association (ISDA).
- The Indra Kusuma Stamp Collection: "The Struggle for Indonesian Independence."
- Harsono Suwito, "A Comprehensive Study on Indonesian Postal Rates for Various Items on Sumatera, 1945–1950."

INDONESIA

Sumatra  
1947

Revolutionary Period

Overprint error

(Rp. instead of F.) Pos. 7

2.50f on 40s Red

Thick speckled paper



c

d

e b  
a a

b	b	e	a	a	a	d	a	e	b
a	b	a	a	d	d	a	a	a	a
a	a	a	a	a	a	a	d	d	d
a	d	d	e	a	c	c	c	a	f
f	f	f	f	f	f	f	f	f	f

PADANG

2.50    2.50    2.50    2.50    2.50    2.50  
a            b            c            d            e            f



f

f



f



a



b

TANDJOENG BALAI

3.50f on 40s Red Thick speckled paper



d

a



e



b



c

Deep Red

3.50    3.50    3.50    3.50    8.50  
a            b            c            d            e

c	c	b	c	a	a	a	a	d	a
a	a	a	a	a	c	a	a	a	a
a	a	a	a	a	a	a	a	a	a
a	a	b	a	b	b	b	b	c	e
e	e	e	e	e	e	e	e	e	e

# 出品者プロフィール



*Mr. MAKIHARA Koji*

## 槇原 晃二 氏

昭和 30 年 (1955 年) 広島県生まれ、広島市在住 広島蒐郵会代表、郵趣振興協会 賛助会員。

1977 年広島蒐郵会に入会し、小判、菊、田沢など日本の普通切手収集を対象として、切手の分類、収集の深さ、面白さを知りました。その頃は、日本普通切手をゼネラルで広く、浅く、可能な範囲で分類もという方針で 10 年くらい収集を続けましたが、その後は、長い中断時期に入りました。20 年後に米国切手収集で復活しています。

南方占領地オランダ領東インド切手にも興味を持ち、女王陛下切手へのバッテン加刷や日の丸加刷などを整理していました。それらの切手との関連もあってインドネシア独立戦争期へと範囲を広げています。郵趣活動では、現在、日本郵趣協会中国・四国地方本部、スタンプショウ広島実行委員会、JPS 絵画切手研究会などにも関わっています。

### 切手展受賞歴

- JAPEX2019 「南方占領地オランダ領東インド 1942-1945」金銀賞
- JAPEX2021 「米国普通切手 1847-1888」大金銀賞
- JAPEX2023 「日本普通切手 1871-1937」大金銀賞
- STAMPEX JAPAN2024 「オランダ領東インド 1845-1932」大金銀賞
- JAPEX2024 「ブラジル普通切手 1843-1878」大金銀賞
- FIP 世界展 URUGUAY2025 「URUGUAY1856-1884」金銀賞
- JAPEX2025 「インドネシア独立戦争期」金銀賞

## スタンペックスジャパン2026

*Sweden Standing Lion Issue 1920-34*

# スウェーデン "Standing Lion Issue 1920-34"

作品番号 No. 7

伝統郵趣部門 (5 フレーム)

出品者：斎藤 環

スウェーデン・セミクラシックの伝統郵趣コレクションです。本シリーズはコイルと切手帳という世界的に特異な発行形態がとられました。

マテリアルの分類・展示およびカバーのデータとも、FACIT カタログ（クラシック専門版および郵便史の両冊）に従ってまとめました。本シリーズ発行当時の時代背景、切手発行のあらましや分類・展示構成等は、タイトル頁に日本語で記しましたのでご覧ください。

用紙や透かしの分類および切手の発行形態については、3 および 4 頁に紹介します。

スウェーデンは英仏独や日本とは異なり海外に植民地を持たなかったため、相互間郵便はありませんが、フィンランド、デンマークおよびドイツほか近隣国との経済交流が盛んで、国内郵便だけでなく、外国宛て郵便、パクボー扱いの郵便物、船内郵便、航空送達など興味深いものが豊富にあります。作品構築により、ルート・レート・郵便印の解析を通じてのデータ取得およびリーフ作りの楽しみが堪能出来ます。

参観者各位におかれましては、前半 3 フレームの切手製造面の部はもちろんですが、後半 2 フレームのカバー展示にも注目いただき、20 世紀前半のスウェーデン郵便史に親しんでいただければ、と存じます。

## Sweden “Standing Lion Issue 1920-34”

本作品は 1920～34 年に 4 額面、回版印刷のカタログのメインナンバー 9 種が発行使用された、スタンディング・ライオン イッシュの伝統郵便作品である。この時代、郵便物の大幅増大に伴い、これまで民間業者に委託されていた切手製造を政府が行うことになり、既に米国で実績のあったスティックニー社の印刷機を導入しスウェーデン郵政が初めて自身で製造することになった。コイルと切手帳という世界的に特異な発行形態がとられたシリーズである。切手製造の不慣れゆえの試行錯誤が顕著で、色調・版・用紙・透かし等に多くのバラエティーが生じ、使用例とともに魅力的な収集対象のシリーズである。

### 【本作品の構成】

前半の 3 フレームは本頁やアーカイブスを含めたイントロを 4 頁置き、続いて各切手を FACIT 専門カタログに沿ってメインナンバー切手を下表のとおりに表示する。

Page No.	FACIT No.	Issued Dates	Face Values	Colors	Printing Types	Perforation Types	Notes	
5-7	140A	10.5.1920	5 öre	green	type I	2 sides perf. 9%	for vending machines	
8-10	140C	1.8.1920				4 sides perf. 9%		
11	141A	18.3.1921	5 öre	brown red	type I	2 sides perf. 9%		
12-14	142A	1.10.1921				2 sides perf. 9%		
15	142E	1.10.1922			2 sides perf. 13			
16-18	143A	2.10.1925			2 sides perf. 9%			
19-21	143C	3.9.1927	5 öre	green	type II	4 sides perf. 9%		mainly in booklet for vending machines
22-23	143E	1.12.1925				2 sides perf. 13		
24-27	144A	15.5.1921				2 sides perf. 9%		
28-30	144C	3.9.1921	10 öre	green	-	4 sides perf. 9%		almost in booklet for vending machines
31	144E	1.8.1924				2 sides perf. 13		
32-33	145A	30.9.1925	10 öre	violet	type I	2 sides perf. 9%	mainly in booklet for vending machines	
34-35	145C	15.10.1925				4 sides perf. 9%		
36	145E	1.6.1926				2 sides perf. 13		
37-38	146A	7.3.1934				2 sides perf. 9%		
39-41	146C	7.3.1934	10 öre	violet	type II	4 sides perf. 9%	mainly in booklet for vending machines	
42	146E	24.8.1934				2 sides perf. 13		
43-44	147A	26.1.1921				25 öre		orange
45-46	148A	11.5.1920	30 öre	brown	-	2 sides perf. 9%		
47-48	148C	1.8.1920				4 sides perf. 9%		

後半の 2 フレームは使用例を展示するが、カバータイトルは、貼付切手よりも郵便の種別や宛て先、料金不足や転送による切手加貼、船内郵便やパクボー扱いなどに重きを置いて展開する。本シリーズは国内書状基本料金相当の額面が発行されなかったこともあり、多数貼、異額面組合せ、異シリーズ切手との混貼などが比較的豊富にあり、これらの魅力を見ていただければ幸いである。

### 【紙質および透かしの分類について】

紙質の基本分類は、厚味・硬さ・漉き目の有無および透かし違いであり、あらましを 3 頁に示した上で各切手を分類・展示するが、区分が必ずしも明瞭でないものもあり、その場合は希少性に差のないものは区分省略ないし評価の安い方に従った。カバー上の切手は分類が困難ゆえ区分を省略した。

### 【注目いただきたいマテリアル】

P2: アーカイブス (マザー・ダイ・ブルーフおよびブラック・ダイ・ブルーフ)

P10: 5 öre green タイプ I 目打 4 辺 P. 9% 透かし Cx および Cxz 混在の使用済 12 枚ブロック

P14: 5 öre brown red タイプ II 目打左右 2 辺 P. 9% 透かし Bz 未使用

P27: 10 öre green テートベッシュ・ペアおよび 6 枚ストリップ

P69: 10 öre green 加貼 チェコスロバキアから到着の重量オーバー料金不足書状

P71: 5 öre brown red タイプ II 貼 フィンランド宛て船内郵便印付かつパクボー扱いの書状

### 【主要参考文献】

FACIT Special Classic 2024

FACIT Postal X Cancellations & Postal History

Svenska motivstäplår 1866—1959 Specialhandbok Nr 15 SVERIGES FILATELIST-FÖRBUND 1983

### Standing Lion

Postcard & Letter to Danmark

5 öre green, 10 öre green & violet

Accepted at Helsingør with Paquebot Postmark "Fra Sverige" (from Sweden)



Postcard 10 öre green 2 sides perf. 9% Accepted at Helsingør 8.7.1925 and carried to København (Copenhagen)



Letter 5 öre green type II 2 sides perf. 9% & 10 öre violet type I 4 sides perf. 9%

Accepted at Helsingør 22.10.1926 and carried to Skodsborg 22.10.1926

Rate) 10 öre for a Postcard and 15 öre for a Letter to Scandinavia Applied 1.8.1924~31.3.1948

Note) Postal items addressed to Scandinavia, Germany and UK were mailed in a letter box on board a ship and this way reached a harbour in the country. Thus stamps on the letter were cancelled with the cancellation of that harbour town and carried to the addressee.

# 出品者プロフィール



*Mr. SAITO Tamaki*

## 齋藤 環 氏

1958 年生まれ、元会社員。

無料切手カタログ・スタンペディア株式会社 会員、一般社団法人 全日本郵趣連合 会計担当委員、公益財団法人 日本郵趣協会 JAPEX 公認審査員、アジア国際郵趣連盟 (FIAP) 登録審査員、Royal Philatelic Society of London 会員、VINDOBONA (オーストリア) 会員

1966 年小学 1 年生のときに日本切手の収集を開始、1975 年にオーストリア切手に出会い、1978 年からはクラシックに熱中、以降波はありましたが中断なく収集を継続しています。

国内展は JAPEX 1981 に初出品、国際展は Bangkok 2007 (FIAP 展)、EFIRO 2008 (FIP 展) にそれぞれ出品デビューとなりました。2023 年にスウェーデン Standing Lion Issue を収集開始、今回初出品が叶いました。

日本の国内展受賞歴

オーストリア 1850 JAPEX 2017 Large Gold

ロンバルディ・ベネチア 1850 JAPEX 2021 Large Gold グランプリ

オーストリア国内展受賞歴

Austria & Lombardy-Venetia the 1850 issues ÖVEBRIA 2018 Masters Class

Austria the 1850 issue ÖVEBRIA 2019 Large Gold

Lombardy-Venetia the 1850 issue MARKE+MÜNZE / ÖVEBRIA 2025 Large Gold

国際展受賞歴

Austria & Lombardy-Venetia the 1850 issues

THAILAND 2018 Bangkok Gold

IBRA 2023 Essen Gold

EFIRO 2024 Bucharest Gold

# スタンペックスジャパン2026

*Mexico-1856 First Issue*

## メキシコ 1856 年 ファーストイシュー

作品番号 No. 8

伝統郵趣部門 (5 フレーム)

出品者：竹上 幸浩

この作品は、メキシコ合衆国で1856年に最初に発行された5額面の切手に関する伝統郵趣コレクションです。

この作品の経緯ですが、「メキシコ」は未だに人気のないジャンルですが、いわゆるブルーオーシャンとして比較的競争が少なく入手が容易な対象です。

切手研究に掲載されていた三井高陽師の記事やパイセクトカバーに魅せられて、ちょうどまとまったコレクションの競売があったことからこの道に迷い込んでしまいました。

専門団体に入会し文献を入手し情報を拡大していくにつれて、同好者の興味に違和感を持つようになりましたが、それは、同好者の興味が専ら「防盜加捺」にあると言う点でした。

この「防盜加捺」はメキシコ特有なもので、「郵便切手による郵便料金の収入を盗難等により棄損されないために、印刷物（切手）に郵便地区の捺印がされて初めて郵便切手として有効となる」という規定に基づくもので、何時どの郵便地区にどの切手を何枚送付したかと言う出入帳（Book-keeping system）で管理されていました。

郵便地区の人口や郵便需要の多寡により送付される枚数も異なるわけですので、その全てを集めることをゴールとして希少な品の争奪戦が繰り広げられるのですが、私にとっては伝統郵趣で希少な消印を自慢するようなもので違和感を覚えたものです。

自分が志向する伝統郵趣のスタイルに合わせて、比較的に入手しやすかった未使用のブロックや使用例がそこそこの量に達したので、信頼できるコミッショナーをお願いして2006年にスペインで開催された国際展に5フレームで出品しました。

同じスペイン語圏のテーマであったことも奏功してかこのテーマでは初出品であった作品がいきなり金賞という望外の結果となりましたが、コミッショナーからはお祝いと言うよりは、最初の切手のみと言うテーマは変えられないから今後大変ですよというご忠告をいただきました。確かに同じ図案を採用している第二次シリーズも含めて出品した方が大金賞を獲得できる可能性は高いとは思いますが、色付き紙の上に印刷した第二次シリーズは好きではないので、第一次シリーズのみの選択で良かったと思っています。

その後5フレームを8フレームに拡大して出品することができたのはカバーが豊富にあったことが大きいと思いますし、得点を積み上げられたのは競争者と異なった観点でまとめることができたからだと思います。

その後、必要と考える品物がマーケットに出て来なくなったこともあり、15年ほどお休みしての再出発ですが、展示作品の新たな構想を考えるという楽しい時間に浸っているうちにリーフを創るのに必要な時間が無くなってしまったため、マイナーチェンジでの作品です。

## MEXICO - 1856 FIRST HIDALGO ISSUE

*This exhibit is the specialized collection of Hidalgo Portrait stamps of Mexico issued in 1856 as the first issue, featuring Identification of Printing Plates, Book-keeping system (District Name Overprints) & Splits Usages.*

### Mexico - 1856 First Hidalgo Issue

*The President Ignacio Comonfort signed the decree on February 21, 1856 authorized the Postage Stamp production, the design is the portrait of " Miguel Hidalgo y Costilla " famous leader of Independence. Five kinds of face value stamps were recess-printed by Villegas, to be issued to meet the new postal rates.*

#### I : Identification of Printing Plates

*The first printing plates were composed of 60 subjects ( 6x10 ) with wide spacing between the rows and the frame lines around the plate, the later plates for 1 real were composed of 200 subjects (20x10) with narrow spacing between the rows and the later plate for 2 reales was composed of 190 subjects (19x10). The printing plates were determined by Color of stamps, Vertical spacing, Frame lines, Plate varieties ( re-entry & double transfer ) & Period of usage, as 1 shown in this exhibit especially in 2 reales stamps.*

#### II : Book-keeping & control system ( District Name Overprints ) and Usages

*The regulation of July 31,1856 created a book-keeping & control system which provided that the stamps left General Post Office in Mexico city unoverprinted, the overprints were affixed on arrival at the Main District Post Office where the stamps to be issued. The G. P. O. in Mexico city kept a register for each principal district in which the exact number of stamps of each value in consignment was recorded. Therefore Book-keeping & control system told us that "when", "which district" & "how many" stamps were delivered. Large districts need a lot of stamps, but small numbers enough for small districts and Very few stamps without overprints were used in Sub-offices that delivered direct from G.P.O., as shown in this exhibit "POLOTTLAN" ( 695 stamps ) or "SAN FELIPE DEL OBRAJE" ( 1,030stamps ).*

#### III : Splits Usages ( Postmaster's Provisionals )

*The reform government and conservatives, both sides in the conflict continued to use the same stamps, the G.P.O. in Mexico city did not delivered stamps to opposing liberal districts during the 1858 - 1860 civil war period. Cause of postage stamps ran short in various districts, the Postmaster cut 1, 2, 4 & 8 reales face values into Splits to meet the necessary rates. 2 reales rate ( Half of 4 reales or Quarter of 8 reales ) are most popular splits usage but other rates or some districts usage are very rare.*

#### The main contents of this exhibit

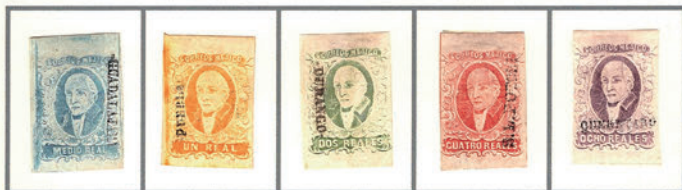
( 0 ) : Introductory	the Proofs, the Issued stamps & the Regulations	2 — 4
( 1 ) : 1/2 Real ( Medio Real )	Blue shades	5 — 16
1- I :	Identification of Printing Plates 3 plates by blocks & strips	5 — 10
1- II :	Usages Covers in 1st rate period & 2nd rate period	13 — 16
( 2 ) : 1 Real ( Un Real )	Yellow shades	17 — 48
2- I :	Identification of Printing Plates sheet of 60 subjects & block of 200 subjects	17 — 20
2- II :	Book-keeping & control system Various Districts Name Overprints	21 — 48
( 3 ) : 2 Reales ( Dos Reales )	Green shades	49 — 80
3- I-1 :	Identification of Printing Plates Plate I emerald positional items	50 — 64
3- I-2 :	Identification of Printing Plates Plate II plate varieties & usages	65 — 68
3- I-3 :	Identification of Printing Plates Plate III plate varieties & various usages	69 — 80
( 4 ) : 4 Reales ( Cuatro Reales )	Red shades	81 — 104
4- I :	Plate varieties & Usages positional items & destination covers	81 — 88
4-III :	Splits Usages ( Postmaster's provisionals ) Quarter, Half and 3 Quarters	89 — 104
( 5 ) : 8 Reales ( Ocho Reales )	Violet shades	105 — 128
5- II :	Book-keeping & control system Various Covers	106 — 128

**MEXICO - 1856 FIRST HIDALGO ISSUE**

**The profile of " Miguel Hidalgo y Costilla " issue**

**Catalogue of 1856 FIRST HIDALGO ISSUE**

*Wide Vertical Spacing stamps printed from 60 subjects plate ( 6x10 ).*



*Narrow Vertical Spacing stamps printed from 200 or 190 subjects plate.*



*1 Real printed from 200 subjects plates*



*2 Reales printed from 190 subjects plate*

**Postmaster's Provisionals issues which were cut into pieces**

**FRESNILLO(ZACATECAS)**  
*making 6 reales rate*



(e)

**MORELIA**  
*making 6 reales rate*



(e)

**TLACOTALPAN(VERACRUZ)**  
*making 2 reales rate*



(e)

## 出品者プロフィール



*Mr. TAKEGAMI Yukihiro*

### 竹上 幸浩 氏

昭和31年3月15日生まれ。郵趣振興協会 正会員  
税理士法人職員（退職して余生を楽しむつもりが未だに所属税理士）

外国切手出品者の会で紹介されている収集範囲は以下のとおり  
メキシコ  
（図案別）ライオン  
（郵便史）書留郵便、1875年の国際郵便、1850年代のヨーロッパ

国際展受賞歴（FIPには既に登録抹消されているはずだが）  
Mexico-1856 First Hidalgo Issue  
ESPANA 2006 5F Gold(90)  
LONDON 2010 8F Gold(91)  
PhilaNIPPON2011 8F Gold(92)

所属郵趣団体  
The Royal Philatelic Society, London (Fellow)  
The Collectors Club of New York

# スタンペックスジャパン2026

## HAWAII. The Provisional Government Issues

# ハワイ暫定政府加刷切手

作品番号 No. 9

伝統郵趣部門 (5 フレーム)

出品者：山崎 文雄

### 展示の目的と構成

この展示の目的は、当時のハワイ暫定政府に関する貴重な例を含め、できる限り多くの切手、その使用例、および印刷上のエラーを展示することによって、その時代背景を理解することにあります。構成については、展示は赤色と黒色の印刷順に配置され、基本的にはスコットカタログの番号順で構成されています。

### 切手発行の背景

1893年1月17日、血を流さない革命によってリリウオカラニ女王が退位させられました。ハワイの新しい指導者たちは暫定政府を設立し、迅速なアメリカ合衆国への併合を求めましたが、アメリカでは新政権が発足し、ハワイ王政に同情的な立場をとったため、政治的な障害が生じました。暫定政府は一時的な管理者ではなく、実際に統治を行う必要があることが明らかになり、暫定政府が権力を掌握した直後、体調を崩したウォルター・ヒルに代わってジョセフ・オートが郵政総監 (Postmaster General) に任命されました。

王族の肖像が描かれたハワイの切手は、革命側にとっては不都合な存在でしたが、新しい切手を発注するには時間がかかるうえ、もしワシントン D.C. で併合が認められた場合、その費用が無駄になるおそれもあったため、オートは既存の王族肖像切手に加刷を施すという迅速かつ低コストの方法を提案し、ハワイ暫定政府の閣議はこの案を承認しました。

### 郵趣的研究

このシリーズにおける研究の目的は、加刷に関する多様な種類や関連資料を調査することにあります。主要なエラーや加刷のバリエーションの多くはスコットカタログに掲載されていますが、本シリーズには未掲載の多くの種類が存在します。本コレクションでは、これら未発表の資料も多数展示しており、さまざまな加刷の違いをご確認いただけます。

### 展示の見どころ

- ・「Provisional GOVT」Proof, SPECIMEN (見本) 加刷
- ・色エラー (6c 黒加刷、10c 赤加刷)
- ・二重加刷 (報告されているすべての例)
- ・逆加刷 (2c 薄紫、5c ウルトラマリン)
- ・スコットカタログに未掲載の加刷エラーやバリエーション (分割加刷エラーなど)
- ・1c 紫色カバー、1c 青色カバー、高額カバー、その他多数の希少カバー

# HAWAII

## The Provisional Government Issues

### 【展示の目的と構成】

この展示の目的は、19世紀末ハワイの歴史的背景を郵便資料（切手、カバーなど）を通して理解することを目的としています。当時のハワイ暫定政府に関する希少な資料をはじめ、切手やその使用例、さらには印刷上のエラーなど、可能な限り多様な実例を展示しております。

展示構成は、加刷の順に基づき、赤色と黒色で整理し、基本的にはスコットカタログの番号順に、表面の額面金額順（フェイスオーダー）で構成しています。

### 【切手発行の背景】

1893年1月17日、血を流さない革命によってリウオカラニ女王が退位しました。新たに樹立されたハワイ暫定政府は、速やかなアメリカ合衆国への併合を目指しましたが、同国では新政権が発足し、ハワイ王政に同情的な姿勢を示したため、政治的な障壁が生じました。

数週間が経つうちに、暫定政府は一時的な存在ではなく、自ら統治を行う必要があることを認識するようになりました。

暫定政府が権力を掌握した直後、体調を崩したウォルター・ヒルに代わってジョセフ・オートが郵政総監（Postmaster General）に就任しました。

王族の肖像が描かれたハワイの切手は、革命政府にとっては不都合なものでしたが、新しい切手を発注するには時間がかかるうえ、またワシントンD.C.で併合が認められた場合には、その費用が無駄になる可能性もありました。

そのため、オートは既存の王族肖像切手に加刷（オーバープリント）を施すという迅速かつ経済的な方法を提案し、この案はハワイ暫定政府の閣議により承認されました。

### 【郵趣的研究】

このシリーズにおける研究の目的は、加刷に関する多様な種類や関連資料を体系的に調査することにあります。

主要なエラーや加刷のバリエーションの多くはスコットカタログに掲載されていますが、本シリーズには未掲載の多くの種類を展示します。

本コレクションでは、これら未発表の貴重な資料も多数展示しており、さまざまな加刷の違いをご確認いただけるものと存じます。

### 【展示の見どころ】

- A Pair of Proof, Pos. 23 and Pos. 24 & 「SPECIMEN（見本）」加刷
- 色エラー（6e黒加刷、10e赤加刷）
- 二重加刷（報告されているすべての例）
- 逆加刷（2e薄紫、5eウルトラマリン）
- スコットカタログに未掲載の加刷エラーやバリエーション（分割加刷エラーなど）
- 1e紫色カバー、1e青色カバー、高額カバー、その他多数の希少カバー

これらの貴重な展示資料は、ハワイ暫定政府時代の切手発行の舞台裏を物語り、同時に郵便史と印刷技術史の貴重な証言となるものです。

### 【参考文献】

Post Office in Paradise by Fred Gregory (Website)  
The Stamps and Postal History of Hawaii by Meyer & Harris (Philatelic Foundation)  
Scott Specialized Catalogue, Hawaii

## HAWAII

The Provisional Government Issues

1893

With the overprint "Provisional GOVT. 1893" in Red

"SPECIMEN" Samuel Type NA2 applied by Natal Post Office upon receipt from UPU



*Princess Victoria  
Kamamalu*



*Princess Likelike*



*Princess Likelike*



*King David Kalakaua*



*Queen Liliuokalani*



*King Kamehameha V*



*King Kamehameha V*



*King Kamehameha V*



*King David Kalakaua*



*Prince William Pitt Leleiohoku*



*Statue of King Kamehameha I*

The "Specimen" overprints on these issues are only a few known.

Ex-Honolulu Advertiser Collection

© B.P.A. Expertising Ltd, London Certificate

# 出品者プロフィール



*Mr. YAMAZAKI Fumio*

山崎 文雄 氏

収集歴 65年

収集分野 ハワイ切手全般、ハワイのステーショナリー、ポルトガル、日本切手全般、地元の初期郵便印関係（不統一印～丸一印）

郵趣関係 一般社団法人 全日本郵趣連合理事、北陸郵趣連盟理事長兼機関誌「北陸郵趣」編集担当、FIP 公認審査員、JPS 公認審査員 FIP ステーショナリー委員会日本代表

経験審査員 FIP 審査員、FIAP 審査員、全日本切手展審査員、JAPEX 審査員、STAMPEX JAPAN 審査員

主な出品受賞歴

国内展

JAPEX '90 Hawaii V  
STAMPEX 2025 Hawaii LG+ GPX  
JAPEX'07 Hawaiian Postal Stationery LG+ GPX  
STAMP SHOW 2024 能登半島大震災支援企画出品作品  
若狭国・越前国の初期郵便印 不統一印、記番印

国際展

Hawaii	Thailand 2023 LG+GPIC
Classic Portugal	Portugal'10 G
Hawaiian Postal Stationery	WSC Helvetia 2022 G
Hawaii, Bank Note Issues	Macao 2018 G

# スタンペックスジャパン2026

## FRENCH POST OFFICES IN THE FAR EAST 1855-1880

# 極東地域のフランス郵便局 1855-1880

作品番号 No. 10

郵便史部門 (5 フレーム)

出品者：若桑 正一

フランス郵政の極東地域への海外進出は 1860 年の中国遠征軍派遣郵便に始まる。

Messageries Imperiales 社は 1862 年 12 月上海までの定期航路を開設し、1863 年 3 月上海郵便局が開局した。この開局当時の郵便物を展示した。日本の郵便の最初は長崎からのものでした。MI 社はさらに横浜まで航路を延ばし、1865 年 9 月横浜に郵便局が開局された。

**初期郵便：**上海、横浜からフランスあて郵便料金は最初 70c でした。1866 年 1 月 1 日より 80c となります。1866 年 11 月 26 日横浜で大火災が発生しフランス郵便局は焼失、5118 番号印は紛失、1866 年 12 月 16 日の火災後第一便から混乱期の郵便物を展示しました。

**繁栄期郵便：**1868 年以降など貿易が活発になり訪れる外国人も多くなります。外国郵便が発展成長した時期です。郵便物は当時月 2 回の P & O 社の船と月 1 回の MI 社の船で運ばれていました。1870 年末から P&O 社は寄港地を Marseille からイタリアの Brindisi へ変更されました。このため料金は英国船利用時 1franc20c と仏国船利用時の 80c より割高になりました。1871 年 8 月郵便料金の全面改定があり仏国船利用郵便は 1franc となりました。郵便史では面白い時で、展示に力を入れました。また 1871 年の郵便物は普仏戦争で郵便の少ない時です。少ないボルドー版切手を使用した時期でもあります。

政府の政策でお雇い外国人が来日、フランスからの軍事教師団に対しては日本語で分かるようにデグロン君印や東京砲兵本廠印が利用され、生野鉦山にいたコワニーあて郵便には日仏切手混貼りカバーが出現し、郵便史ではハイライト当たる郵便があります。

**衰退期、UPU 料金郵便：**フランスは 1877 年 4 月 1 日から郵便料金は 1franc から 40c へと大幅に値下げしますが、日本のアメリカ経由郵便には勝てず、郵便量は減少した。日本政府との交渉もあり 1880 年 3 月末でフランス横浜局は閉局となりました。

**横浜局軍事郵便：**軍人がフランスあてに郵便出す時の特別処置で、上海、横浜局では地名の入った特別消印が交付使用されました。船内局の軍事郵便と共に揃えて展示しました。

**船内局郵便：**最初は MI 社の郵船には船名の入った日付印が交付され、Hydaspe, Duplex, Alpee それぞれの船名印を展示しました。1867 年以降上海航路は R 航路と横浜航路は S 航路と呼ばれてきました。その船内局に投函された少ない郵便を示しました。1880 年 3 月で横浜局はなくなりましたが、MI 社の郵船はその後横浜―香港間を通行しました。

## FRENCH POST OFFICE IN THE FAR EAST 1855-1880

In the middle of 19th century, Western countries advanced to China and Japan. In France, the Imperial Postal Shipping Company opened a regular route to Shanghai and in 1863, the French Post Office in Shanghai opened and began postal service. Furthermore, the route was extended to Yokohama and the Yokohama P.O. opened in September 1865. The French Postal service distributed the 5104 number obliterator to the Shanghai P.O. and the 5118 number obliterator to the Yokohama P.O. and issued date stamps and military postal stamps. The mail between Shanghai, Yokohama and France was transported by the ships of British P&O Company and French MI Company. An onboard bureau was set up on the French packet boats, the anchor type obliterator and special date stamp were used. Only Shanghai and Yokohama have French foreign Post Offices east of Suez. It was regarded as important.



I examined the mails which were handled by French Post Offices and French packet boats from before the opening of the Post Office until 1880 when the Yokohama P.O. was closed, considering the rate, ships and postal routes.

- I. Early Period of Shanghai Post Office
- II. Prosperity Period of Shanghai Post Office
- III. GPU rate Period of Shanghai Post Office
- IV. Consulate Postal Agency Period in Nagasaki
- V. Before the opening of Yokohama Post Office
- VI. Early Period of Yokohama Post Office (80c rate period)
- VII. Prosperity Period of Yokohama Post Office (1franc rate period)
- VIII. Late Period of Yokohama Post Office (GPU rate period)
- IX. Yokohama French Military Post
- X. Yokohama French Sea Post

1871

Prosperity Period of Yokohama Post Office

TOTAL REVISIONS OF POSTAL RATE OF AUGUST 1871

QUADRUPLE WEIGHTS POSTAGE MAIL WITH BORDEAUX PRINTED STAMPS

Letter from Yokohama to Paris



Yokohama 4 September 1871 → Hong Kong 12 Sep. → Brindisi 24 Oct. → Paris 28 October 1871

Packet Ship; Bombay (British P.&O. Company) from Yokohama to Hong Kong

Postal Rate; 5franc20centimes (Quadruple weights mail)

**Due to the total revisions on August 1871, Postage via Brindisi by British packet boat between Yokohama and France was raised from 1franc 20c to 1franc 30c.**

**The earliest mail was dated August 21, 1871**

**The Maron Company in Yokohama sent the letter franked with the Bordeaux printed stamps to Paris after the Franco -Prussian War.**

# 出品者プロフィール



*Mr. WAKAKUWA Shoichi*

## 若桑 正一 氏

1949 年生まれ 新潟県新発田市出身

中学生の頃から集めていましたが、大学時代フランス最初の切手セレスのデザインに魅了されフランス切手を収集しました。Gandon のマリアンヌや種まき切手 (JAPEX 2003,2018) も出品しています。クラシックから上海、横浜局郵便史に転換、たった 2 フレームでしたが 1990 年全日展で金賞をいただきました。さらに夢であった 1991 年の国際展にも何とか出品できました。

恩師の松本さんから横浜局カバーは現存数どのくらいだろうかという命題を与えられてコツコツ資料を集めてきました。今私の元には 5104 印の上海局が 825 通、5118 印の横浜局が 1054 通あります。150 年前の手紙です。倍の 2000 通が現存数と考えます。

いつも日付印を読み込み、データをメモしています。それに郵便船を当てはめて中継印、到着印を確認する作業をしています。あて先の地名、あて名の読み込みには苦労しています。

英仏米局に日本局も加え日本の初期外国郵便発展について収集を続けたいと思っています。

全日本切手展 1990 : G  
PHILANIPPON91 :LS  
PHILANIPPON01 : V  
PHILANIPPON21 : LV

# スタンペックスジャパン2026

*The Netherlands Indies postal history from November 1941 to February 1942*

## オランダ領東インド 1941年11月～1942年2月の郵便

作品番号 No. 11

郵便史部門 (5 フレーム)

出品者：増山 三郎

この作品は Singapore 1941年11月30日発 Pan Am Clipper Mails 最終便から3月1日日本軍がジャワに上陸したまでのオランダ領東インド（現在の Indonesia 共和国）の郵便史です。

1941年12月2日蘭印政府は日本との戦争に備え総動員令を出し、陸軍部隊本部毎に軍事郵便局を開設し、軍事郵便はがきを支給した。12月8日、日本軍の真珠湾攻撃によりアジア地区も戦争となり Pan Am Clipper Mails は停止した。以後西回りで送達された。日本軍は香港・比島攻略後 1942年1月11日蘭印に宣戦布告し Menado（セレベス）と Tarakan（ボルネオ）、2月10日 Makassar を占領、2月14日 Palembang に落下傘部隊降下し、3月1日ジャワ島に上陸し、9日蘭印軍は降伏した。

第1フレーム 戦争による送達不能・差出人戻し郵便

蘭印から①外国宛 ②蘭印国内宛 各種の送達不能郵便印が使用された。

第2フレーム 蘭印陸軍軍事郵便

部隊本部でコード化された A-R 丸タイプの消印と GECENSUREERD/ 数字 100~150 と CENSUUR/GEPASSEERD/A-D の検閲印が使用された。

第3フレーム 1941年11月から12月の航空郵便

①最終 Clipper Mails ② SINGAPORE で検閲済み郵便 ③ SINGAPORE パイパス便 ④ SINGAPORE 再着陸便

第4フレーム 1942年1月の航空郵便

①最終 SINGAPORE 経由便 ② CAIRO での検閲 ③ JERUSALEM での検閲

第5フレーム 1942年2月の航空郵便

① CAIRO での検閲 ② JERUSALEM での検閲 ③ KLILM 便と QANTAS 便で TJILATJAP-BROOME-SYDNEY

### 出品者のスタディ KLM bag mark

1939年8月28日英国はドイツとの戦争が避けられないとし、自国出入りと中継する郵便の検閲を開始した。各植民地も同様に実施したので、蘭印からの手紙は SINGAPORE で検閲された。

1940年1月から KLM・KNILM 便の一部の郵便物に数字①～⑤⑩、3月から英文字○A～○L との組合せで、検閲後正しく元の郵便袋に戻す作業マークを押した。同じルートを運航していた BOAC 便では採用しなかった。このマークを検閲印との記事もあるが、この作品では KLM bag mark として展開した。

## オランダ領東インド

### 1941年11月～1942年2月の郵便

1. 主題 Singapore 1941年11月30日発 Pacific Clipper Mails 最終便から3月1日日本軍がジャワに上陸したまでのオランダ領東インド（現在のIndonesia 共和国以後蘭印と略す）の郵便史です。
2. 背景 1941年12月2日蘭印政府は日本との戦争に備え総動員令を出し、陸軍部隊本部毎に軍事郵便局を開設し、軍事郵便はがきを支給した。12月8日、日本軍の真珠湾攻撃によりアジア地区も戦争となり、Clipper Mails は停止した。日本軍は香港・比島攻略後 1942年1月11日蘭印に宣戦布告し Menado（セレベス）と Tarakan（ボルネオ）、2月10日 Makassar を占領、2月14日 Palembang に落下傘部隊降下し、3月1日ジャワ島に上陸、9日蘭印軍は降伏した。
3. 構成
  - 第1フレーム 戦争による送達不能・差出人戻し郵便  
①外国宛 ②蘭印国内宛 送達不能郵便印が使用された。
  - 第2フレーム 蘭印陸軍軍事郵便  
部隊本部でコード化された A~R 丸タイプの消印と GECENSUREERD/数字 100~150 と CENSUUR/GEPASSEERD/A~D の検閲印が使用された。
  - 第3フレーム 1941年11月から12月の航空郵便  
①最終 Clipper Mails ②SINGAPORE で検閲済み郵便  
③SINGAPORE バイパス便 ④SINGAPORE 再着陸便
  - 第4フレーム 1942年1月の航空郵便  
①最終 SINGAPORE 経由便 ②CAIRO での検閲  
③JERUSALEM での検閲
  - 第5フレーム 1942年2月の航空郵便  
①CAIRO での検閲 ②JERUSALEM での検閲  
③KLILM 便と QANTAS 便で TJILATJAP-BROOME-SYDNEY
4. 注目のマテリアル
  - 14 ページ MEDAN 使用の送達不能印
  - 32 ページ 軍事郵便局「R」と日本占領期 PONTIANAK 蘭印軍検閲印使用はがき
  - 46 ページ SINGAPORE 再着陸郵便
  - 73 ページ KLINM 便による蘭印最終外国郵便
5. 出品者のスタディ KLM bag mark  
1940年1月から Singapore 検閲部署で蘭印からの KLM・KNILM 便の一部の郵便物に数字 ①~⑤、3月から英文字㊦~㊱との組合せで、検閲後正しく元の郵便袋に戻す作業マークを押しした。同じルートを運航していた BOAC 便には採用しなかった。このマークを検閲印との記載もあるが、この作品では KLM bag mark として展開した。
6. 文献
  - ・ POSTSTMPLS NHRLANDS=INDIE 1864-1950 by P.R.BULTERMAN 1981 THE NETHERLANDS
  - ・ CIVIL AND MILITARY CENSORSHIP DURING WORLD WAR II by Dr.H.F.Stich1993 CANADA
  - ・ BRIDGING THE CONTINENTS IN WARTIME by HANSE AITINK 2005 THR NETHERLAND
  - ・ MAIL OPERATIONS DURING WORLD WAR II by THOMAS H. BOYLE, Jr 1998 U.S.A.

D.E.I Feb.1942

Bandung accepted airmail on February 28



BANDOENG 28.2.42 ( Feb.28.1942)

This sender put 210cent(to the US) instead of 75cent to Turkey.

The letter passed censorship at Batavia.

"CENSUR GEPASSED 1", "Ec. C" and "DEV.14" were applied.

However, Shipping to Turkey was not possible.

Japanese military government began on March 7. But the postal service was run by Dutch and Indonesian. This airmail was returned to sender in Bandung on April 20.

This is the only one that proves that Bandung accepted the airmail on February 28th and continued censorship work in Batavia.

80

## 出品者プロフィール



*Mr. MASUYAMA Saburo*

### 増山 三郎 氏

1942年生まれ JPS 南方占領地研究会世話人 郵趣振興協会 賛助会員

中学3年の時、インドネシアからたくさんの手紙がきた友達の依頼で、返事を出した一人が、大の日本ファンで、お互いの新切手を貼った手紙のやりとりをして、インドネシアの切手を集めた。

地元 JPS 沼津支部が結成され、毎回の例会で先輩達から刺激を受け、蘭印や日本占領期にも挑戦した。また、切手趣味社(目白)で行われていた「南方切手研究会」の青木氏からお誘いが有り、喜び勇んで例会に参加したが、あまりにもレベルが高く、会報を頂くのみの会員でした。

英語はダメですが、切手欲しさに、インドネシア、オランダ、イギリス、アメリカの郵趣会に入り、多くの友を得た。特にオランダ航空郵趣会の元会長に郵便史の面白さを教えていただき「1939年から1942年の蘭印検閲郵便」にのめり込んだ。

日本占領期は皆さんが集めていないジャワに集中し、Indonesia2024 国際展で金賞をいただき完了とし、以後このテーマを楽しみます。

# スタンペックスジャパン2026

## Postal History of Chinese Imperial Post 1897-1912

# 中国国家郵政郵便史 1897-1912

作品番号 No. 12

郵便史部門 (5 フレーム)

出品者：藤本 博嗣

本作品は、1897年から1912年までの中国における近代郵便制度の拡大について国家郵政を中心として郵便史でまとめたものです。

この作品が範囲とする時期の中国では、清朝が運営する「駅通」と「文報局」、民間が運営する「民信局（民局）」、中国に進出したヨーロッパ列強や日本が運営した「外国局（客郵）」、上海の租界で工商局が運営した「書信館郵便（上海ローカルポスト）」、外国人が支配する海関が運営した「海関郵政」と多くの郵便組織が乱立していました。この中で、海関郵政が発展する形で「国家郵政」が成立し、ほかの郵便組織と協調、対立しながら、近代郵便制度を中国全土に広げていきました。この作品は、このような歴史のダイナミックな動きをカバーで表現したいと思いまとめてみました。

構成をこれまでと一部変更し、第1章を外国との郵便、第2章を国内郵便の発展とモンゴル、チベットなどの周辺部への郵便の発展とし、辛亥革命以後の1年（1912年）についてはエピローグとして4リーフにページ数を減らしました。また、国家郵政のライバルたる客郵（外国郵便局）については、これまでの第1フレーム冒頭から第1章の最後にし、第1フレームにコンビネーションカバーを展示しました。

構成以外に JAKALTA2024 (JAPEX2024) 出品からの主な変更点は以下の通りです。

1. 前回から IPO 割印のカバーが4点増えました。展示が第1フレームの3段目と4段目ですから見にくいですが、① 冬季の国内郵便料金を支払った北京 IPO 割印のカバーで使用例の最終期のカバー、② 上海 IPO 割印の早期使用カバーでオークションなどから調査した中では最も早い使用例、③ 鎮江 IPO で現存15通の中の印刷物2通のうちの1通のカバー、④ 漢口 IPO 割印のカバーでは受取人の来歴を調査し書き込みを行うなど、展示にバラエティーをつけるように心がけました。なお、IPO 割印が用いられているマテリアルの数を今回調査しました。2021年12月15日に実施された Kelleher & Rogers オークション冊子 (IPO 割印のみのオークション) のデータをもとに、Kelleher & Rogers、スピंक中国、ジョンブル、AVA、ジャパンスタンプ商会、日本フィラテリックセンターの各オークションのデータ、及び水原明窓『華郵集錦』、巖平西『漢英半切円形日戳』のデータを調査し、現時点で565通存在することを確認しました（詳しくは『フィラテリスト』に投稿予定）。（第1フレーム）
2. 郵便協定以後のカバーについて、数通増やしました。また、上海ローカルポストの活動について1リーフ展示し、それについての書き込みを行いました。（第2フレーム）
3. 鉄道印使用例でカナダ宛のものを1通入手し展示しました。これで、外国郵便、国内郵便共に鉄道郵便を展示するとともに、鉄郵印2種類を展示していることになります。（第3フレーム）
4. 外国局については、イギリス局のカバーを1通新たに入手したものに代えました。日本局で威海衛保証占領期の葉書と中国宛の菊封緘を展示しました。菊封緘については、差出人の来歴を調べて書き込みをしています。また、新たにアメリカ局が増えています。

## Postal History of Chinese Imperial Post 1897–1912

### Purpose of the Exhibit

This exhibition is a postal history work that divides the process of the expansion of the modern postal system throughout China by the Chinese Imperial Post (C.I.P), which was established in 1897, into two parts: the development of foreign mail, the development of domestic mail and its expansion to surrounding areas.

### Plan and Remarkable Items

This exhibition begins with a page presenting the final examples of the “Postage Paid” stamp used by C.I.P. prior to the issue of postage stamps (p.2). Next, we will display Chapter 1 and Chapter 2, and finally, we will display the postal service after the Xinhai Revolution as an epilogue. In each chapter, we will also briefly explain foreign post offices and private postal services that competed with C.I.P.

#### Part 1 Development of Oversea mail

- 1.1 **Adhesive Combination [p.3-10]:** Since China could not join the UPU, mail was offered to foreign countries via foreign post offices. For this reason, combination covers with both Chinese and foreign stamps exist. Here, combination covers with French, British, Japanese, and German stamps are exhibited. Among them, *for the Japanese post office, covers with chrysanthemum-free stamps* are exhibited. (p.6)
- 1.2 **I. P. O Tie-Print [p.11-16]:** From 1898 to 1906, the “I.P.O.” Thai-print postmark appeared on foreign stamps. This exhibit displays the “I.P.O.” Thai-print on British and Japanese stamps, showing examples of *the winter domestic postage surcharge and the previous month's postage* (p.11), *the earliest known instance of its use in Shanghai*, and *one of the three extant Chinking “I.P.O.” Thai-print using QV stamps and one of the two printed matters* (p.12).
- 1.3 **Postal services during the Boxer Rebellion [p.17-20]** will display a cover with “B. R.A.” and new value surch attached (P.17). And then, two covers of Japanese soldiers occupying Tientsin are also on display (p.19).
- 1.4 **Concluding of Postal Agreement [p.21-40]:** A postal agreement signed by C.I.P, led by France in 1902, abolished the affixing of foreign stamps, but the differentiating through foreign post offices remained. Here, postcards sent from a Japanese battleship docked at Wei-hai-wei in 1902 will be exhibited (p.22), the Russian Post exhibits military mail on the East China Railway (p.24), *railway post between Peking and Tungku* (p.33), *early use of postal resumption via Siberia that had been interrupted by the Russo-Japanese War* (p.34), special postage rates for covers addressed to Japan (p.37) and covers addressed to and from German leased lands (p.39), and *first-day covers on the first year of the reign of the emperor Hsuan Tung* (P.38) will be exhibited.
- 1.5 **Activities within China of Foreign Post Offices [p. 41-48]:** The modern postal system was first introduced to China by foreign post offices. It operated in parallel during the activities of C.I.P. Here, post offices in British, France, Japan, Russia, Germany and U.S.A are exhibited.

#### Part 2 Development of domestic mail and its expansion to surrounding areas

- 2.1 **C. I. P Competitors [p.49-50]:** The covers of Native Posting Agencies (Min-Hsin-Chu) and Document Mail Office (Wen-Pao-Chu) are exhibited here. These two organizations were postal domestic rivals of C.I.P.
  - 2.2 **Start of domestic postal service (1897 - 1902) [p.51-53]** will first display covers with *small figures surcharge cancelled by Customs double-ring c.d.s.* (p.51). Then, covers with variant customs double-ring c.d.s, Dollar Deter City Drop, PA-KUA, and bilingual datelined c.d.s. covers will be exhibited.
  - 2.3 **Postage rate reduction and expansion of C. I. P (1902 – 1904) [p.54-58]:** With the expansion of the postal network, C.I.P. lowered domestic letter rates to win the battle against Native Posting Agencies. First, *an example of the initial use of this postage rate reduction* (p.54), will be exhibited. And then *one of two covers from Robert Hart to Bredon that used Bilingual type c.d.s. and Shanghai LP c.d.s.* (p.55), *Foochow and Changsha Bisected Provisional* (p.56) will be exhibited.
  - 2.4 **Postage rate increases and launches of various services (1904 – 1911) [p.59-72]:** During this period, various means of delivery and transportation emerge. Examples of these are exhibited here: *Cover of railroad mail* (p.61), express postage stamps, *the Yangtze River steamer letter box* (p.65), and registered mail will be exhibited. By this time, C.I.P. had expanded its post offices throughout China, including the frontier. The report of Lanzhou Bureau of income and expenditure (p.71), and on postal service matter in Yunnan are exhibited here as examples of this (p.72).
  - 2.5 **Expansion of the postal system to the frontier [p.73-76]:** In the 1910s, the C.I.P. expanded into the frontier. *The cover of the second flight from Mongolia* (p. 74) is shown here, but one stamp is detached. Also shown is a *cover from Lhasa to Yatung, Tibet* (p. 76).
- Epilogue [p77-80]:** First, we will display *covers delivered from areas controlled by the revolutionary army through areas controlled by the Qing Dynasty* (p.77). Next, we will display examples of coil dragon stamps and overprinted stamps, and finally, we will display postcards with the first commemorative stamps of the Republic of China. (p.80).

### References

①Meiso Mizuhara, "HUAYOU JIJIN Second Series vol.VII" (Japan philatelic society 1992) ②Meiso Mizuhara "China Stamp Thesis Selection: Old China" (Japan philatelic society 1998) ③Sun Jun yi, "Postmarks of the Qing Dynasty" (China Philatelic Publishing House 1984) ④Mori, Katsuhiko, "The Historical Geography of China's Post Offices" (Chinese Bookstore 2012)

Part 1 Development of Overseas Mail

1.2 I.P.O. Tie-Print

1.2 "I.P.O." Tie-Print

In 1899, major post offices of the C.I.P. began affixing foreign stamps issued by their own countries alongside Chinese stamps on mail destined for overseas, to certify the reliable delivery of mail from their own countries. At that time, foreign stamps bore the "I.P.O." (Imperial Post Office) Tie-print. Currently, 42 types of "I.P.O." Tie-prints exist across 29 post offices. According to research by the "I.P.O. team" of the Chinese Postal History Society, comprising Dr. Stephen Gates, Mick Goldsmith, and others, according to my research, 565 covers are confirmed to exist. The earliest recorded use dates back to Dec. 1898, and the latest to Jan. 1906.

Japanese Adhesive "I.P.O." Tie-Print

Example of winter domestic postage surcharge and last month

14 Cents Rate, Cover from Peking to Quenemo / Kansas, USA



**I.P.O.**

Peking I.P.O tie-print

Used Record Mar, 1899 to Jan, 1900 30 covers Known

This cover is an **example of use during the final period** of Peking I.P.O tie-print.

Peking, Dec. 15, 1899, bearing 1898 I.C.P Issue 10 and 4Cent cancelled Bilingual type c.d.s and U-Koban 5 Sen pair tied "IPO" handstamp

→ Shanghai, 23rd → I.J.P.O Shanghai, 23rd → Yokohama, 30th → San Francisco, Jan. 15  
→ Quenemo, Kansas, 19th

Surface Mail Rate to UPU member countries 10 Cents per 1/2 oz. period: Feb. 2, 1897 to Sep. 30, 1907

In addition, from Feb. 1897 to 1902, only during the period when the canal was frozen over in winter, overland flights via Tientsin and Chinkiang were subject to domestic charges. For this cover, the weight flights ranged from 1/4 ounce to 1/2 ounce. Among the I.P.O tie-print covers bearing this fee, there are 3 covers

For research on I.P.O. tie-print covers, the following sources were consulted: the Kelleher & Rogers auction catalog dated Dec. 15, 2021; auction catalogs from Spink China, John Bull, AVA, Japan Stamp and Japan Philatelic center, and Mizuhara Meiso's "HUAYOU JIJIN"



In the figure on the right, the blue line is the summer route and the red line is the winter route.

# 出品者プロフィール



*Mr. FUJIMOTO Hirotsugu*

## 藤本 博嗣 氏

1960年生まれ。中学校教師。郵趣振興協会 賛助会員

10代より中国切手の収集をはじめ、日本郵趣協会大阪中国切手例会に参加していました。

そして、20代から JAPEX に出品をしていました。40代に病を患い収集を20年近く中断、数年前に寛解したので収集を再開しました。ここ数年は、スタンペックスジャパン、JAPEX や国際展にも出品し、本作品の向上に努めています。

現在、中国国家郵政時期の郵便史と新中国普通切手を専門的に収集しています。

国内展受賞歴（2020年以前は割愛）

JAPEX2020「大清国家郵政郵便史 1897 - 1912」L S (73)

STAMPEX JAPAN2021「大清国家郵政郵便史 1897 - 1912」V (76)

JAPEX2021「中国国家郵政郵便史 1897 - 1912」L V (82)

STAMPEX JAPAN2022「中国郵便史 1897 - 1912」L V (80)

STAMPEX JAPAN2024「中国国家郵政郵便史 1897 - 1912」L V (83)

JAPEX2024「中国国家郵政郵便史 1897 - 1912」L V + Sp (84)

国際展受賞歴

PHILA NIPPON2021「Postal History of CHINESE IMPERIAL POST」V (80)

JAKARTA2024「Postal History of Chinese Imperial Post」LV (88)

# スタンペックスジャパン2026

*Commemorative Postal Stationery of Japan 1936-1969*

## 日本の記念特殊ステーショナリー 1936-1969

作品番号 No. 13

ポスタル・ステーショナリー部門 (8 フレーム)

出品者：須谷 伸宏

日本の郵政は、これまで額面付きの記念特殊ステーショナリーを 57 種類発行した。

- ・官製葉書 (国内用) (Postal Card) …… 48 種類
- ・外信用葉書 (International Postal Card) …… 3 種類
- ・航空書簡 (Aerogramme) …… 6 種類

1 回目は 1936(昭和 11) 年発行の『帝国議会議事堂竣工』、最後は 1993(平成 5) 年発行の『皇太子御成婚』である。今回の展示では、全 57 種類のうち最初の『帝国議会議事堂竣工 (1936(昭和 11) 年)』から、『第 24 回国体・夏期 (1969(昭和 44) 年)』までを年代順に並べた。この時期は、製造面でさまざまなバラエティを見つけることができる。本作品では、どのステーショナリーも製造面と使用面で構成されている。一般的に日本では、印刷局による厳格な管理のため、オリジナルアートワーク、エッセイ、プルーフなどのアーカイブ資料は、デザイナーからの「例外的な流出」を除いて、ほとんど郵政博物館が所有しているため、収集が非常に困難である。しかし、本作品では製造面ではそのようなアーカイブ資料を含めて、みほん、シェード、紙質、変種、エラーなどを展示した。使用面では、加貼使用例を多く採り入れて、速達使用、年賀使用、外信使用などを展示した。更に外地 (朝鮮、中国、台湾、満州、南洋群島、サハリン) から 1945(昭和 20) 年以前に内地へ送られてきた使用例も展示した。

プランとしては

- 第 1 章：発行～第二次世界大戦終了まで (4 種類：1936-1943) … Page 2 - 48
  - 第 2 章：第二次世界大戦後の混乱期～復興まで (6 種類：1946-1952) … Page 49 -80
  - 第 3 章：記念特殊ステーショナリーの発行数増大 (14 種類：1958-1962) …Page 81 -112
  - 第 4 章：記念特殊ステーショナリーの空白期 (1 種類：1964) …Page 113 -116
  - 第 5 章：記念特殊ステーショナリーの発行復活 (6 種類：1968～1969) …Page 117 -128
- 第 5 章では、実際は 1993 年まで発行され続けたが、本作品では 1969 年までとした。

見所としては

- ・アーカイブ各種 (「帝国議会議事堂竣工」の原画参考写真 (通信博物館エンボス押捺) とフォトエッセイ、「愛国募金」のダイプルーフ・エッセイ及びプルーフ、「母の日・子供の日 (1958 年)」の不採用デザインを展示した。
- ・製造面のエラーでは、「大東亜戦争 2 周年」の 裁断ずれ や「日本国憲法公布」の表面印刷もれなどを展示した。
- ・使用面では、「愛国募金」の 外地 (南洋群島のアンガウル島) からイタリア宛の外信使用、「大東亜戦争 2 周年」のシンガポール (昭南島) 宛使用など魅力的な使用例を多く展示した。

## Commemorative Postal Stationery of Japan 1936-1969

### ◆ Purpose and Scope of the Exhibit

Japan Post has issued a total of 57 different items of commemorative postal stationery with imprinted denomination:

- ・ Postal cards (for domestic use): 48 issues
- ・ International postal cards: 3 issues
- ・ Aerogrammes: 6 issues

The first is "Imperial Diet Assembly Hall Completion," issued in 1936, and the last is "Marriage of the Crown Prince," issued in 1993.

In this exhibit, 31 early commemorative postal cards, from "Imperial Diet Assembly Hall Completion" (1936) to "24th National Athletic Meet – Summer" (1969), are shown in chronological order. This period offers many interesting manufacturing varieties and a wide range of postal usages.

Each item of postal stationery is presented from two angles: its manufacturing features and its postal usage. In Japan, because of the strict control exercised by the Printing Bureau, archival materials such as original artworks, essays and proofs are extremely difficult to obtain: with the exception of "exceptional outflows" from designers' personal archives, almost all such materials are held by the Postal Museum. In this exhibit, however, the exhibitor has succeeded in showing a range of these rare archival materials, together with specimens, shade and paper varieties, and printing errors.

On the usage side, many updated usages are included, together with express delivery, New Year greetings and foreign mail. In addition, the exhibit shows mail sent before 1945 from Japan's overseas territories (Korea, China, Taiwan, Manchuria, the South Sea Islands and Sakhalin) to the Japanese home islands.

### ◆ Plan

Chapter 1: From the first issue to the end of World War II(4 issues, 1936–1943)	pages 2–48
Chapter 2: From the post-war chaos to recovery(6 issues, 1946–1952)	pages 49–80
Chapter 3: Rapid increase in commemorative postal stationery(14 issues, 1958–1962)	pages 81–112
Chapter 4: "Blank" period in commemorative postal stationery(1 issue, 1964)	pages 113–116
Chapter 5: Revival of commemorative postal stationery(6 issues, 1968–1969)	pages 117–128

Note: In reality, commemorative postal stationery continued to be issued until 1993, but this exhibit is limited to items issued up to 1969.

### ◆ Important items

#### 1. Archival materials

- ・ "Imperial Diet Assembly Hall Completion" (1936):Photo of the original artwork (with embossed mark of the Museum of Communications) (page 2) – [only one example known](#)
- ・ "Imperial Diet Assembly Hall Completion" (1936):Photo essay (page 3) – [only one example known](#)
- ・ "Patriotic Fund-raising" (1937):Die proof essay and proof (pages 9–10) – [only one example known](#)
- ・ "Mother's Day and Children's Day" (1958):Unadopted design drawing from the designer's archive (pages 81–83) – [only example known](#)

#### 2. Manufacturing errors

- ・ "2nd Anniversary of Greater East Asia War" (1943): Miscut card (page 40) – [only one example known](#)
- ・ "Promulgation of the Constitution of Japan" (1946):Front printing omitted (page 53) – [only one example known](#)

#### 3. Rare usages

- ・ "Imperial Diet Assembly Hall Completion" (1936):  
Updated usage for 2-sen and 3-sen (page 7) / Foreign sea mail (page 8)
- ・ "Patriotic Fund-raising" (1937):  
Foreign mail from Angaur Island in the South Sea Islands to Italy (page 23) – [only one example known](#)
- ・ "2nd Anniversary of Greater East Asia War" (1943): Usage to Singapore (Shōnan-tō) (page 46)
- ・ "Promulgation of the Constitution of Japan" (1946):Usage with an irregular comb-type postmark (page 57)

### ◆ Original Study

Original research on varieties of issues such as "Patriotic Fund-raising" (1937), "75th Anniversary of Postal Cards" (1948) and "Printing Culture Exhibition" (1952).By examining a large number of mint postal cards, many previously unrecorded varieties have been identified.

### ◆ Main References

1. Nobuhiro Sudani (exhibitor), "Introduction to Collecting and Exhibiting Commemorative Postal Cards of Japan," All Japan Philately, 2017 Special Issue, The Philatelic Federation of Japan, 2018.
2. Yasuharu AMANO, "Usage of Early Commemorative Postcards," Stampedia Philatelic Journal 2014, Stampedia Inc., 2014.
- 1 3. Japanese Stamp Specialized Catalogue, Visual Nissen – "Industry Designs / Flora and Fauna / National Treasures" volume, Japan Philatelic Society Foundation, 2023.

Chap.1

Patriotic Fund-raising

Issued: June 1, 1937

Number of copies issued: unknown

Size: 106×148mm

Type: Postal Card

Die Proof Essay

Only one example known



The actual postcard was issued in the form of a charge of 2 sen and a donation of 3 sen. However, when the designer considered the design, the postcard charge was still 1 sen 5 rin. Therefore, the face value is a charge of 1 sen 5 rin and a donation of 3 sen 5 rin. It is printed on cardboard and cut into the shape of a stamp.

## 出品者プロフィール



*Mr. SUDANI Nobuhiro*

### 須谷 伸宏 氏

1972(昭和47)年愛知県生まれ。大阪府寝屋川市在住。  
(特非) 郵趣振興協会 賛助会員、(公財) 日本郵趣協会 正会員、  
(一社) 全日本郵趣連合 正会員

1981(昭和56)年、父親が海外出張のときに、大量の外国切手を買ってきてくれて、お土産としてもらったことをきっかけに収集開始。収集歴45年。切手展の初入賞は高校2年生の時、JUNEX'89で「産業図案切手」を出品して、「銅賞」を受賞。本来は、一回でいいから切手展で入賞して切手展出品をやめようと思ったが、この頃「JPS名古屋支部」に入会して、リーフ作りについて、諸先輩から色々楽しさを教わり、結局、止めずに37年間何らかの切手展(非競争展、国内競争展、国際切手展)へ出品継続中。現在は、メインは産業図案切手で、サブでは、記念特殊ステーショナリー、初期の暑中見舞葉書、現代郵趣(新動植物国宝1980年シリーズ)、相撲、ラーメンに関する郵趣品、あとは波消し!などと色々収集しており、切手展でコレクションを披露している。

#### 主な切手展入賞歴

##### 国内競争展

JAPEX2024「日本の記念特殊ステーショナリー 1936-1969」 G

##### 国際展

DUBAI2026(FIP)「Commemorative Postal Stationery of Japan 1936-1969」 LV

NZ2023(FIAP) 「Japan Definitives Vocational Series」 LG

THAILAND2025(FIAP) 「Japan Definitives Vocational Series」 G

## スタンプボックスジャパン2026

### *Postal Stationery Under Japanese Naval Occupation Area* 海軍担当地区のポスタルステーションナリー

作品番号 No. 14

ポスタル・ステーションナリー部門 (8 フレーム)

出品者：守川 環

日本海軍占領地のステーションナリーは第二次世界大戦下の南方占領地のうち日本海軍によって統治されて軍政がひかれた地域です。インド洋に浮かぶアンダマン・ニコバル諸島のアンダマン島と旧オランダ領東インド、現在のインドネシアの島々がその管理下に置かれました。

数千の島々を統治した日本海軍は検閲の煩わしさから封書の使用を制限し、はがきの使用を推奨しました。また、消印は防諜上の理由からボルネオ島除き日付のない消印が使われました。

占領下という特殊な環境に加え敗戦によりその資料の多くは焼却され未解明の部分が非常に多い分野です。戦後 80 年を経てようやく少しずつ発行の背景がわかってきました。現存数が 10 枚以下というものも数多く、いまだに未使用が確認されていないものもあります。

本展示では種類ごとにおおむね発行順に展示を致しました。ここでしか見ることのできないマテリアル数々をご堪能ください。

## Postal Stationery under Japanese Naval Occupation Area

### Plan to Exhibit

This exhibit is a collection of traditional stationery under the Japanese Navy occupied territories.

Due to the vast size of the region, mail uses a unique method for each region, similar to stamps.

In this field of exhibitions, where the number of survivors is low, the work was composed including the usage side while adhering to the traditional technique based on unused.

#### 1. Archives P.2

The only proof of cherry blossoms and anchor postcards issued by the Ministry of Civil Affairs of Borneo in the Navy area.

#### 2. Andaman Nicobar Islands P.3-4

For counterintelligence reasons, it is the only Navy occupied area other than the former Dutch East Indies area. Similar to postage stamps were used, but no actual use cases have been confirmed.

#### 3. Topix P.5-7

This postal card features an anchor postmark from an early period, and there are less than 10 Flores postal cards in existence, both unused and used. It is especially rare among the cherry blossom & anchor postal cards, as it is printed in black.

#### 4. Stamped envelope P.8-16

There was only one version with the old Queen design, which sold for 10 cents. The use of postcards was encouraged in the naval district due to censorship, so these examples are all valuable.

#### 5. Letter sheets P.17-30

There was only one type with a farmer design, and it was sold for 7½ cents. There were two types, with and without violet print inside.

#### 6. Change of address card P.31-32

There are two types, a farmer and a dancer design, sold for 2 cents, and no examples of use have been confirmed.

#### 7. Postal card P.33-120

3½ cents era is classified into period overprint postal cards, military postal cards, provisional postal cards, Kusunoki postal cards, cherry blossom & anchor postal cards, Hinomaru postal cards, and regular postal cards.

4 cents era is classified into Hinomaru postal cards, cherry blossom & anchor postal cards.

#### 8. Foreign postal card

There were four types: farmer, old queen, new queen, and numeral design, and they were sold for 10 cents for foreign mail postcards and 12½ cents for air mail. Only one fragment has been confirmed as an example of its use.

### Bibliography

- J.R.Nieuwkerk The Postal History of the Lesser Sunda Islands, Moluccas and New Guinea during Japanese occupation and Immediate Aftermath 1942-1945  
 F.J.Nash The Philatelic History of Dutch West Borneo during the WW II era  
 P.R.Bulterman INDONESIA POSTAL STATIONERY Japanese occupation 1942-1945

### Remarkable Items

Archives Proof	P.2	Andaman Envelope/Postal card	P.3-4	Flores Island Provisional	P.5-6
Ambon Provisional postal card	P.7	Ambon Overprinted	P.44	Usage at New Guinea	P.45



## 出品者プロフィール



*Mr. MORIKAWA Tamaki*

### 守川 環 氏

昭和28年東京生まれ。会社社長。郵趣振興協会 監事・正会員

5歳の時から父の影響で切手収集を始める。中学生の時に南方切手と出会い、日本占領切手の収集を始める。高校時代には切手趣味社（目白）の南方切手部会に入会し、独自の南方切手カタログ製作に取り掛かる。

大学時代には、郵趣協会からの依頼で『新日本切手カタログ』が『日本切手専門カタログ』へ変更されることに伴い、その南方切手パートの製作を行う。その後のステーションナリーの掲載時も含めて、出品者の作成した独自のカタログ番号が、日専では採用され現在に至っている。

大学時代には、全日展のジュニア部門に海軍地区を出品し銅賞。その後多くの国内展に出品した。また、JAPEX1983では、南方占領地のステーションナリーを企画・特別展示し、記念出版も行った。

# スタンペックスジャパン2026

*A History of All Japan Stamp Exhibition*

## 全日本切手展史

作品番号 No. L1

郵趣文献部門（単行本）

出品者：小藤田 紘

郵趣などの分野における各種の記録の大切なことを思い、まずは活字にして記録に残したいという気持ちで刊行いたしました。

したがって、未熟の部分や記録したものを一冊にまとめる際の文章の補正に誤り、不手際がありましたら浅学非才の編集者の責任です。お許し戴きたいと思います。

永年「全日本切手展」と共に歩み楽しんできた者として、これからも、「全日本切手展」が継続されることを希望し、切手展に出品しました。生涯楽しめ、文化・知識も与えてくれる趣味に今後共 公益財団法人日本郵趣協会の会員として、切手収集を楽しみたいと思っております。

ご指導、ご協力をお願い申し上げます、郵趣・切手収集を楽しみましょう。



全日本切手展

# 全日本切手展史

第1回 昭和26年～第74回 令和6年

小藤田 紘 編

通信総合博物館



第1回 1951年



第74回 2024年



東京都立産業貿易センター台東館



オミダ産業会館





第16回 昭和41年(1966)



第17回 昭和42年(1967)



第18回 昭和43年(1968)

中央審査員室



中央審査会場



第17回 全日本切手展審査会風景  
(写真…第17回全日本切手展出品目録より)

全日展-6

## 出品者プロフィール



*Mr. KOFUJITA Hiroshi*

小藤田 紘 氏

1944年生まれ。北海道帯広市在住。郵趣振興協会 賛助会員

ある日、私の元に親戚のお兄さんから届いた一通の手紙。そこには「ビードロを吹く娘」の大型の切手が貼られていました。当時私は13歳。その美しさに心を奪われ、それから切手取集に夢中になりました。

1963年日本郵趣協会入会、JPS 帯広支部所属。ジャポニカの切手・昭和から令和連続日付印・記念時刻証明実郵便・面白切手消印・文献資料の収集、1992年より「郵趣記念日」発行。永年「全日本切手展」と共に歩み楽しんできました。

# スタンプスジャパン2026

## *Early Cancellations used in Miyagi Pref., 1872-1877*

### 宮城県内郵便局の初期消印(明治5年~明治10年)-鈴木紀男氏のコレクションから-

作品番号 No. L2

郵趣文献部門(単行本)

出品者:小関 幸生

本書は、石巻市渡波に在住している鈴木紀男氏の「宮城県に関わる郵便消印」コレクションを紹介する形で、仙台郵趣会会報『郵趣仙台』(隔月刊)の224号(2017年6月)から244号(2020年10月)まで連載した「不統一印」の記事、並びに245号(2020年12月)から253号(2022年4月)まで連載した「記号入り番号印(記番印)」の記事を編集したものです。

現在の青森県、岩手県、宮城県及び福島県は、江戸時代末時点では「陸奥国(むつのくに。600年代の半ばに律令制の下で国が置かれた際は、道奥国と表記され、平安時代までの呼称は、みちのおくくに、みちのくくに。)」に属していました。明治維新により、明治元年12月7日(旧暦)に「陸奥国」は、陸奥(りくおう)、陸中(りくちゅう)、陸前(りくぜん)、磐城(いわき)及び岩代(いわしろ)の5国に分割されました。

戊辰戦争後、62万石の仙台藩は一旦改易され、明治元年12月12日に、改めて仙台藩28万石として取立てられました。4年7月(旧暦)の廃藩置県前後には、仙台県、登米県、栗原県、胆沢県、角田県、平泉などの多数の県が成立し、分立していました。その後、同年11月(旧暦)、9年4月と二次に亘る府県統合によって県領域の分割・合併が起り、現在まで続く宮城県の領域が成立しました。「宮城県」の呼称は、「仙台県」を明治5年1月に「宮城郡」由来の呼称に改称したものです。

また、一部の「郡」では、それを所管する「県」がめまぐるしく変わったこともあり、初期の郵便印の地名表記もその痕跡を残すものが多く存在します。本書は、「郡」単位の章構成になっていますので、このあたりの事情は、それぞれの章で触れています。

一般には仙台藩=陸前国=宮城県というイメージが強いと思いますが、旧仙台藩領は、陸前国全域のほか、陸中国の南部(現在の岩手県に編入)、磐城国の北部(一部が現在の福島県に編入)に亘っていました。

宮城県は、最終的に陸前国の13郡と磐城国の3郡を管轄することになりましたので、鈴木氏の消印収集も、この16郡が対象となっています。本書の書名を『宮城県内郵便局の・・・』としましたが、そういう事情で記番印に関しては、岩手県の管轄となった気仙郡も含まれています。宮城県の不統一印及び記番印でこれだけの使用例が一堂に会したコレクションは、そう易々と作れるものではありません。宮城県の初期消印を、長年、精力的に収集してきた鈴木氏の成果に敬意を表します。

仙台郵趣会叢書 3

# 宮城県内郵便局の初期消印

(明治5年～明治10年)

— 鈴木紀男氏のコレクションから —



小関 幸生

《タカハシスタンプ商会『日本切手ノート(33)』からの引用》



25～6年前(1977～1978年頃)、『河北新報』に次のような記事が掲載された。

「東北で最古の郵便切手付封筒が東京で発見された。発見者は東京根岸にお住まいの酒井勇作さんと、龍切手百文が貼ってあり、『壬申(ミズノエサルと読み、明治5年のことである。)7月〇日出す。』と筆で書かれている。・・・」

鈴木さんは、直ぐ酒井さんに連絡をとり、「この封筒は地元であってこそ輝きます。是非、私にお譲り願いたい。」と交渉された結果、酒井さんの快諾を得て鈴木コレクションに収まる事になった。



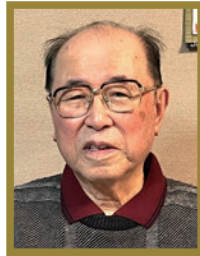
1994年(平成6年)5月「タカハシスタンプ オークション 332号」に、ある百文切手が出品された。[仙]の消印が押されているが、別段取り立ててどうこう言う切手ではなかった。最低値 75,000円で始まったこの切手は、専門型録評価の2倍近い24万という値段で、鈴木さんが落札された。会場には溜息が洩れたのは言うまでも無い。しかし、鈴木さんの心臓の鼓動は大太鼓の乱れ打ちだったらしい。それは、落札値段のせいではなく、この切手はきっとあの封筒から剥がれたものに違いないと確信していたからである。そして、合わせてみるとピタリとこの封筒に収まった。彼の目に狂いはなかったのである



上記オークションから約10年経過した2003年(平成15年)7月、「タカハシスタンプ オークション 442号」に同じような切手が出品された。あと一枚と目を皿のようにしていた鈴木さんが見逃す筈はない。今回は隣席に酒井さんも出席して、固唾を飲みながら競売の成り行きを見守っていた。鈴木さんは何がどうあっても落札して持ち帰る積もりで参加していた。ところが、他の人にとっては上記のこと等知らないで、単に龍百文2版の[仙]の切手だった為、呆気なく鈴木さんの落札となったのは、誠に持ってめでたい限りである。落札値は12万円であった。

この封筒に三枚の切手が揃う事は本当の奇跡であり、脱落一枚の切手が見付かる事はたまにあるが、脱落二枚が、しかも年月を経て再会するのは七夕様でも聞いた事はないだろう。これにより、この封筒の価値は驚くほど高価になったと言っても過言ではないだろう。

## 出品者プロフィール



*Mr. KOSEKI Sachio*

小関 幸生 氏

1934年（昭和9）宮城県生まれ  
ゼネラルコレクターとして収集歴78年

仙台郵趣会・仙台切手文化会 前会長

地元仙台の複数の郵趣会会報への消印、郵便史の発表多数

『昭和切手入門』（日本郵趣協会、郵趣新書31）を1968年（昭和43）  
に発行。

# スタンペックスジャパン2026

## *Koban Stamps and Their Times, Recent Information*

# 小判切手とその時代 最近の情報

作品番号 No. L3

郵趣文献部門（雑誌）

出品者：小判振舞処

小判振舞処は、故 長田伊玖雄氏が2001年のフィラ日本開催の折に、大盤振る舞いは無理だけど小判振舞いなら、と洒落で開設されたところから始まります。

長田氏は、小判切手の収集家として、国際展で金賞を獲得されるほどご活躍された傍ら、最初は私信の形でも情報発信をされました。

特に小判切手の製造面に力を入れられ、小判切手収集に定常変種概念を導入され、ペーパーチップ、ヘアライン、さらには同時期に凸版印刷された印紙にも目を向けられ、独自の world を展開されました。

長田氏が亡くなられて早くも3年が過ぎ、「最近の情報」の発行頻度は少々落ちておりますが、継続発行を維持しております。

2025年の成果の一つとして、平尾勉氏を中心として研究が進められている「大型ボタ印とその前夜」があります。当初はU小判の時代に限定していましたが、旧小判の時代まで拡大し、第2次大型ボタ印以降の使用局について、二重丸型印の変遷の調査に取り組んでいます。218号では、越中国富山局に注目し、特異なDKB3印も含めて、KG印からN3B3印まで、その流れがやっと見えてきました。ご協力を戴いた大勢の皆様にご感謝申し上げます。

また、作品集として、片山七三雄氏の「東京 N3B2 印と N3B3 印について」、梅原徹氏の「小判切手を貼った封筒上の事故印」の2点を掲載できました。スポット的な投稿よりも、全体の流れを持った作品集の方が与える印象も大きく、この分野の専門家の解説も得難く、理解もしやすいと思います。

さらに、立山一郎氏が作成された外国郵便航路の SHIPPING リストのおかげで、より身近な存在となった外国郵便です。毎号、外郵印のデータ更新から、使用年代の推定含め投稿をして下さる方が増えているのは非常に良い傾向だと思えます。専門家の方のご意見を伺いながら進めて参ります。

小判切手とその時代  
最近の情報(217)  
2025.3.20 発行  
年4～6 回発行、小判振舞会会報

「旧小判9枚上裏付 左下「V」のワッパ欠け」  
従来のリソストラクションにより46番切手の定常変種と判定されていたが、これとは異なるセンディングの存在を示した例 (KK:長谷川行)



「見わけられますかこのカペー」  
飯塚博正氏記事 参照

目次

No.	項目	氏名	頁
1	表紙、目次	事務局	1
2	北海道の地名のスタンプ	近藤 幸	2
3	小判最末期 12 の丸一様号空欄郵便	岩藤 守雄	4
4	鞍馬へのこだわり (12)	梅原 謙	6
4	「12」最末期郵便の「V」見立使用例	城野 隆三	8
5	あるカペーの使用年代推定	飯塚 博正	14
6	見わけられますかこのカペー	飯塚 博正	14
7	小判切手上の不統一印 (2)	水口 公秀	17
8	蔵所より出状された別居印様	城野 隆三	23
9	遺尾地裁の遺書	水口 公秀	27
10	最近、思ったより感じたこと -11-	長谷川 純	29
11	スタンペックスジャパン2025	事務局	31
12	編集後記	事務局	32

小判切手とその時代  
最近の情報(218)  
2025.6.8 発行  
年4～6 回発行、小判振舞会会報

「旧小判10枚 中期白紙 Pos.A「B」字の右下にインキ塗まり (一見偽変変種)に見えて複数枚が確認されている定常変種」



「越中国富山局の二重丸型目付印」  
平尾 勉、事務局記事 参照

目次

No.	項目	氏名	頁
1	表紙、目次	事務局	1
2	越中国富山局の二重丸型目付印	平尾 勉、事務局	2
3	蔵記入手の外装カペーより	城野 隆三	11
4	半世紀前のユキヤ行	梅原 謙	14
5	初気印の書体と偽造途中	水口 公秀	16
6	旧小判8号紙カペーの点	城野 隆三	18
7	小判切手上の不統一印 (2)	水口 公秀	21
8	最近、思ったより感じたこと -12-	長谷川 純	27
9	スタンペックスジャパン2025	事務局	31
10	編集後記	事務局	32

小判切手とその時代  
最近の情報(219)  
2025.10.10 発行  
年4～6 回発行、小判振舞会会報

「旧小判20枚 後期普通紙 Pos.B「B」字の左下欠け (定常変種:日本未記載)」



旧小判4枚ホスバル紙の裏書き  
「小判切手の裏書き」P.11 城野氏、事務局記事 参照

目次

No.	項目	氏名	頁
1	表紙、目次	事務局	1
2	ペイル兄弟と旧小判6枚切手	田原 祐司	2
3	羽田園から越中・富山局への外装カペー	資料提供: 近藤 幸	8
4	「12」号紙 城野氏入手の外装カペー」の 使用年代推定	資料提供: 飯塚博正	10
5	小判切手の裏書き	資料提供: 城野隆三、飯塚博正	11
6	小判切手上の不統一印 (1) ~ (3) 追補	資料提供: 近藤 幸、飯塚博正	12
7	東京 NBB2 印と NBB3 印について	片山 七三雄	14
8	旧小判12枚「右下気路の下静線印」定常変種の4枚目が半額に整地	城野 隆三	27
9	最近、思ったより感じたこと -13-	長谷川 純	29
10	編集後記	事務局	32

小判切手とその時代  
最近の情報(220)  
2025.12.31 発行  
年4～6 回発行、小判振舞会会報

「旧小判8枚 中期白紙 Pos.B「B」字上と静線印」(定常変種:日本70ppc)」



ウッドワード提出の遺状  
右上の本人書き  
「ウッドワード提出の遺状」P.2 山田氏記事 参照

目次

No.	項目	氏名	頁
1	表紙、目次	事務局	1
2	ウッドワード提出の遺状	山田 謙一	2
3	鞍馬へのこだわり (13)	梅原 謙	4
4	東京と支店の丸一様番号入り印	城野 隆三	6
4	横浜3枚Aロバ行のデータ更新	事務局	6
5	「12」号紙 城野氏入手の外装カペー」の 使用年代推定の2	近藤 幸、飯塚博正	8
6	旧小判切手の使用禁止後の使用例	城野 隆三	9
7	JAPEX2018 作品展 「小判切手を越った封筒上の裏紙印」	梅原 謙	11
8	最近、思ったより感じたこと -14-	長谷川 純	27
9	JAPEX2025 の記録、新刊紹介!	事務局	31
10	編集後記	事務局	32

## 越中国富山局の二重丸型日付印

平尾 勉（文：事務局）

最近の情報 211 号別冊に「大型拇太印とその前夜」として、第 2 次～第 8 次大型ボタ印使用局の最古及び最新使用、それ以前の KG、KB1、KB2、N3B3 印の使用状況をまとめました。ただ、U 小判切手を主体としていたため、16 年以前の初期・後期データは十分ではありませんでした。今回、DKB3 印という特異な形式をもつ富山局について、その前後の二重丸型印の変遷と、大型ボタ印の証示印の詳細についてまとめてみます。

### (1) 二重丸型印の概要

富山局の二重丸型日付印は、単独抹消使用として KG 印に始まり、KB1、DKB3、N3B3 印の 4 種、さらに大型ボタ印の証示印として、dN3B1 印と N3B3 印（局名表示で、「富」字に「ワ冠」と「ウ冠」が存在）の 2 種があり、計 7 タイプが存在します。表 1 に、今回調査した最古・最新データの結果一覧を示します。

表 1. 富山局の二重丸型日付印の変遷

	タイプ分類	最古	最新
1	◎KG	9.05.30	15.12.27
		空白データ<100日>	
2	◎KB1	16.04.07.午前	16.09.22.午前
		空白データ<9日>	
3	◎DKB3	16.10.02.イ	16.12.19.ロ
		空白データ<40日>	
4	◎N3B3	17.01.29.—*1	17.12.31.?
		空白データ<1日>	
5	大型ボタ+◎dN3B1	18.01.02.午前	18.01.04.午後*2
6	大型ボタ+◎N3B3（ワ冠）	18.01.06.ニ*3	18.10.12.ニ
		空白データ<41日>	
7	大型ボタ+◎N3B3（ウ冠）	18.11.22.ハ	21.08.29.ニ

※1,2,3 現物未確認（「二重丸型日付印精集」<sup>3)</sup>に記載あり）

今回のデータをまとめるにあたり、越中国全般に詳しい高岡の橘清文氏、ボタ印のスペシャリストである大西枚宣氏、二重丸型印全般に詳しい村岡博氏、今回の企画の発案者である平尾勉氏、さらに設楽光弘氏、山田廉一氏の御協力を仰ぎ、各種文献も参考にいたしました。

## 出品者プロフィール



### *KOBAN FURUMAI-DOKORO*

## 小判振舞処

定期購読のご案内

小判振舞処の発行する本雑誌は、令和8年1月現在、年会費2,500円で、郵送によりお届けします。

新規購読をご希望の方は、以下の発行所にご連絡・ご送金ください。

発行所 〒558-0011 大阪市住吉区苅田9丁目12番1-201号

小判振舞処 事務局 水口 公秀

E-mail: mina-2441@nifty.com

なお、年会費の振込先は以下の通りです。

ゆうちょ銀行 14110-74913591 ミナクチ キミヒデ

りそな銀行 我孫子支店 (131) 普通 0410183 ミナクチ キミヒデ

# スタンプスジャパン2026

*Specialized Catalogue of Korean Stamps*

## 韓国切手専門カタログ

作品番号 No. L4

郵趣文献部門（単行本）

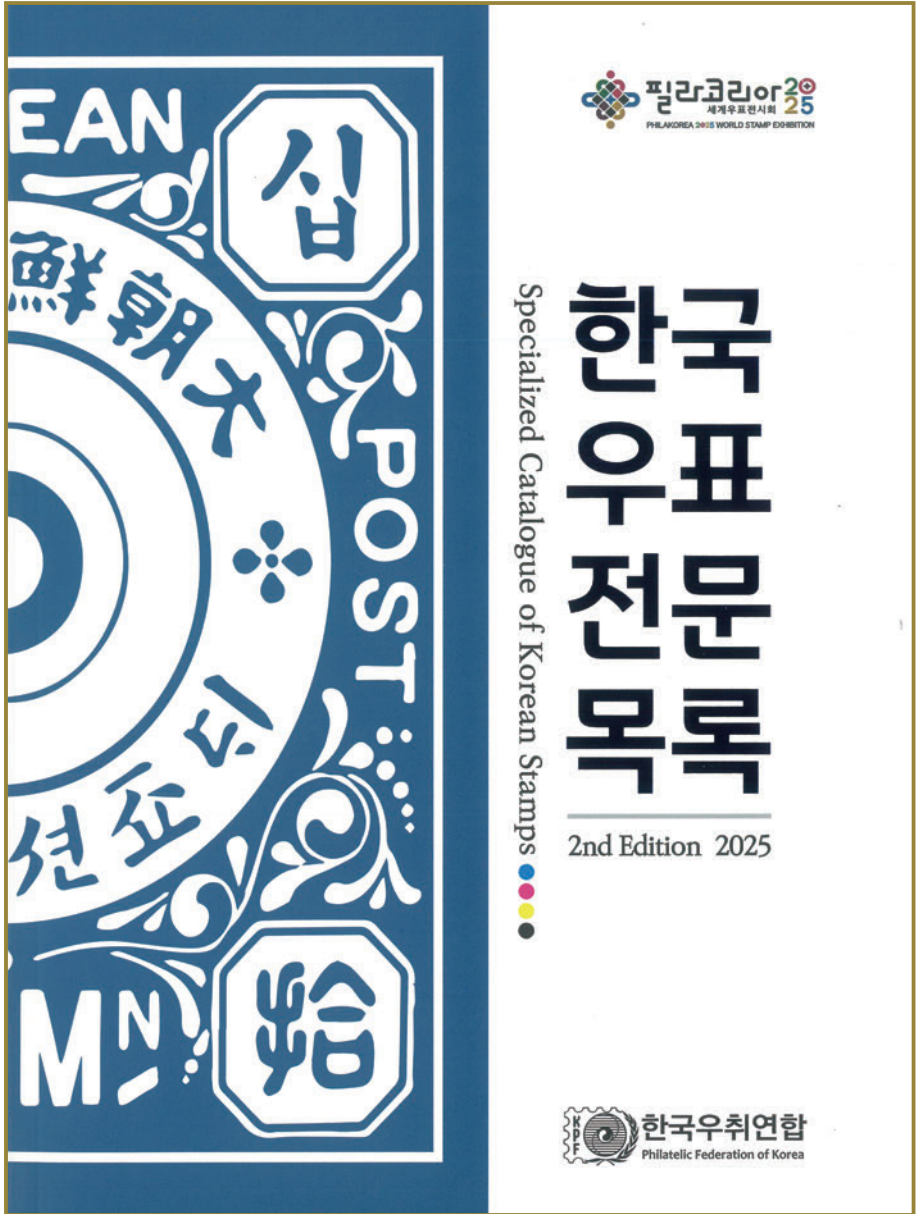
出品者：韓国郵趣連合

韓国切手専門カタログ（Specialized Catalogue of Korean Stamps）は、大韓民国における国際郵趣連盟（F.I.P.）加盟団体である韓国郵趣連合が、韓国郵政 140 周年を記念して、2023 年に発行した、韓国切手の専門カタログです。

翌 2025 年 7 月には、内容をさらに強化した第 2 版（2nd Edition）を発行しました。定価は 4 万ウォン（邦貨約 4,000 円）で、許埴氏が編集長を務めました。

同年 9 月に開催された世界切手展 Philakorea 2025 に出品し展示を行ったところ、Large Vermeil, 87 pts. というご評価をいただきました。

韓国郵趣連合では、今後も本カタログの発行を通じて、国内はもとより世界に向けて韓国切手の魅力を発信してまいりたいと考えております。



한국우표전목록

2. 최초의 고정용 인쇄본이 전달된 이후 독수리 도안의 이미지를 일부 수정하고, 태극문양의 양식을 변경함과 아울러 '국(國)'자의 문자형태를 수정함.
  3. 발주한 지 3년이 지난 1903년(광무 9년) 1월에 인쇄된 우표가 1회 10상자씩 상해를 경유, 총 96상자가 인천항에 도착되어 세관의 면세조치 등을 거쳐 입고됨.
  4. 독수리 보통우표는 1905년(광무 9년) 5월에 전량이 도착하였으며 총 인쇄비용은 당시 금화 7,287원 94전, 즉 프랑스 화페로 18,687프랑 2쌍팀이 지불됨.
- ※ 이상 전기총의 저서에서 인용

■ 원화작자

골레망세가 직접 그렸다는 설도 있지만 확인된 것은 없다.

■ 에세이(시작품)와 시채



원판 시채 형태의 에세이(김요지)

독수리 보통우표 1전 시채(김요지)

에세이와 실제 우표와의 차이점은 도안의 중앙에 있는 독수리 문양, '國' 한자 표기 및 한글 '국'자 모양 등을 수정한 부분에서 확인된다. 액면 2전의 원판 에세이와 액면 1전으로 된 에세이 3종, 그리고 색도 에세이의 액면은 1전이나 각 액면별 색도와 같은 채색으로 인쇄된 에세이 13종이 보고되어 있다. 현재까지 최종 도안으로 확정된 색도 시채는 2리, 1전, 5전, 6전, 10전, 20전, 50전, 1원, 2원, 계 9종이 발견되어 있다.



원판 시채 형태의 에세이(김요지)

원판 시채 형태의 에세이(김요지)

# 出品者プロフィール



*Philatelic Federation of Korea*

韓国郵趣連合

韓国郵趣連合は、大韓民国における国際郵趣連盟（F.I.P.）加盟団体です。  
<http://www.woopyo.net>



## スタンペックスジャパン2026

### *Mr. T Collector - A story of travel and philately -* コレクター T 氏 - 旅と切手の物語 -

作品番号 No. L5

郵趣文献部門（単行本）

出品者：滝川 忠

趣味は、何の趣味であれ、趣味者の人生を豊かにすると言われる。

僕は少年時代から「切手蒐集」が趣味であったから、切手で、長い人生を培って来た。切手はあんな小さな世界だが、方寸の芸術と言われ、そこにはあらゆる文化や歴史、芸術や産業、風習などがあり、強いては各国との外交官でもあったから、そこから多くを学び、楽しんで人生を潤し、それはやがて人間形成の糧となった。

切手蒐集は、室内や机上の趣味で、言うなら孤独者の趣味だった。そのためと言おうか、多くの収集家仲間と交流したら楽しさは倍増するだろうと思い、四十代半ば、郵趣通信「随想・郵趣漫步」（今日の「趣味に生きる」）を発行した。その通信の中に「切手物語」を掲載したら誌面は賑わうであろうし、交流する読者にも喜ばれるのではないかと考えた。それが端緒だった。そうして短編小説「コレクター T 氏」の物語を紡いだ。

小説は「旅情と郵趣」、平たく言えば「旅と切手」の物語で、様々な年代や時節に、日本の何処かを旅行し、その折節に何らかの切手に遭遇すると言う、各話が独立した物語である。旅行で切手に出会った見聞記と言おうか。場合には、切手があって旅行を想起した断と言おうか。

それがいつしか十話を教えるに至った。区切りのよいところで上梓を考え、そうして本書を編んだ。本響が広く読者に喜んでもらえば幸いである。

# コレクターT氏

— 旅と切手の物語 —



滝川 忠

「私はあれに決めた」

匡が見やると、それは美しくて優雅で、夏にはお誂え向きの涼しそうな和服だった。

「あれを貰ったら、来年の夏、また京都に来よう」と、匡は言った。

「そうして、あの西陣織を着て」

と、夫人は夢見るように言った。

「夜の京の街をそぞろ歩くのだけ。風流ね」

「それはいい絵になるだろう」と、匡は言った。

それから匡は景品全体を見渡した。今度は自分が受け取る景品探しである。当選者は百五十名と言うから、飾られた景品は相当な数だった。匡は迷い、時間ばかり掛かったが、しばらくして、テントの奥の壁に飾られた小ぶりの額縁に気付いた。係員に見せてもらったら、中身はたった一枚の切手だった。

匡は切手を見た。それは龍一銭切手の使用済だった。龍一銭切手には版が1・2・3の三つあり、使用済と言っても1版と3版は特に高価で、サラリーマンの匡の小遣いでは全く手の出ない切手だった。

匡はポケットからルーペを取り出して切手を見た。一瞥するや、匡の気持ち騒いだ。それはあろうことか何と3版の使用済だった。



## 出品者プロフィール



*Mr. TAKIGAWA Tadashi*

滝川 忠 氏

1939 年生まれ 北海道旭川市在住

小学 5 年生より蒐集開始

範囲：日本切手全般

本書には多くの方よりご感想をいただいておりますが、その中で、左ページで紹介した切手について、識者より「竜 1 銭は第 3 版 38 番ですが、目打が竜銭短器 D11（整ピッチ）で穿孔されており秀逸です。竜 1 銭では新発見となる貴重な一品です。」とのコメントを頂戴しましたので、紹介させていただきます。

## 全国切手展「スタンペックスジャパン」の歴史

全国切手展「スタンペックスジャパン」は、2019年（令和元年）に、郵政博物館（公益財団法人 通信文化協会）と特定非営利活動法人 郵趣振興協会（以下、「当協会」）により翌年からの開催が企画された全国切手展です。

国際郵趣連盟（FIP）の定める審査規則を適切に運用する為、審査員の人選はじめ、我が国で開催される全国切手展の中で、FIPの審査基準に最も準拠する度合いが高く、審査結果が世界的に通用する切手展です。

このような展覧会の性格が形作られた背景には、当協会の吉田敬理事長が展覧会の企画にあたり、国際切手展における審査経験が日本人の中で突出して多く、世界中の多くの審査員から尊敬の念で接されている佐藤浩一<sup>\*1</sup>にプロジェクト立ち上げへの参画を要請し、両者で数ヶ月に渡り納得のいくまで議論を行ったことがあげられます。

以前は、国際切手展への出品に慣れていないと、国内切手展での高評価にも拘わらず思いがけない結果に落胆された経験をお持ちの方も少なくなかったようです。そのような失望を防ぐ為に、我が国初の、世界切手展基準の審査と指導を受ける場として、郵政博物館と郵趣振興協会により開始された展覧会がスタンペックスジャパンです。本展覧会のクリティーク、ホームページや講演の活用を経て、以後の国際展で飛躍されたフィラテリストを多数輩出して参りました。

毎年桜の咲く時期の前後に開催しております。本展覧会にご出品された皆様の国際切手展での活躍を祈念いたします。

<sup>\*1</sup> 国際郵趣連盟（FIP）伝統郵趣コミッション チェアマン、伝統郵趣・郵便史・文献部門におけるチームリーダー 資格及びジュリー・セクレタリー資格を持つFIP登録審査員

## A History of Stampex Japan

Stampex Japan is a nationwide stamp exhibition planned by the Postal Museum Japan and the Society for Promoting Philately in 2019.

In order to properly apply the judging rules set by the FIP, this exhibition is the most highly compliant of all the national stamp exhibitions held in Japan with respect to the FIP's judging standards, including the selection of judges, and the results of the judging are accepted worldwide.

The background to the development of this exhibition is that Mr. YOSHIDA Takashi, President of the Society for Promoting Philately, asked Mr. SATO Koichi<sup>\*1</sup>, who has overwhelming experience in judging international stamp exhibitions than any other Japanese judge and is held in high esteem by many judges around the world, to participate in the launch of the project, and the two sides discussed the project for several months until they were satisfied with the outcome.

In the past, many Japanese exhibitors who were not accustomed to exhibiting at international philatelic exhibitions were disappointed by unexpected results despite the high evaluation of their collection at domestic exhibitions. Stampex Japan is the first Japanese stamp exhibition to be judged and guided by the World Philatelic Exhibition standards to prevent such disappointments. Through the use of this exhibition's critiques, website, and lectures, many exhibitors have made great strides at international exhibitions since then.

The exhibition is held every year around the time the cherry blossoms bloom. We wish all the exhibitors' great success at international philatelic exhibitions.

<sup>\*1</sup> FIP Traditional Philately Commission Chairman, FIP accredited Jury ; Team Leader of Traditional Philately, Postal History and Literature Classes, FIP Jury Secretary.

全国切手展「スタンペックスジャパン」受賞履歴（抜粋）2021～2025年

本展覧会にご出品された皆様の国際切手展でのご活躍を祈念いたします。

<p><b>STAMP JAPAN EXHIBITION 2021 X</b></p> <p>2021/4/10-12 実行委員長 安藤源成 審査員長 佐藤浩一 審査員 山崎文雄、山田廉一</p>	<p><b>Grand Prix</b> POSTAL CARDS OF JAPAN 1873-1874, Mr. SAI Toru</p> <p><b>Special Prize</b> France 1849-1862, Mr. ARIYOSH Japan Definitives 1937-1940, Ms. KIKUCHI A Postal History of Japan 1937-1946 Mr. YAMAMOTO</p> <p>全16作品（伝統郵趣6、郵便史8、ステーションナリー2）</p>	<p><i>Grand Prix Winner</i></p>  <p><i>Mr. SAI Toru</i></p>
<p><b>STAMP EXHIBITION STAMPEX JAPAN 2022</b></p> <p>2022/3/26-28 実行委員長 斎享 審査員長 佐藤浩一 審査員 山崎文雄 アプレントイス 吉田敬</p>	<p><b>Grand Prix</b> Japan Definitive Issues 1914 - 1925, Mr. NIWA Akio</p> <p><b>Special Prize</b> Japan Definitives 1937-1940, Ms. KIKUCHI JAPAN CHRYSANTHEMUM SERIES 1899 - 1910 Mr. MURAYAMA Postal History of Japanese Special Delivery Mail by the name of "Sokutatsu" 1911-1948 Mr. YOKOYAMA</p> <p>全14作品（伝統郵趣7、郵便史5、ステーションナリー2）</p>	<p><i>Grand Prix Winner</i></p>  <p><i>Mr. NIWA Akio</i></p>
<p><b>STAMP EXHIBITION STAMPEX JAPAN 2023</b></p> <p>2023/3/25-27 実行委員長 守川環 審査員長 佐藤浩一 審査員 ファン・チェンフェイ、設楽光弘、山田廉一、吉田敬</p>	<p><b>Grand Prix</b> Hawaii, Mr. YAMAZAKI Fumio</p> <p><b>Special Prize</b> Japan Etched Stamps, Mr. KURODA France 1849-1862, Mr. ARIYOSH Early Mail and The Foreign Post Offices in China, 1745-1898, Mr. OHBA</p> <p>全12作品（伝統郵趣7、郵便史4、ステーションナリー1）</p>	<p><i>Grand Prix Winner</i></p>  <p><i>Mr. YAMAZAKI Fumio</i></p>
<p><b>STAMP EXHIBITION STAMPEX JAPAN 2024</b></p> <p>2024/3/30-4/1 実行委員長 横山裕三 審査員長 佐藤浩一 審査員 アンドリュウ・チョン、山田廉一、吉田敬</p>	<p><b>Grand Prix</b> France 1849-1862, Mr. ARIYOSHI Nobuto</p> <p><b>Tejima Yasushi Award</b> Japan Etched Stamps 1871-1876, Mr. KURODA</p> <p><b>Special Prize</b> Postal History of Jianzhou in China 1898-1949, Mr. FUKUDA</p> <p><b>Best One-Frame</b> 1943 MALAY 4C POSTAL CARD, Ms. KIKUCHI</p> <p>全21作品（伝統9、郵便史4、ステーションナリー2、ワンフレーム3、文献3）</p>	<p><i>Grand Prix Winner</i></p>  <p><i>Mr. ARIYOSHI Nobuto</i></p>
<p><b>STAMP EXHIBITION STAMPEX JAPAN 2025</b></p> <p>2025/3/29-3/31 実行委員長 横山裕三 審査員長 アンドリュウ・チョン 審査員 設楽光弘、山田廉一、吉田敬</p>	<p><b>Grand Prix</b> Japan Etched Stamps 1871-1876, Mr. KURODA Takashi</p> <p><b>Tejima Yasushi Award</b> JAPAN : Showa Series, 1937-46, Mr. ITOH</p> <p><b>Special Prize</b> Indian China Expeditionary Force 1900-1923, Mr. KOIWA URUGUAY 1856-1884, Mr. MAKIHARA</p> <p>全24作品（伝統8、郵便史5、ステーションナリー1、ワンフレーム1、文献9）</p>	<p><i>Grand Prix Winner</i></p>  <p><i>Mr. KURODA Takashi</i></p>

- 全国切手展 スタンペックスジャパンのあゆみ -

第1回全国切手展 2020.3.6-8    第2回全国切手展 2021.4.10-12    第3回全国切手展 2022.3.26-28    第4回全国切手展 2023.3.25-27    第5回全国切手展 2024.3.30-4.1



第6回全国切手展 2025.3.29-3.31



## 世界切手展

令和2年2月22日(水)～4月5日(日)

**第1部 スポーツ切手展**  
2月22日(土)～3月1日(日)

**第2部 競争切手展**  
スタンペックスジャパン2020  
3月6日(金)～3月10日(火)

このコーナーに大人気な選手やチームの切手を集め、収めたコレクションを競う世界唯一の大会が開催される。ご存続ですか？スタンペックスジャパン、日本におけるこの感動レベルの競技です。切手コレクションの専業主婦、ぜひご参加ください。

**第3部 from 1896 to 2016**  
3月14日(土)～4月5日(日)

※第1部及び第2部の企画展等は別途、実施展示場のみになります。

春休み特別展示 (各自のスペース)  
いりやまとし  
「パンダたいそう」絵本原画展  
3月20日(金)～4月5日(日)

休館日：3月4日(水)・5日(木)  
開館時間：10:00～17:30(入館は17:00まで)  
※3月10日(火)のみ開館時間は13:30で終了  
主催 郵政博物館、公益財団法人日本文化協会  
特定非営利活動法人郵電振興協会  
協力 株式会社講談社(郵研イベント)

**郵政博物館**  
POSTAL MUSEUM JAPAN

**ご招待券** [非売品]  
(1枚につき御1人様1回有効)

### スタンペックスジャパン2025

全開切手展 410円～413円

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION  
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN, TOKYO METSILE TOWN, SAKURAJI

**ご招待券**  
1枚につき御1人様1回有効  
2025年3月29日～31日有効

10円(土) 10時～16時  
11円(日) 10時～16時  
12円(月) 10時～16時  
13円(火) 10時～16時  
※成人専用(16歳)

**郵政博物館**  
POSTAL MUSEUM JAPAN

### スタンペックスジャパン2022

全開切手展 326円～328円

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION  
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN, TOKYO METSILE TOWN, SAKURAJI

**ご招待券**  
1枚につき御1人様1回有効  
2022年3月26日～28日有効

26円(土) 10時～16時  
27円(日) 10時～16時  
28円(月) 10時～16時  
※成人専用(16歳)

**郵政博物館**  
POSTAL MUSEUM JAPAN

### スタンペックスジャパン2023

全開切手展 325円～327円

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION  
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN, TOKYO METSILE TOWN, SAKURAJI

**ご招待券**  
1枚につき御1人様1回有効  
2023年3月25日～27日有効

25円(土) 10時～17時  
26円(日) 10時～17時  
27円(月) 10時～17時  
※成人専用(16歳)

**郵政博物館**  
POSTAL MUSEUM JAPAN

### スタンペックスジャパン2024

全開切手展 330円～414円

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION  
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN, TOKYO METSILE TOWN, SAKURAJI

**ご招待券**  
1枚につき御1人様1回有効  
2024年3月30日～4月1日有効

330円(土) 10時～17時  
331円(日) 10時～17時  
41円(月) 10時～17時  
※成人専用(16歳)

**郵政博物館**  
POSTAL MUSEUM JAPAN

### スタンペックスジャパン2025

全開切手展 329円～31円

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION  
AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN, TOKYO METSILE TOWN, SAKURAJI

**ご招待券**  
1枚につき御1人様1回有効  
2025年3月29日～31日有効

329円(土) 10時～17時  
330円(日) 10時～17時  
331円(月) 10時～17時  
※成人専用(16歳)

**郵政博物館**  
POSTAL MUSEUM JAPAN

2020年は緊急事態で中止となりました。

## 本展覧会にご寄付を下さった方々 Donors to the Exhibition

スタンペックスジャパン運営寄附（1口二千円）にご協力くださった皆様

許埴 様 <i>Mr. Jin HUR</i> (15 口)	菊地恵実 様 <i>Ms. KIKUCHI Emi</i> (2 口)
手嶋康之 様 <i>Mr. TEJIMA Yasuyuki</i> (5 口)	横山裕三 様 <i>Mr. YOKOYAMA Hiromi</i> (2 口)
山田 廉一 様 <i>Mr. YAMADA Ren-ichi</i> (5 口)	中野健司 様 <i>Mr. NAKANO Kenji</i> (2 口)
守川環 様 <i>Mr. MORIKAWA Tamaki</i> (5 口)	伊藤文久 様 <i>Mr. ITO Fumihisa</i>
池田健三郎 様 <i>Mr. IKEDA Kenzaburo</i> (5 口)	斎藤環 様 <i>Mr. SAITO Tamaki</i>
吉田敬 様 <i>Mr. YOSHIDA Takashi</i> (5 口)	越農雄二 様 <i>Mr. KOSHINO Yuji</i>
小藤田紘 様 <i>Mr. KOFUJITA Hiroshi</i> (4 口)	山崎文雄 様 <i>Mr. YAMAZAKI Fumio</i>
松田伸裕 様 <i>Mr. MATSUDA Nobuhiro</i> (3 口)	立山一郎 様 <i>Mr. TATEYAMA Ichiro</i>
鎌倉達敏 様 <i>Mr. KAMAKURA Tatsutoshi</i> (2 口)	新井理 様 <i>Mr. SHIN-I Tadasu</i>
北野雅利 様 <i>Mr. KITANO Masatoshi</i> (2 口)	菊池達哉 様 <i>Mr. KIKUCHI Tatsuya</i>
増山三郎 様 <i>Mr. MASUYAMA Saburo</i> (2 口)	斎亨 様 <i>Mr. SAI Touru</i>
槇原晃二 様 <i>Mr. MAKIHARA Koji</i> (2 口)	安藤源成 様 <i>Mr. ANDO Gensei</i>
伊藤純英 様 <i>Mr. ITOH Sumihide</i> (2 口)	須谷伸宏 様 <i>Mr. SUDANI Nobuhiro</i>
安藤裕 様 <i>Mr. ANDO Hiroshi</i> (2 口)	加藤茂樹 様 <i>Mr. KATO Shigeki</i>
穴戸俊介 様 <i>Mr. SHISHIDO Syunsuke</i> (2 口)	宮崎幸二 様 <i>Mr. MIYAZAKI Koji</i>
若桑正一 様 <i>Mr. WAKAKUWA Shoichi</i> (2 口)	黒田卓 様 <i>Mr. KURODA Takashi</i>
永井正保 様 <i>Mr. NAGAI Masayasu</i> (2 口)	木戸裕介 様 <i>Mr. KIDO Yusuke</i>
小判振舞処 様 <i>Koban Furumai-Dokoro</i> (2 口)	藤本博嗣 様 <i>Mr. FUJIMOTO Hirotsugu</i>
水谷行秀 様 <i>Mr. MIZUTANI Yukihide</i> (2 口)	池原郁夫 様 <i>Mr. IKEHARA Ikuo</i>

2026年3月9日受付分までを掲載

「スタンペックスジャパン運営寄附」以外のご寄付

- (1) スタンペックスジャパン 2025 文献部門 出品コレクションの販売代金  
23,800 円
- (2) ジャパン・フィラテリスト・サミット2026 特別協賛  
スタンペディアオークション株式会社 Stampedia Auction, inc. 33 万円

スタンペックスジャパンの運営にかかる経費は、郵趣振興協会 会員（正会員・賛助会員）の納めた年会費の一部、ならびに本展覧会に対するご寄付により賄っております。

「スタンペックスジャパン運営寄附」は、会期中も 1 口 2 千円 で、博物館入口近くの「ディーラーブース 兼 郵趣文献部門 リーディングルーム」にて承ります。本展覧会の安定した運営の為に、ご協力いただけましたら幸いです。

# PHILATAIPEI 2026 へのお誘い

仙台・東京・新潟から4時間、関空・博多からなら3時間前後で行ける台湾は、文化・食も我が国に近いことから、過去には年間200万人もの日本人が訪れているそうです。読者の皆様の中にも、訪台経験をお持ちの方は少なくないのではないかと思います。

そんな魅力あふれる台湾・台北で今年11月に世界切手展 PHILATAIPEI 2026 が開催されます。昨年開催された韓国に引き続き、日本から近い場所での開催です。近い！美味しい！行きやすい！三拍子揃った PHILATAIPEI 2026。この機会に是非渡航も合わせてご検討いただき、出品、参観を通してチーム日本で楽しい国際展にしていきましょう。

ちなみに、国際展出品者にとっては、今からでも出品締切に間に合う2026年唯一の世界切手展ですので、貴重な機会です。台北世界展への出品を是非ご検討しませんか？

なお、コミッショナーは、昨年末に出品者によるオープン・ディスカッションを通じて選出されましたので、出品者ファーストでコミッショナー業務を遂行していく所存です。どうぞよろしくお願い致します。

なお、ご出品者の方への詳細情報の開示にあたり、2025年12月15日より、郵趣振興協会HP (<https://kitte.com> 以下QRコード) に間借りし、情報発信を開始しておりますので合わせてご覧ください。



PHILATAIPEI 2026 コミッショナー (日本)

菊地 恵実

木戸 裕介 \*

\* 木戸裕介はセカンドコミッショナー選定条件を満たした後に正規のコミッショナーとなります。

PHILATAIPEI2026 出品ご希望の方は、HP 掲載の同展覧会の IREX (原文) を必ずご覧の上、下記期日までに日本コミッショナーまで申込書とタイトルページ (任意: シノプシス) をご提出ください。

**出品締切 2026年3月15日(日)**

**連絡先 tp2026@kitte.com**

※このメールアドレス宛のメールは、日本コミッショナーおよび  
コミッショナーアドバイザー会議メンバーが内容を見ます。

出品締切日ですが、スタンペックスジャパン2026にご出品される方から、「スタンペックスジャパン2026の結果が出てから申込書を提出したいので、出品申込締切日を延期できないでしょうか」とご相談をいただきました。

より多くの作品を集める事もコミッショナーの重要な仕事の一つのため、ご要望にお応えすべく現在組織委員会に延期できないかを打診しております。ただ、まだどうなるか不明な状態ですので、現時点では3/15(日)で一旦締切とさせていただきます。こちらについては、組織委員会から何らかの返答をいただき次第、ブログで報告予定です。

中華郵政130週年紀念



1896|2026

CHUNGHWA POST 130

PHILA  
TAIPEI



臺北

2026世界郵展  
2026 World Stamp  
Championship Exhibition

11.20-25

台北世貿一館

Taipei World Trade Center, Exhibition Hall 1



- |                          |  |
|--------------------------|--|
| 主辦單位                     | 中華郵政股份有限公司<br>中華集郵團體聯合會<br>中華民國對外貿易發展協會  |
| 贊助單位                     | 國際集郵聯合會  |
| 認可單位                     | 亞洲集郵聯合會  |
| Organizer                | Chunghwa Post Co., Ltd.<br>Chinese Taipei Philatelic Federation<br>Taiwan External Trade Development Council |
| Patronage<br>Recognition | Fédération Internationale de Philatélie<br>Federation of Inter-Asian Philately                               |



中華郵政  
CHUNGHWA POST

<https://taipei2026.post.gov.tw>

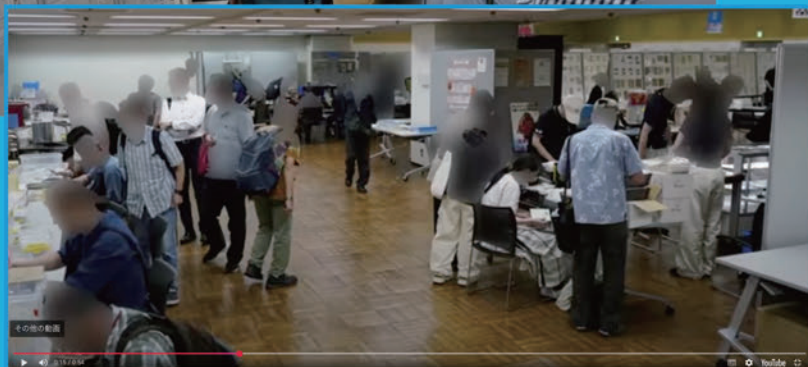
[AD]

全日本切手まつり2026展示作品募集開始

# 今年も夏が やってくる

全日本切手まつり2026は、昨年7月よりも広くなった会場で、展示・催事を開催します。

<https://www.stamp.tokyo/>



会期：2026年7月18日（土）～20日（月祝）

会場：錦糸町マルイ8階すみだホール

主催：スタンペディア、錦糸町マルイ

1

## 今年から、二つの切手展は一緒になります！

2023年から始まった「東京ワンフレームチャンピオンシップ」に、規模の大きい「全日本切手まつり」が昨年加わり、真夏の切手展は質量ともに充実したものに変わりました。

その一方、二つの切手展の関係が気になる方もちらほら。混同させる要素を廃すべく、2026年より、「東京ワンフレームチャンピオンシップ」を「全日本切手まつり」のワンフレーム部門として取り扱うことにしました。

「全日本切手まつり」の一部門になったとしても、「東京ワンフレームチャンピオンシップ」の魅力である(1)参加者投票によるチャンピオン決定、(2)リアル・ネットの複数箇所における展示、そして(3)チャンピオン作品の出品者への副賞の贈呈などは全て継続しますので、ご安心ください。

2

## 出品申込は早いもの順！

昨年は、71名180フレームもの出品が集まった「全日本切手まつり」。低廉な出品料金であることも魅力で、十分な展示作品が集まるのが分かりました。

その一方、『申し込んでから出品可否が判明するまで最大4ヶ月待たされる間、ドキドキする』という声も。

そこで今年は、出品可否の選定は作品が集まってからではなく、1ヶ月に数回行い、随時出品者に結果をフィードバックすることにしました。

部門ごとに応募上限を定め、超えたか否かの情報をホームページで公開します。各部門とも、応募上限に達しない間は、出品可否の選定は早い者順となります。出品意欲のある方は、どうぞお早めに出品申込を行ってください(出品申込書もしくは出品申込ホームページにて)。



出品申込書



出品申込ホームページ

3

## 企画展示「生き物(錦糸町動物園)」を開催

全日本切手まつりの強みの一つは、主催に「錦糸町マルイ」が加わっていること。昨年は館内放送で切手展の案内を何度もいただきました。

本年は、館内放送の効果を最大に高めるために、一般の方に馴染みがあり、「見てみようかな!」という気持ちを喚起させやすい、企画展示「生き物(錦糸町動物園)」の実施を予定しています。

企画展示でご出品をお申し込みの場合は、出品申込で、作品の種類として、「企画展示(生き物)」を選択してください。生き物の切手コレクションの展示であれば、動物、海の動物に関わらず作品を募集します(なお人間は対象外とします)。

これ以外の昨年好評だった取り組みは全て継続予定です。また、全国有名切手商様より、ブース出店のお申し込みを既に多数いただいております。今夏の「全日本切手まつり2026」をどうぞご期待ください。

入場  
無料

# 全国より30社が出店 切手とコインの即売会

## 第39回 JSDA 切手まつり 第35回 さくらコインショウ

2026年 3月20日(金祝) 11:00 ~ 18:00  
21日(土) 10:00 ~ 18:00  
22日(日) 10:00 ~ 16:00

※最終日 入場は15:30分まで

【会場】 日本橋プラザ 3階 展示室

【主催】 日本郵便切手商協同組合 いずみ会 【後援】 日本貨幣商協同組合

### 出店社 (五十音順)

アベノスタンプ・コイン社/アローインターナショナル/薄井美術店/駅前コイン/エーススタンプ/  
ケネディ・スタンプ・クラブ/公博(GBCA)/コレクションハウス/収集ワールド/新橋スタンプ商会/  
杉本梁江堂/世界コイン/セキグチ/世田谷スタンプ・コイン/大日スタンプ・コイン/日本郵便趣味協会/  
ネットジャパン/野崎コイン/八王子ムササビコイン/ファミリースタンプ/フクオ/フクオ・スタンプ社/  
松浦古銭堂/ユキオスタンプ/陽光郵泉社/レトロコイン/ワタナベコイン/和楽屋/ワールドコインズ・  
ジャパン/BTコレクション

### 会場で切手・コイン 買い取ります！

会場内「無料鑑定・買取り  
コーナー」にて、  
切手・コインの買取を行います。金・銀・プラチナも  
歓迎。ぜひ、お持ちより  
下さい。



日本郵便切手商  
協同組合 HP



最寄り ●東京駅八重洲北口 ●地下鉄日本橋駅B3出口  
東京都 中央区日本橋2-3-4

# 郵 趣 振 興 協 会

Society for  
Promoting Philately

## 第 10 期正会員・賛助会員を募集中です

未長くフィラテリーを楽しめる仕組み作りをする公益郵趣団体です。2017年から始まった活動は10期目を迎えます。郵政博物館との連携を基に全国切手展スタンペックスジャパンを主催するほか、オンラインの郵趣例会やコレクション展示の振興活動を行っています。

公益郵趣団体ではありますが、展覧会や各種行事の出品料割引など、特典を少しずつ拡充しています。是非会員となっただき、我が国における郵趣振興にご協力ください。

賛助会員の年会費は6,000円です。ご入会いただける場合は、詳細資料・入会用紙を郵送しますので、ご連絡ください。インターネットでも詳細を掲載しています。



102-0083 海事ビル内郵便局留置 郵趣振興協会

<http://kitte.com>

書 名：スタンペックスジャパン2026 公式ガイドブック

副 題：フィラテリストマガジン号外43号

発行日：2026年 3月10日

部 数：1,500部

発行者：無料世界切手カタログ・スタンペディア株式会社

発行人：吉田敬

編集部：菊地恵実、北川朋美

\* 当誌は「スタンペディア日本版」の機関誌です。

Name of the book: The Official Guide of the Stampex Japan 2026

Sub Name: The Philatelist Magazine Extra Edition 43

Date of issue: March 10th 2026

Number of printing 1,500 copies

Publisher: Stampedia, inc. Takashi Yoshida

Editor: E. Kikuchi, T. Kitagawa

2026

STAMP EXHIBITION

STAMPEX JAPAN

# STAMPEX JAPAN 2026

28TH-30TH MARCH

NATIONAL PHILATELIC EXHIBITION

AT THE POSTAL MUSEUM JAPAN  
TOKYO SKYTREE TOWN "SORAMACHI"



<https://stampex.jp>

